

第2部

履修ガイド

国際コミュニケーション学部

平成25年度入学生用

1. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

＜大学の方針＞

椋山女学園大学では、その教育理念「人間になろう」、「椋山女学園大学の目的」、「ディプロマ・ポリシー」等の具現化を期し、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成・実施します。

1. 開講する授業科目は、全学共通科目「人間論」、教養教育科目、専門教育科目、資格関連科目等とします。
2. 教養教育科目と専門教育科目を学士課程教育の核として捉え、両科目をバランス良く配列します。
3. 教養教育科目を全学共通化するとともに、専門教育科目等を精選し、学生の学びが基礎から応用へと発展的に進むように配列します。
4. 身に付いた知識・技術等を統合し、集大成するために卒業論文又は卒業研究等を課します。
5. 初年次から卒業まで、学生が目的、意欲的に学べるように、各学年の履修ガイダンスをきめ細かく実施します。また、いつでもどこでも必要な支援が得られるよう学修支援体制を整備します。
6. シラバスについては、そのコンテンツに「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「何ができるようになるか」という学習成果を加えるとともに、教室外の学習時間の確保や成績評価の基準についてもその内容を明示します。
7. キャリア教育を全学化し、学生の職業的・社会的自立と就業力の育成を図ります。

＜学部・学科の方針＞

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
国際コミュニケーション学部	<p>国際コミュニケーション学部は、「ことばの力」について学び、外国語及び日本語に関する知識と技能を高めながら、自らのものの考え方を育成するカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 両学科で共通に開かれている「専門共通科目」とそれぞれの学科で開かれている「学科専門科目」がありますが、「学科専門科目」についても両学科の学生が履修できるシステムとする。 2. 「学科専門科目」は、両学科とも、4つの科目群に分け、学生の履修科目選択の自主性を重視するかたちで編成する。 3. 「卒業論文準備科目」を3年次と4年次に履修させ、卒業論文テーマに関連した知識、研究方法、論理的思考力等を育成するように、丁寧な個別指導を行う。
国際言語コミュニケーション学科	<p>国際言語コミュニケーション学科は、高度な外国語能力と専門としての言語文化知識の修得が教育課程の目標です。そのために設置された外国語（アドヴァンスト）科目群、英語コミュニケーション科目群、英語文化圏科目群、ヨーロッパ文化科目群に基づいて、外国語能力を修得し、異文化を理解する力、課題の発見と解決をする力を育成するカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門教育の基礎として1年次に外国語の必修科目を多く配置し、外国語能力の修得を図る。2年次以降は、上級外国語修得のため、アカデミックな外国語、実用的外国語、資格外国語など学習者の志向に幅広く対応する。 2. 教科書による外国語学習に加えて、「外国語を実際に使う」場面を多く提供する。そうした活動の集大成として海外留学を教育課程に位置づけ、多様な留学プログラムを提供する。

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
	<p>3. 卒業後の「コミュニケーションのプロ」を具体的に想定し、その達成に向けて外国言語文化に関する専門科目群の編成を行う。その一方で、専門関連科目に配置した日本語学、日本文化の科目、さらには自由選択の枠で表現文化学科の科目を履修できるようにすることで、多様な履修形態を可能にする。</p> <p>4. 2年次の教養演習（発展）、3、4年次の卒業論文準備科目と各学年に少人数の演習科目を配置し、卒業論文完成に導くカリキュラムを編成する。特に、外国語教育と専門教育の成果として、英語による卒業論文作成を積極的に推進する。</p>
表現文化学科	<p>表現文化学科は、幅広い教養教育科目、外国語科目、全学共通の「人間論」を基盤とし、その上に次のような編成方針による専門科目を積み上げることにより、文化・表現に対する教養を深め、「ことばの力」についての理解を有し、総合的な人間力を備えた人材を育成するカリキュラムを編成します。</p> <p>1. 専門分野に関する基礎的な知識・能力を身につけるため、学科専門科目・専門共通科目を設ける。専門共通科目は、国際コミュニケーション学科と共通の科目として、両学科間の知識・能力の共通化を図る。</p> <p>2. 学科専門科目・専門共通科目においては、時代的・地域的の広がりを持つ知識・教養を身につけるとともに、創造的な技術・能力を身につけるために、次の（3、4）の方針により、4つの科目群を設ける。</p> <p>3. 国内外のクラシックに文化・表現の本質を学び、現代における新しい価値を発見する（クラシック・スタディーズ科目群）とともに、現代的なテーマの考察を通じて、身近な場所から世界までを深く広く考える力を身につけ（モダン・スタディーズ科目群）、さらに時代の先端の文化を分析・批評・評価する力を身につける（ポップカルチャー・スタディーズ科目群）ことを目指す。</p> <p>4. 具体的な表現形態に即して表現論理・表現技術を学び、個性的で新しい文化的表現を創造し、発信する能力を身につける（クリエイティブ・スタディーズ科目群）ことを目指す。</p> <p>5. 卒業論文の作成に向けて、3、4年次を通じて専門分野を集中的に学ぶ（卒業論文準備科目）。それを通じて、文化・表現の分野についての専門的考察をさらに深めるとともに、洞察力、調査能力、問題解決能力、自己表現力等を磨く。</p>

2. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

＜大学の方針＞

椋山女学園大学では、本学に4年以上在学して所定の単位を修得し、かつ次のような能力を身に付けた人に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 基礎体力及び健全なこころとからだ
2. 文化、社会、自然等に関する基礎的な知識・理解
3. コミュニケーション・スキル、数量的スキル、問題解決能力等の汎用的技能
4. 自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等の態度・志向性
5. 上記の1～4を基盤として涵養される情操、創造力、批判的思考力、実践力等からなる人間として善く生きる力

＜学部・学科の方針＞

学部・学科名	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
国際コミュニケーション学部	<p>国際コミュニケーション学部は、「コミュニケーション能力」を持った「言語・文化の専門家」を育成することを教育目標にし、次の能力を身につけた人に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語と文化に関する確かな知識を修得し、社会の中で活躍することができる能力（知識・理解）。 2. 外国の社会文化と比較し、日本の社会文化の認識を深める能力（分析・判断）。 3. 外国語あるいは日本語による自己表現能力を高め、コミュニケーション能力（技能・表現）。
国際言語コミュニケーション学科	<p>国際言語コミュニケーション学科は、外国語特に英語による「コミュニケーションのプロ」を育成することを教育目標とし、その実現を意図した教育課程を編成しています。卒業までに次の資質を身につけた人に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国語とコミュニケーションに関する確かな知識を修得し、異文化の多様な側面を理解することができる（知識・理解）。 2. 高度な外国語能力をもとに、相手の立場を把握しながら、コミュニケーション上の問題を理解することができる（分析・判断）。 3. 外国語による自己表現力を高め、異文化において人間関係を形成し発展させることができる（技能・表現）。 4. 国際的な視野を育成するために、多様な科目選択、卒業研究を通じて、自らの関心に基づいた主体的な学修ができる（関心・態度）。
表現文化学科	<p>表現文化学科は、文化的素養を基礎として、他者への理解と適切な自己表現の力を身につけ、多様化する社会で活躍できる学士力を有すると認められた人に学士の学位を授与します。</p> <p>卒業者に求められる学士力に関する主な内容は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自国の文化、諸外国の文化に関する豊かな知識と理解 2. 「ことば」を中心とする様々な形態の表現を分析し理解する能力 3. 文化的専門分野に関する深い考察を通じて身につけた洞察力と問題解決能力 4. 新しい文化的価値を自ら生み出し表現する能力 5. 他者への理解力と適切な自己表現力に支えられたコミュニケーション能力

3. カリキュラムの特色・構成・趣旨

本学部の授業科目は「全学共通科目」「教養教育科目」「専門教育科目」から成っています。このうち「教養教育科目」は「領域1～7」から成り、「専門教育科目」は「専門共通科目」「学科専門科目」「卒業論文準備科目」及び「卒業論文」から成っています。

カリキュラムの編成上、一番の特色は、2つの学科に共通の科目が多いということです。2学科共通の「教養教育科目」の上に、「専門教育科目」が配置されていますが、その「専門教育科目」の中でも「専門共通科目」「卒業論文準備科目」「卒業論文」は2学科共通で、各学科固有の科目は「学科専門科目」のみという編成になっています。しかも、この「学科専門科目」には、2学科間相互に開放された科目が多数設定されており、シラバス（授業内容一覧）では各学科の専門科目の後に「共通関連科目」として一括掲載されています。これは、学生の皆さんの知的関心の多様性に応えるための方策です。

また、卒業要件126単位中、自由選択を24単位認めており、意欲のある学生はこの単位の範囲内で、他学部、他学科（開放科目のみ）の授業を受講できます。青年期は、自己認識や世界・社会に対する認識が大きく変動したり、それに応じて将来に描く夢や希望が変化したりする時期です。このような変化・変動に柔軟に対応できるカリキュラムこそ、新しい時代の文系学部に求められるべきものであろうと考えています。

カリキュラムの趣旨と概要を以下に記します。

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 全学共通科目
「人間論」 | <p>本学では、建学の精神「人間になろう」の理念を皆さんに体得していただくために、「人間論」を全学共通の必修科目としています。</p> <p>本学部では、すべての学問、知識、技術は人間に対する豊かな共感と深い思索を伴って初めて十分な意義を発揮するという認識のもとに「人間論」を開講しています。皆さんには、この科目を通じて人間の洞察ならびに自己認識を深めていただきたいと考えています。</p> |
| 2. 教養教育科目 | <p>教養教育科目は、「領域1」～「領域7」から成ります。</p> <p>○領域1「思想と表現」</p> <p>人類が築き上げた思想、芸術、文化等ならびにその受容のあり方を学び、人間の精神活動全般への理解を深めることによって、人間的事象に対する正確な判断力と豊かな自己表現能力の基礎を養うことを目的としています。</p> <p>○領域2「歴史と社会」</p> <p>現代に至るまでの人類の歩みや、社会のさまざまな仕組み・事象を総合的に理解する能力を養うことを目的としています。地球上のさまざまな地域の人々の歴史、社会、生活のあり方を学ぶことにより、自分自身や世界の将来を切り拓く想像力を養ってください。</p> |

○領域3「自然と科学技術」

文明の誕生以来、人間社会は科学・技術の進歩と発展によって支えられてきました。その背景には地球とそこに棲む生物があり、人間はこれらの自然によって生かされて生活してきました。しかし、現代、人間社会は、環境・資源・人口など、人間の生存に関わる問題への新たな対応を迫られています。この領域は、自然と科学技術への深い理解に基づいた、人間の生き方に関する選択・決定能力を養うことを目的としています。

○領域4「数理と情報」

現代社会は、高度で高速な情報処理と伝達によって特徴づけられています。この領域では、コンピュータの情報処理システムの構造や原理、数理科学の思考方法や解析方法の基礎を学び、現代社会において必要とされる数量・空間感覚や情報を処理し活用する能力を養います。

○領域5「言語とコミュニケーション」

この領域は、国際化の浸透する現代社会を生きるための基本的能力である外国語コミュニケーション能力の養成を目的としています。

○領域6「健康運動とスポーツ」

充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフを創造するための知識や技術をスポーツを実践しながら体験します。

○領域7「教養演習等」

新入生の皆さんが最大限実り多い学生生活を送ることができるようにとの配慮から開設した科目で、1年次前期に開講される「教養演習（入門）」（必修科目）と、2年次前期に開講される「教養演習（発展）」（選択科目）とから成っています。前者では、大学での学習に備えるため少人数クラスで書物の読み方、資料の探し方、意見の発表の仕方、学術的な文章の書き方などを学びます、後者は、専門教育科目、特に3・4年次に開講される「卒業論文準備科目」全般に向けて、教養演習（入門）と同じ訓練をより専門的におこなうための科目です。

3. 専門教育科目

専門教育科目は、「専門共通科目」「学科専門科目」「卒業論文準備科目」「卒業論文」から成ります。

○専門共通科目

「国際言語コミュニケーション学科」「表現文化学科」の両学科に等距離に関わり、すべてテーマごとに教養基礎科目を発展させた科目と位置づけることができます。語学関係では、日本語教員資格に関する科目や、英語、ドイツ語、フランス語などの科目、またこれら外国語の資格に関する科目、さらに海外留学に関連した科目などが多

数開講され、国際コミュニケーション学部の学生にふさわしく、皆さんが《世界の中のわたし》という視点に立って、自分自身の母国語である日本語を再認識するとともに、外国語運用能力の向上と異文化理解の促進を図れるよう科目編成されています。また、すでに国際文化としての位置づけを得ている日本の文学、文化に関する科目も多く開講され、それらの学問的成果の理解を図ることができるよう科目編成されています。専門共通科目は、外国語に関わる科目を一括した「外国語科目」とその他の科目を一括した「専門関連科目」とに分けられていますが、皆さんは、これらの科目全体の中から自らの興味にもとづいて自由に履修し、学科専門科目や卒業論文準備科目での学修、研究がより幅広く、かつ深まるような知識や考え方を養ってください。

○学科専門科目

「国際言語コミュニケーション学科」「表現文化学科」それぞれに4つの科目群が設定されています。

【国際言語コミュニケーション学科】

①「外国語（アドヴァンスト）科目群」

スピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの4技能の徹底した訓練に加え、新聞・雑誌英語、観光専門英語、翻訳（英語）、通訳（英語）、英会話ストラテジー、ディスカッションなどを学びます。ドイツ語、フランス語の上級科目として、翻訳、会話などを学ぶこともでき、幅広い異文化コミュニケーションの能力を育成します。

②「英語コミュニケーション科目群」

外国語としての英語の仕組み、面白さを学びながら、コンピュータやインターネットと英語の関係など、「英語の現在」を分析し考察します。また、人と人とのコミュニケーションのあり方、コミュニケーションの理論などを修得し、人と人との相互理解を深める英語力、文化的スキルを養成します。

③「英語文化圏科目群」

異文化への理解がなければ外国語能力の上達には限界があります。英語が使われている地域のさまざまな文化、歴史、社会問題などを学ぶことによって、語り聴く内容の面からも英語力を高めてください。

④「ヨーロッパ文化科目群」

フランス語圏、ドイツ語圏の言語文化の学習を中心に、さらにヨーロッパ文化全体の根源をも学習するための科目群です。この科目群は「外国語（アドヴァンスト）科目群」と相俟って2言語以上の外国語理解に立つ国際性を身につけた人材を育てることを目標とします。

【表現文化学科】

①「クラシック・スタディーズ科目群」

クラシックとは、何百年にもわたって常に新鮮であることが実証されてきたものことです。クラシックを学習することにより、人類全体の文化的遺産についての教養を深めるとともに、《新しい自己》を発見する喜びを体験してください。

②「モダン・スタディーズ科目群」

人間の歴史を大きく塗り替えた「近代」の思想的基盤を、鋭く見抜く洞察力を養成する科目群です。法律論、社会論、ジェンダー論、文学論などの「論じる学」を講述し、現代の世界と文化のパラダイムを深く広く考察する力を養います。ドイツ語、フランス語の上級科目も数多く開講されています。

③「ポップ・カルチャー・スタディーズ科目群」

日常生活にあるさまざまな文化、ポップ・カルチャーは、私たちに一番身近な文化です。伝統との切断を意図した文化の様相に触れることで、変化する時代の先端に向けて自己発信するセンスを磨く科目群です。

④「クリエイティブ・スタディーズ科目群」

人は文化の中に生まれると同時に、文化を創りながら生きています。私たち一人ひとりが文化の創造者であり、文化の表現者なのです。日本語を用いて表現し、日本語を創造し、自己発信する能力を養成し、その楽しさを味わう科目群です。

○卒業論文準備科目

少人数クラスで行われる3、4年次開講の科目です。専門共通科目や学科専門科目の学習を背景にして、皆さんが各自、自分自身の知的関心に基づいて、その関心に適合すると考える専任教員のもとで、より専門性を深め、卒業論文の準備のための学習を進めます。皆さんの多様な関心に応えるため、専任教員のほとんどがこの科目を担当します。

○卒業論文

「卒業論文」は、国際コミュニケーション学部における4年間の学習成果を具体的な形で表現する4年次の重要な課題です。本学部の学生は、卒業するために「卒業論文」を必ず提出し、4単位を修得しなければなりません。課題は、皆さんが学部生として過ごした数年間に自分自身のうちに芽生え、成育した問題意識に応じて、自分自身の主体性のもとで決定してください。

「卒業論文」の作成、執筆は、それぞれ決められた教員の指導のもとで行います。

「卒業論文」の形式（分量、執筆要項、表紙など）、提出期限、提出先およびその他の詳細については、その都度掲示でお知らせしますので注意してください。

4. 履修のためのガイドライン

本学部では、卒業後の多様な進路を想定して、幅広い授業科目を用意しています。全学共通科目、教養教育科目、外国語教育を含む専門共通科目、各学科4つの科目群から成る学科専門科目、卒業論文準備科目、そして、卒業論文を段階的に履修することにより、基礎から幅広い専門教育へと展開していくよう指導します。皆さんは、それぞれの科目の枠を考慮し多様な科目を体系的に履修する際に、各学科における代表的な3つの履修モデルを参考にしてください。

1. 「国際言語コミュニケーション学科」モデルコース

履修モデルA（英語とコミュニケーション）

履修モデルAでは、主として国際的なサービス業の分野で活躍できる人材を育成するために、英語の運用能力を中心とした実践外国語の修得、異文化に適応する能力の養成、そして、その背景の知識としての異文化理解、外国語による交渉能力の向上、コンピュータ・リテラシーの修得をめざします。

[年次と科目例]

1年次：Communicative English、外国語（フランス語）、社会、文学、言語、芸術、地理、法、コンピュータと情報 など

2年次：Academic English、実践英語、海外英語演習、異文化適応論、世界のさまざまな英語、TOEIC600、日本語表現法②（日本語の話し方） など

3年次：Expressive English、英会話ストラテジー、英語における女性語、言語コミュニケーション論、非言語コミュニケーション論、英語とコミュニケーション、異文化コミュニケーション研究Ⅰ など

4年次：異文化コミュニケーション研究Ⅱ、卒業論文 など

[活躍が期待できる分野]

航空関係職、旅行会社、ホテル、観光通訳ガイド、ツアーコンダクター など

履修モデルB（国際社会とビジネス）

履修モデルBでは、とくに、国際的なビジネスの分野で活躍できる人材を育成するために、高度な英語の運用能力を前提として、外国留学体験に基づいた諸外国の歴史、文化、社会への理解をさらに深める専門領域を中心に学習させます。また、ビジネスに直接関連するコンピュータ・リテラシー、プレゼンテーション能力などのスキルとビジネス文化を理解する科目も修得してください。

〔年次と科目例〕

- 1年次：Communicative English、外国語（ドイツ語）、社会、地理、経済、法、コンピュータと情報、統計の世界 など
- 2年次：Academic English、TOEIC600、日本語表現法①（ビジネス文書等の作成）、異文化適応論、アメリカ文化論、アメリカの政治と社会、アメリカ現代社会、〈国際コミュニケーション学部が主催する中期留学〉 など
- 3年次：ビジネスのための英語、資格ドイツ語（独検）、Expressive English、異文化コミュニケーション論、アメリカ社会の諸問題、アメリカの人種民族問題、アメリカのビジネス、日米比較社会研究Ⅰ など
- 4年次：日米比較社会研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

海外貿易関連事業、商社、外資系企業、一般企業の海外事業部、国際秘書 など

履修モデルC（国際交流）

履修モデルCでは、民間および官公庁で行われているさまざまなレベルでの国際交流事業の分野で活躍できる人材を育成するために、さまざまな外国語（この場合は英語とフランス語）の運用能力と時事問題への関心を高めるための科目を中心に学習させます。また、文化交流事業で相互理解を推進する役割を果たすために、各国の事情を理解するだけでなく、日本文化を理解し、さらに発信する能力を高めます。

〔年次と科目例〕

- 1年次：Communicative English、外国語（フランス語）、文学、哲学、芸術、言語、歴史、社会、地理、法、コンピュータと情報 など
- 2年次：通訳（英語）、文化人類学、日本文化史、Academic English、実践英語、言語コミュニケーション論、異文化適応論、海外英語演習、日中比較文化論 など
- 3年次：言語と社会、英語における女性語、英会話ストラテジー、Expressive English、フランス事情、フランス思想、翻訳（フランス語）、英語とコミュニケーション、フランス語圏文化・思想研究Ⅰ など
- 4年次：フランス語圏文化・思想研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

異文化交流事業、官公庁国際交流部門、国際協力開発、国際的なNPOなどの団体、英語教員、英会話学校講師 など

2. 「表現文化学科」モデルコース

履修モデルA（教育と文化）

履修モデルAでは、「文化ビジネス」※のうち、教育機関や教育サービス産業、各種文化団体や施設などで活躍できる人材を育成するために、まず外国語の修得（この場合はドイツ語）を重視し、次に学科専門科目としてクラシック・スタディーズとモダン・スタディーズを中心とした、いわば社会全体に共有されている文化教養を身につけることをめざします。また、幅広い教養や文化の発信力が必要になることから、専門共通科目やクリエイティブ・スタディーズ科目群からの履修も指導します。

〔年次と科目例〕

1年次：ドイツ語（Ⅰ）－（Ⅲ）、哲学、文学、言語、歴史、法、社会、日本文化史、言語と文化、日本文学史（上代・中古）、日本国憲法 など

2年次：ドイツ語（Ⅳ）、（Ⅴ）、資格ドイツ語（独検）、平安朝の生活と文学、聖書読解、現代思想、文学の理論、現代女性文学 など

3年次：ドイツ語会話・中級、ヨーロッパ社会論、万葉集読解、フランス思想、詩歌創作、小説創作、書写・書道、ドイツ語圏文化・思想研究Ⅰ、哲学研究Ⅰ など

4年次：哲学研究Ⅱ、西洋哲学史、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

国語教員、学芸員、予備校・学習塾講師、カルチャーセンターの企画・広報、広告会社 など

履修モデルB（文化とビジネス）

履修モデルBでは、「文化ビジネス」※のうち、ビジネスを文化の面からサポートし、また、文化をビジネスとして展開する分野で活躍できる人材を育成するために、それに必要な英語運用能力の修得を重視し、英語圏中期留学にも参加できるように指導します。また、学科専門科目ではモダン・スタディーズを中心にした科目を履修することが目的に合致していますが、例えば、日本の古典文学や芸能についても学び、一方で韓国・アメリカ・ヨーロッパの外交問題や社会問題の知識を修得して、文化交流についての理解を深めるといった履修の仕方も考えられます。

〔年次と科目例〕

1年次：Communicative English、心理、言語、法、経済、社会、地理、統計の世界、言語と社会、コンピュータと情報、アメリカ映画論 など

2年次：日本語表現法①（ビジネス文書等の作成）、TOEIC500、日本伝統文化論、万葉集読解、ポップカルチャーの理論、英語圏文学を読む、〈国際コミュニケーション学部が主催する中期留学〉 など

3年次：TOEIC600、歌舞伎、日韓交渉史、アメリカ社会の諸問題、言語コミュニケーション論、エディティング（編集）、広告プロデュース、日米比較社会研究Ⅰ、アメリカ文化研究Ⅰ など

4年次：アメリカ文化研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

アナウンサー、雑誌・書籍の編集、新聞社、広告会社、印刷会社、企業・自治体の広報関係 など

履修モデルC（文化創造）

履修モデルCでは「文化ビジネス」※のうち、芸術・娯楽作品の創作のほか、新聞・放送・広告などの各種メディアや出版などの文化を創造する分野で活躍できる人材を育成するために、文化の発信力を身につける科目を中心とした履修を勧めます。そのためには学科専門科目のポップ・カルチャー・スタディーズ科目群とクリエイティブ・スタディーズ科目群の履修が中心となります。また、外国語の修得（この場合はフランス語）にも力を注ぎ、クリエイティブ・スタディーズ科目群での達成を高度なものにするために、クラシック、モダン両科目群の履修も勧めます。

〔年次と科目例〕

1年次：フランス語（Ⅰ）－（Ⅲ）、文学、芸術、哲学、言語、歴史、社会、コンピュータと情報、女性学、西洋美術史、海外フランス語演習、生命の科学、日本文学史（近代・現代）、アメリカ映画論 など

2年次：フランス語（Ⅳ）、（Ⅴ）、近代日本文学読解、現代日本文学読解、映像文化論、映画制作、ファッション論、エッセイ創作、シナリオ創作、エディティング（編集）、ポップアート論、現代音楽論、広告プロデュース など

3年次：日本語表現法③（文章分析と表現テクニック）、フランス事情、エンターテインメント文化論、児童文学、小説創作、ライフヒストリー研究、表象文化研究Ⅰ など

4年次：表象文化研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

TV番組制作、コピーライター、企業・自治体の企画・広報関係、新聞社、学芸員、雑誌・書籍の編集 など

※「文化ビジネス」とは、単に文化一般に関わるビジネスだけでなく、さらに広く文化的な思考・感性・教養を要請し組み込んだビジネスをも包括する幅広い意味合いを持つ概念である。文系学部卒業生のこれまでの実際の進路からみた場合、この「文

化ビジネス」を選択する志向性が強い。高度に成長した消費社会において、社会・企業の側も、今日、製品や商品の企画、開発、製造、営業、販売等々の局面で有効な概念構築やイメージ戦略に意を注いでおり、女性の意識や感性を活かした観点からの参入を求めており、その傾向は確実に増大している。新学部、とくに表現文化学科を構想するに際し、卒業後の進路として想定されるさまざまな職業を包括する言葉を模索する過程で創られた概念である。

5. 卒業資格について

4年以上在学し、所定の単位数を修得した者には卒業資格が与えられます。
卒業までに必要な最低修得単位数は次の表のとおりです。

学 科		国際言語コミュニケーション学科	表現文化学科
授業科目区分			
全学共通科目「人間論」		2 単位	
教 養 教 育 科 目	領域 1 思想と表現	10単位	
	領域 2 歴史と社会		
	領域 3 自然と科学技術		
	領域 4 数理と情報		
	領域 5 言語とコミュニケーション		
	領域 6 健康運動とスポーツ		
	領域 7 教養演習等	1 単位	
上記（領域 1～領域 7）から		20単位	
専 門 教 育 科 目	専門共通科目	32単位	26単位
	学科専門科目	36単位	42単位
	卒業論文準備科目	8 単位	
	卒業論文	4 単位	
(自由選択) *		24単位	
卒業に必要な単位数の合計		126単位	

*印は、教養教育科目、専門教育科目、国際コミュニケーション学部の他の学科の専門教育科目、教職に関する科目、第16条に規定するインターンシップに関する科目及び安全教育に関する科目並びに第20条の2から第20条の5までに規定するいずれかの科目から修得してもよい。ただし、教職に関する科目及び第20条の2から第20条の5までに規定する他の大学等において修得した単位は、12単位を上限として、及び国際コミュニケーション学部が主催する中期留学において修得した単位は、16単位を上限として自由選択の単位とする。

【(自由選択)の単位に含まれるもの】

国際言語コミュニケーション学科	表現文化学科
1. 国際言語コミュニケーション学科で開設している教養教育科目、専門教育科目	1. 表現文化学科で開設している教養教育科目、専門教育科目
2. 表現文化学科のみで開設されている学科専門科目	2. 国際言語コミュニケーション学科のみで開設されている学科専門科目
3. 学則第16条に規定するインターンシップに関する科目及び安全教育に関する科目	3. 学則第16条に規定するインターンシップに関する科目及び安全教育に関する科目
4. 国際コミュニケーション学部が主催する中期留学において修得した単位（「5. 中期留学に伴う単位認定制度」を参照）	4. 国際コミュニケーション学部が主催する中期留学において修得した単位（「5. 中期留学に伴う単位認定制度」を参照）
5. 教職に関する科目（上限12単位まで）	5. 教職に関する科目（上限12単位まで）
6. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目（上限12単位まで） ①英語検定試験（実用英語技能検定試験、TOEFLおよびTOEFLITP、TOEICおよびTOEICIP）によって得た、級または得点（「6. 英語検定試験による単位認定制度」を参照） ②本学での他学部・他学科の開放科目 ③愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目 ④国際交流に関する科目（外国人のみ）	6. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目（上限12単位まで） ①英語検定試験（実用英語技能検定試験、TOEFLおよびTOEFLITP、TOEICおよびTOEICIP）によって得た、級または得点（「6. 英語検定試験による単位認定制度」を参照） ②本学での他学部・他学科の開放科目 ③愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目 ④国際交流に関する科目（外国人のみ）

6. 授業科目学年配当表

国際言語コミュニケーション学科（平成25年度入学生）

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	領域	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考	
国際言語コミュニケーション学科	領域1 思想と表現	哲学		2	○	○			必修を含め領域1から領域6までのうち5つ以上の領域から10単位以上選択履修 20単位以上の履修が必要	
		文学		2	○	○				
		芸術		2	○	○				
		心理		2	○	○				
		言語		2	○	○				
	領域2 歴史と社会	歴史			2	○	○			
		法			2	○	○			
		経済			2	○	○			
		社会			2	○	○			
		地理			2	○	○			
	領域3 自然科学と技術	環境の科学			2	○	○			
		自然の科学			2	○	○			
		生命の科学			2	○	○			
		人間と自然科学			2	○	○			
	領域4 数理と情報	数理の世界			2	○	○			
		統計の世界			2	○	○			
		コンピュータと情報	必修		2	○	○			
		コンピュータと情報Ⅰ			2	○	○			
		コンピュータと情報Ⅱ			2	○	○			
	領域5 言語とコミュニケーション	外国語(英語A)			1	○	○			
		外国語(英語B)			1	○	○			
		外国語(ドイツ語A)			1	○	○			
		外国語(ドイツ語B)			1	○	○			
		外国語(フランス語A)			1	○	○			
		外国語(フランス語B)			1	○	○			
		外国語(スペイン語A)			1	○	○			
		外国語(スペイン語B)			1	○	○			
		外国語(中国語A)			1	○	○			
	外国語(中国語B)			1	○	○				
	領域6 健康運動とスポーツ	健康運動の科学と実践			2	○	○			
教養演習(入門)		必修		1	○					
領域7 演習	教養演習(発展)			1		○				

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
国際言語コミュニケーション学科	専門関連科目	論理学	2	○	○	○	○	うち外国語科目の Communicative English (I) A～(V)Bの10単位必修さらにドイツ語(I)A～(II)Bまたはフランス語(I)A～(II)Bのいずれか6単位を履修し、計32単位以上選択履修
		倫理学	2	○	○	○	○	
		女性学A	2	○	○	○	○	
		女性学B	2	○	○	○	○	
		西洋美術史	2	○	○	○	○	
		文化人類学	2	○	○	○	○	
		文化社会学	2	○	○	○	○	
		言語と文化	2	○	○	○	○	
		言語と社会	2	○	○	○	○	
		日本国憲法	2	○	○	○	○	
		日本文化史	2	○	○	○	○	
		日中比較文化論	2	○	○	○	○	
		日韓交渉史	2	○	○	○	○	
		日本文学史(上代・中古)A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(上代・中古)B	2	○	○	○	○	
		日本文学史(中世・近世)A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(中世・近世)B	2	○	○	○	○	
		日本文学史(近代・現代)A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(近代・現代)B	2	○	○	○	○	
		社会言語学	2	○	○	○	○	
		対照言語学	2	○	○	○	○	
		東海北陸の言語	2	○	○	○	○	
		翻訳言語論	2	○	○	○	○	
		日本語の音声と音韻	2	○	○	○	○	
		日本語文法の基礎A	2	○	○	○	○	
		日本語文法の基礎B	2	○	○	○	○	
		日本語の歴史A	2	○	○	○	○	
		日本語の歴史B	2	○	○	○	○	
		日本語表現のデータベース処理A	2	○	○	○	○	
		日本語表現のデータベース処理B	2	○	○	○	○	
		日本語学概論A	2	○	○	○	○	
		日本語学概論B	2	○	○	○	○	
		日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	2	○	○	○	○	
日本語表現法②(日本語の話し方)	2	○	○	○	○			
日本語表現法③(文章分析と表現テクニック)	2	○	○	○	○			
書物の文化史	2	○	○	○	○			
日本伝統文化論A	2	○	○	○	○			
日本伝統文化論B	2	○	○	○	○			
日本語教育方法論A	2	○	○	○	○			
日本語教育方法論B	2	○	○	○	○			
日本語教育実践論	2	○	○	○	○			
日本語教授法演習	1	○	○	○	○			
日本語教材・教具研究A	2	○	○	○	○			
日本語教材・教具研究B	2	○	○	○	○			
外国語科目	Communicative English (I)A		1	○				Communicative English (I) A～(V)Bの10単位必修さらにドイツ語(I)A～(II)Bまたはフランス語(I)A～(II)Bのいずれか6単位を選択履修
	Communicative English (I)B		1	○				
	Communicative English (II)A		1	○				
	Communicative English (II)B		1	○				
	Communicative English (III)A		1	○				
	Communicative English (III)B		1	○				
	Communicative English (IV)A		1	○				
	Communicative English (IV)B		1	○				
	Communicative English (V)A		1	○				
	Communicative English (V)B		1	○				
	ドイツ語 (I)A		1	○				
	ドイツ語 (I)B		1	○				
	ドイツ語 (II)A		1	○				
	ドイツ語 (II)B		1	○				
	ドイツ語 (III)A		1	○				
	ドイツ語 (III)B		1	○				
ドイツ語 (IV)A		1		○				
ドイツ語 (IV)B		1		○				
ドイツ語 (V)A		1		○				
ドイツ語 (V)B		1		○				

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
国際言語コミュニケーション学科	フランス語(I)A		1	○					
	フランス語(I)B		1	○					
	フランス語(II)A		1	○					
	フランス語(II)B		1	○					
	フランス語(III)A		1	○					
	フランス語(III)B		1	○					
	フランス語(IV)A		1		○				
	フランス語(IV)B		1		○				
	フランス語(V)A		1			○			
	フランス語(V)B		1			○			
	TOEIC500(I)A		2		○				
	TOEIC500(I)B		2		○				
	TOEIC500(II)A		2		○				
	TOEIC500(II)B		2		○				
	TOEIC600(I)A		2		○				
	TOEIC600(I)B		2		○				
	TOEIC600(II)A		2		○				
	TOEIC600(II)B		2		○				
	TOEIC700(I)A		2		○				
	TOEIC700(I)B		2		○				
	TOEIC700(II)A		2		○				
	TOEIC700(II)B		2		○				
	資格ドイツ語(独検)A		2		○				
	資格ドイツ語(独検)B		2		○				
	資格フランス語(仏検)A		2		○				
	資格フランス語(仏検)B		2		○				
	日米異文化論		2		○				
	ビジネスのための英語		2		○				
	海外英語演習A		4		○	○			
	海外英語演習B		4		○	○			
	海外英語演習C		2		○	○			
	海外ドイツ語演習A		2		○	○			
	海外ドイツ語演習B		4		○	○			
海外フランス語演習		2		○	○				

平成25年度入学生用

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考	
国際言語コミュニケーション学科	外国語（アドヴァンスト）科目群	Academic English A		2		○		うち2科目 4単位以上 選択履修		
		Academic English B		2		○				
		Academic English C		2		○				
		Academic English D		2		○				
		Academic English E		2		○				
		Academic English F		2		○				
		Expressive English A		2			○			
		Expressive English B		2			○			
		Expressive English C		2			○			
		Expressive English D		2			○			
		ライフスタイル論Ⅰ（米国）	◆	2	○	○	○			○
		ライフスタイル論Ⅱ（豪州）		2		○	○			○
		観光専門英語A		2		○	○			○
		観光専門英語B		2		○	○			○
		映画と音楽で学ぶ英語A		2		○	○			○
		映画と音楽で学ぶ英語B		2		○	○			○
		英語短編小説を読む		2		○	○			○
		実践英語Ⅰ（リスニング）		2		○	○			○
		実践英語Ⅱ（リーディング）		2		○	○			○
		実践英語Ⅲ（ディスカッション）		2		○	○			○
		翻訳（英語）A		2		○	○			○
		翻訳（英語）B		2		○	○			○
		通訳（英語）A		2		○	○			○
		通訳（英語）B		2		○	○			○
		Time/Newsweekを読む		2		○	○			○
		英会話ストラテジー		2		○	○			○
		ドイツ語会話・中級A	◆	2		○	○			○
		ドイツ語会話・中級B	◆	2		○	○			○
		ドイツ語会話・上級	◆	2			○			○
		フランス語会話・中級A	◆	2		○	○			○
		フランス語会話・中級B	◆	2		○	○			○
		フランス語会話・上級A	◆	2			○			○
		フランス語会話・上級B	◆	2			○			○
	ドイツ語で読むグリム	◆	2		○	○	○			
	翻訳（フランス語）A	◆	2		○	○	○			
	翻訳（フランス語）B	◆	2		○	○	○			
	総合ドイツ語A	◆	2		○	○	○			
	総合ドイツ語B	◆	2		○	○	○			
	フランス語講読A	◆	2		○	○	○			
	フランス語講読B	◆	2		○	○	○			
	英語コミュニケーション科目群	英語学入門		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修	うち18科目 36単位以上 選択履修
		英語の科学		2		○	○	○		
		英語と社会		2		○	○	○		
		世界のさまざまな英語		2		○	○	○		
		英語における女性語		2		○	○	○		
		英語の丁寧表現		2		○	○	○		
		コンピュータ利用の英語研究		2		○	○	○		
日英会話分析			2		○	○	○			
英語音声学			2		○	○	○			
英語と心理			2		○	○	○			
異文化適応論			2		○	○	○			
言語コミュニケーション論		◆	2		○	○	○			
非言語コミュニケーション論		◆	2		○	○	○			
英語とコミュニケーションA			2		○	○	○			
英語とコミュニケーションB		2		○	○	○				
英語文化圏科目群	異文化コミュニケーション論A		2		○	○	○			
	異文化コミュニケーション論B		2		○	○	○			
	スクリーンと文学		2		○	○	○			
	アメリカ文学史A	◆	2		○	○	○			
	アメリカ文学史B	◆	2		○	○	○			
	アメリカ現代社会		2	○	○	○	○			
	アメリカ史		2	○	○	○	○			
	アメリカ社会の諸問題A	◆	2		○	○	○			
アメリカ社会の諸問題B	◆	2		○	○	○				
アメリカの人種民族問題A	◆	2		○	○	○				
アメリカの人種民族問題B	◆	2		○	○	○				

◆国際言語・表現文化共通開講科目

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
国際言語コミュニケーション学科	英語文化圏科目群	ポップカルチャーの理論 ◆	2	○	○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修
		アメリカのビジネス	2		○	○	○	
		アメリカ映画論A ◆	2	○	○	○	○	
		アメリカ映画論B ◆	2	○	○	○	○	
		アメリカの政治と社会	2		○	○	○	
		スポーツ文化論 ※◆	2		○	○	○	
		アミューズメント・カルチャー ※◆	2		○	○	○	
		アメリカ文化論	2	○	○	○	○	
		英語圏文学を読むA ◆	2		○	○	○	
		英語圏文学を読むB ◆	2		○	○	○	
		テクノロジーと文学	2		○	○	○	
	ポップアート論 ◆	2		○	○	○		
	ヨーロッパ文化科目群	ドイツ文学を読む ◆	2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修
		スイス・オーストリア文学を読む ◆	2		○	○	○	
		ドイツメルヘン学 ※◆	2		○	○	○	
		ウィーンの演劇とオペラ ※◆	2		○	○	○	
		フランス文学を読む ◆	2		○	○	○	
		フランス文化史A ◆	2		○	○	○	
		フランス文化史B ◆	2		○	○	○	
		フランス思想 ◆	2		○	○	○	
		ドイツ語文化圏事情A ◆	2		○	○	○	
		ドイツ語文化圏事情B ◆	2		○	○	○	
		フランス事情A ◆	2		○	○	○	
		フランス事情B ◆	2		○	○	○	
		ヨーロッパの民族と言語 ◆	2		○	○	○	
		ヨーロッパ社会論 ◆	2	○	○	○	○	
西洋身体史 ※◆		2	○	○	○	○		
西洋演劇論 ◆	2		○	○	○			
現代思想 ◆	2		○	○	○			
西洋哲学史A ◆	2		○	○	○			
西洋哲学史B ◆	2		○	○	○			
ギリシャ哲学 ◆	2		○	○	○			
ギリシャ悲劇 ◆	2	○	○	○	○			
日欧比較文化論 ◆	2	○	○	○	○			
グローバリゼーション論 ◆	2	○	○	○	○			
聖書読解A ◆	2	○	○	○	○			
聖書読解B ◆	2	○	○	○	○			

◆国際言語・表現文化共通開講科目

※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
国際言語コミュニケーション学科	卒業論文準備科目	日米比較社会研究ⅠA	2			○	○	うち、いずれかの研究「ⅠAおよびⅠB」ならびに研究「ⅡAおよびⅡB」からそれぞれ2単位ずつ計8単位以上選択履修
		日米比較社会研究ⅠB	2			○	○	
		日米比較社会研究ⅡA	2			○	○	
		日米比較社会研究ⅡB	2			○	○	
		英語学研究ⅠA	2			○	○	
		英語学研究ⅠB	2			○	○	
		英語学研究ⅡA	2			○	○	
		英語学研究ⅡB	2			○	○	
		応用言語学研究ⅠA	2			○	○	
		応用言語学研究ⅠB	2			○	○	
		応用言語学研究ⅡA	2			○	○	
		応用言語学研究ⅡB	2			○	○	
		社会言語学研究ⅠA	2			○	○	
		社会言語学研究ⅠB	2			○	○	
		社会言語学研究ⅡA	2			○	○	
		社会言語学研究ⅡB	2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅠA	2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅠB	2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅡA	2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅡB	2			○	○	
		日本語表現研究ⅠA	2			○	○	
		日本語表現研究ⅠB	2			○	○	
		日本語表現研究ⅡA	2			○	○	
		日本語表現研究ⅡB	2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅠA	2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅠB	2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅡA	2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅡB	2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅠA	2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅠB	2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅡA	2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅡB	2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅠA	2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅠB	2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅡA	2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅡB	2			○	○	
		日米現代文化研究ⅠA	2			○	○	
		日米現代文化研究ⅠB	2			○	○	
		日米現代文化研究ⅡA	2			○	○	
		日米現代文化研究ⅡB	2			○	○	
		表象文化研究ⅠA	2			○	○	
		表象文化研究ⅠB	2			○	○	
		表象文化研究ⅡA	2			○	○	
		表象文化研究ⅡB	2			○	○	
		文化社会学研究ⅠA	2			○	○	
		文化社会学研究ⅠB	2			○	○	
		文化社会学研究ⅡA	2			○	○	
		文化社会学研究ⅡB	2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅠA	2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅠB	2			○	○	
アメリカ文化研究ⅡA	2			○	○			
アメリカ文化研究ⅡB	2			○	○			
近現代日本文学研究ⅠA	2			○	○			
近現代日本文学研究ⅠB	2			○	○			
近現代日本文学研究ⅡA	2			○	○			
近現代日本文学研究ⅡB	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅠA	※	2		○	○			
中世・近世日本文学研究ⅠB	※	2		○	○			
中世・近世日本文学研究ⅡA	※	2		○	○			
中世・近世日本文学研究ⅡB	※	2		○	○			
古代日本文学研究ⅠA	※	2		○	○			
古代日本文学研究ⅠB	※	2		○	○			
古代日本文学研究ⅡA	※	2		○	○			
古代日本文学研究ⅡB	※	2		○	○			
哲学研究ⅠA	2			○	○			
哲学研究ⅠB	2			○	○			
哲学研究ⅡA	2			○	○			

※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

平成25年度入学生用

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
国際言語コミュニケーション学科	卒業論文準備科目	哲学研究ⅡB		2			○	○	
		演劇研究ⅠA		2			○	○	
		演劇研究ⅠB		2			○	○	
		演劇研究ⅡA		2			○	○	
		演劇研究ⅡB		2			○	○	
		英語圏文学研究ⅠA	※	2			○	○	
		英語圏文学研究ⅠB	※	2			○	○	
		英語圏文学研究ⅡA	※	2			○	○	
		英語圏文学研究ⅡB	※	2			○	○	
		ジェンダー研究ⅠA		2			○	○	
		ジェンダー研究ⅠB		2			○	○	
		ジェンダー研究ⅡA		2			○	○	
		ジェンダー研究ⅡB		2			○	○	
		日本文化史研究ⅠA		2			○	○	
		日本文化史研究ⅠB		2			○	○	
		日本文化史研究ⅡA		2			○	○	
		日本文化史研究ⅡB		2			○	○	
		日本歴史研究ⅠA		2			○	○	
		日本歴史研究ⅠB		2			○	○	
		日本歴史研究ⅡA		2			○	○	
日本歴史研究ⅡB		2			○	○			
卒業論文		必修	4				○	4単位必修	

※25年度開講せず

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
国際言語コミュニケーション学科	領域1 思想と表現	哲学		2	○	○		必修を含め領域1から領域6までのうち5つ以上の領域から10単位以上選択履修 20単位以上の履修が必要
		文学		2	○	○		
		芸術		2	○	○		
		心理		2	○	○		
		言語		2	○	○		
	領域2 歴史と社会	歴史		2	○	○		
		法		2	○	○		
		経済		2	○	○		
		社会		2	○	○		
	領域3 自然と科学技術	地理		2	○	○		
		環境の科学		2	○	○		
		自然の科学		2	○	○		
		生命の科学		2	○	○		
	領域4 数理と情報	人間と自然科学		2	○	○		
		数理の世界		2	○	○		
		統計の世界		2	○	○		
		コンピュータと情報	必修	2	○	○		
	領域5 言語とコミュニケーション	コンピュータと情報 I		2	○	○		
		コンピュータと情報 II		2	○	○		
		外国語(英語A)		1	○	○		
		外国語(英語B)		1	○	○		
		外国語(ドイツ語A)		1	○	○		
		外国語(ドイツ語B)		1	○	○		
		外国語(フランス語A)		1	○	○		
		外国語(フランス語B)		1	○	○		
		外国語(スペイン語A)		1	○	○		
		外国語(スペイン語B)		1	○	○		
	領域6 ポーツ健康運動	外国語(中国語A)		1	○	○		
外国語(中国語B)			1	○	○			
領域7 等演習	健康運動の科学と実践		2	○	○			
	教養演習(入門)	必修	1	○				
	教養演習(発展)		1		○			

平成25年度入学生用

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
表現文化学科	専門関連科目	論理学	2	○	○	○	○	
		倫理学	2	○	○	○	○	
		女性学A	2	○	○	○	○	
		女性学B	2	○	○	○	○	
		西洋美術史	2	○	○	○	○	
		文化人類学	2	○	○	○	○	
		文化社会学	2	○	○	○	○	
		言語と文化	2	○	○	○	○	
		言語と社会	2	○	○	○	○	
		日本国憲法	2	○	○	○	○	
		日本文化史	2	○	○	○	○	
		日中比較文化論	2	○	○	○	○	
		日韓交渉史	2	○	○	○	○	
		日本文学史(上代・中古) A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(上代・中古) B	2	○	○	○	○	
		日本文学史(中世・近世) A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(中世・近世) B	2	○	○	○	○	
		日本文学史(近代・現代) A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(近代・現代) B	2	○	○	○	○	
		社会言語学	2	○	○	○	○	
		対照言語学	2	○	○	○	○	
		東海北陸の言語	2	○	○	○	○	
		翻訳言語論	2	○	○	○	○	
		日本語の音声と音韻	2	○	○	○	○	
		日本語文法の基礎A	2	○	○	○	○	
		日本語文法の基礎B	2	○	○	○	○	
		日本語の歴史A	2	○	○	○	○	
		日本語の歴史B	2	○	○	○	○	
		日本語表現のデータベース処理A	2	○	○	○	○	
		日本語表現のデータベース処理B	2	○	○	○	○	
		日本語学概論A	2	○	○	○	○	
		日本語学概論B	2	○	○	○	○	
		日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	2	○	○	○	○	
	日本語表現法②(日本語の話し方)	2	○	○	○	○		
	日本語表現法③(文章分析と表現テクニック)	2	○	○	○	○		
	書物の文化史	2	○	○	○	○		
	日本伝統文化論A	2	○	○	○	○		
	日本伝統文化論B	2	○	○	○	○		
	日本語教育方法論A	2	○	○	○	○		
	日本語教育方法論B	2	○	○	○	○		
日本語教育実践論	2	○	○	○	○			
日本語教授法演習	1	○	○	○	○			
日本語教材・教具研究A	2	○	○	○	○			
日本語教材・教具研究B	2	○	○	○	○			
外国語科目	Communicative English(I)A	1	○				Communicative English(I) A ~ (V)B または ドイツ語(I)A ~ (V)B または フランス語(I) A ~ (V)Bから いずれかの言語を計10単位以上を履修し、計26単位以上選択履修	
	Communicative English(I)B	1	○					
	Communicative English(II)A	1	○					
	Communicative English(II)B	1	○					
	Communicative English(III)A	1	○					
	Communicative English(III)B	1	○					
	Communicative English(IV)A	1	○					
	Communicative English(IV)B	1	○					
	Communicative English(V)A	1	○					
	Communicative English(V)B	1	○					
	ドイツ語(I)A	1	○					
	ドイツ語(I)B	1	○					
	ドイツ語(II)A	1	○					
	ドイツ語(II)B	1	○					
	ドイツ語(III)A	1	○					
	ドイツ語(III)B	1	○					
	ドイツ語(IV)A	1		○				
	ドイツ語(IV)B	1		○				
	ドイツ語(V)A	1		○				
	ドイツ語(V)B	1		○				
フランス語(I)A	1	○						
フランス語(I)B	1	○						
フランス語(II)A	1	○						
フランス語(II)B	1	○						
フランス語(III)A	1	○						
フランス語(III)B	1	○						

平成25年度入学生用

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考	
表現文化学科	フランス語(M)A		1		○					
	フランス語(M)B		1		○					
	フランス語(V)A		1		○					
	フランス語(V)B		1		○					
	TOEIC500(I)A		2		○					
	TOEIC500(I)B		2		○					
	TOEIC500(II)A		2		○					
	TOEIC500(II)B		2		○					
	TOEIC600(I)A		2		○					
	TOEIC600(I)B		2		○					
	TOEIC600(II)A		2		○					
	TOEIC600(II)B		2		○					
	TOEIC700(I)A		2		○					
	TOEIC700(I)B		2		○					
	TOEIC700(II)A		2		○					
	TOEIC700(II)B		2		○					
	資格ドイツ語(独検)A		2		○					
	資格ドイツ語(独検)B		2		○					
	資格フランス語(仏検)A		2		○					
	資格フランス語(仏検)B		2		○					
	日米異文化論		2		○					
	ビジネスのための英語		2		○					
	海外英語演習A		4		○	○				
	海外英語演習B		4		○	○				
	海外英語演習C		2		○	○				
	海外ドイツ語演習A		2		○	○				
	海外ドイツ語演習B		4		○	○				
海外フランス語演習		2		○	○					

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
クラシック・スタディーズ科目群	万葉集読解A		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修	
	万葉集読解B		2		○	○	○		
	源氏物語読解A		2		○	○	○		
	源氏物語読解B		2		○	○	○		
	平安朝の生活と文学A		2		○	○	○		
	平安朝の生活と文学B		2		○	○	○		
	中古中世歌人論A		2		○	○	○		
	中古中世歌人論B		2		○	○	○		
	能・狂言		2		○	○	○		
	歌舞伎		2		○	○	○		
	江戸時代の思想と文学		2		○	○	○		
	和歌・俳諧読解		2		○	○	○		
	古文書読解		2		○	○	○		
	中国哲学A		2		○	○	○		
	中国哲学B		2		○	○	○		
	中国文学A	※	2		○	○	○		
	中国文学B	※	2		○	○	○		
	中国古典読解A		2	○	○	○	○		
	中国古典読解B		2	○	○	○	○		
	聖書読解A	◆	2	○	○	○	○		
聖書読解B	◆	2	○	○	○	○			
ギリシャ悲劇	◆	2	○	○	○	○			
ギリシャ哲学	◆	2	○	○	○	○			
西洋哲学史A	◆	2	○	○	○	○			
西洋哲学史B	◆	2	○	○	○	○			
表現文化学科	日本文学を読むA		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修	うち21科目 42単位以上 選択履修
	日本文学を読むB		2		○	○	○		
	英語圏文学を読むA	◆	2		○	○	○		
	英語圏文学を読むB	◆	2		○	○	○		
	アメリカ文学史A	◆	2		○	○	○		
	アメリカ文学史B	◆	2		○	○	○		
	近代日本文学読解		2		○	○	○		
	現代日本文学読解		2		○	○	○		
	西洋演劇論	◆	2		○	○	○		
	文学の理論A		2		○	○	○		
	文学の理論B		2		○	○	○		
	アメリカ社会の諸問題A	◆	2		○	○	○		
	アメリカ社会の諸問題B	◆	2		○	○	○		
	アメリカの人種民族問題A	◆	2		○	○	○		
	アメリカの人種民族問題B	◆	2		○	○	○		
	西洋身体史	※◆	2	○	○	○	○		
	日欧比較文化論	◆	2	○	○	○	○		
	ドイツ文学を読む	◆	2		○	○	○		
	スイス・オーストリア文学を読む	◆	2		○	○	○		
	ドイツメルヘン学	※◆	2		○	○	○		
	ウィーンの演劇とオペラ	※◆	2		○	○	○		
	フランス文学を読む	◆	2		○	○	○		
	フランス文化史A	◆	2		○	○	○		
	フランス文化史B	◆	2		○	○	○		
	フランス思想	◆	2		○	○	○		
	ドイツ語文化圏事情A	◆	2		○	○	○		
	ドイツ語文化圏事情B	◆	2		○	○	○		
	フランス事情A	◆	2		○	○	○		
	フランス事情B	◆	2		○	○	○		
	ヨーロッパの民族と言語	◆	2		○	○	○		
	ヨーロッパ社会論	◆	2	○	○	○	○		
	グローバルゼーション論	◆	2	○	○	○	○		
言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○			
非言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○			
ドイツ語会話・中級A	◆	2		○	○	○			
ドイツ語会話・中級B	◆	2		○	○	○			

◆国際言語・表現文化共通開講科目

※25年度開講せず

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考		
表現文化学科	モダン・スタディーズ科目群	ドイツ語会話・上級	◆	2		○	○			
		フランス語会話・中級A	◆	2		○	○			
		フランス語会話・中級B	◆	2		○	○			
		フランス語会話・上級A	◆	2			○	○		
		フランス語会話・上級B	◆	2			○	○		
		ドイツ語で読むグリム	◆	2		○	○	○		
		翻訳(フランス語) A	◆	2		○	○	○		
		翻訳(フランス語) B	◆	2		○	○	○		
		総合ドイツ語 A	◆	2		○	○	○		
		総合ドイツ語 B	◆	2		○	○	○		
		フランス語講読 A	◆	2		○	○	○		
		フランス語講読 B	◆	2		○	○	○		
		ポップ・カルチャー・スタディーズ科目群	映像文化論 A		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修
			映像文化論 B		2		○	○	○	
	アメリカ映画論 A		◆	2	○	○	○	○		
	アメリカ映画論 B		◆	2	○	○	○	○		
	マンガ文化論			2		○	○	○		
	パフォーマンス・アーツ論			2		○	○	○		
	現代風俗文化論			2		○	○	○		
	ポップアート論		◆	2		○	○	○		
	現代女性文学			2		○	○	○		
	エンターテインメント文化論 A			2		○	○	○		
	エンターテインメント文化論 B			2		○	○	○		
	ノンセンシス文学			2		○	○	○		
	テクノロジーと文学		◆	2		○	○	○		
	ファッション論			2		○	○	○		
	現代マスコミ論			2		○	○	○		
	都市とジェンダー			2		○	○	○		
	児童文学 A			2		○	○	○		
	児童文学 B			2		○	○	○		
	現代音楽論		2		○	○	○			
	アミューズメント・カルチャー	※◆	2		○	○	○			
	スポーツ文化論	※	2		○	○	○			
ライフスタイル論 I (米国)	◆	2	○	○	○	○				
ポップカルチャーの理論	◆	2	○	○	○	○				
現代思想	◆	2		○	○	○				
クリエイティブ・スタディーズ科目群	ライフヒストリー研究 A		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修		
	ライフヒストリー研究 B		2		○	○	○			
	ドキュメント制作		2	○	○	○	○			
	マンガ創作 A		2		○	○	○			
	マンガ創作 B		2		○	○	○			
	演劇・パフォーマンス	※	2		○	○	○			
	シナリオ創作		2		○	○	○			
	舞台空間論		2	○	○	○	○			
	映画制作 A		2		○	○	○			
	映画制作 B		2		○	○	○			
	詩歌創作 A		2		○	○	○			
	詩歌創作 B		2		○	○	○			
	小説創作 A		2		○	○	○			
	小説創作 B		2		○	○	○			
	エッセイ創作 A		2		○	○	○			
	エッセイ創作 B		2		○	○	○			
	広告プロデュース		2		○	○	○			
	エディティング(編集)		2		○	○	○			
ローカル・エリア・スタディーズ		2		○	○	○				
書写・書道 A		2	○	○	○	○				
書写・書道 B		2	○	○	○	○				

◆国際言語・表現文化共通開講科目
※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

平成25年度入学生用

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
表現文化学科	卒業論文準備科目	日米比較社会研究ⅠA		2			○	○	うち、いずれかの研究「ⅠAおよびⅠB」ならびに研究「ⅡAおよびⅡB」からそれぞれ2単位ずつ計8単位以上選択履修
		日米比較社会研究ⅠB		2			○	○	
		日米比較社会研究ⅡA		2			○	○	
		日米比較社会研究ⅡB		2			○	○	
		英語学研究ⅠA		2			○	○	
		英語学研究ⅠB		2			○	○	
		英語学研究ⅡA		2			○	○	
		英語学研究ⅡB		2			○	○	
		応用言語学研究ⅠA		2			○	○	
		応用言語学研究ⅠB		2			○	○	
		応用言語学研究ⅡA		2			○	○	
		応用言語学研究ⅡB		2			○	○	
		社会言語学研究ⅠA		2			○	○	
		社会言語学研究ⅠB		2			○	○	
		社会言語学研究ⅡA		2			○	○	
		社会言語学研究ⅡB		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅠA		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅠB		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅡA		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅡB		2			○	○	
		日本語表現研究ⅠA		2			○	○	
		日本語表現研究ⅠB		2			○	○	
		日本語表現研究ⅡA		2			○	○	
		日本語表現研究ⅡB		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅠA		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅠB		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅡA		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅡB		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅠA		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅠB		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅡA		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅡB		2			○	○	
		表象文化研究ⅠA		2			○	○	
		表象文化研究ⅠB		2			○	○	
		表象文化研究ⅡA		2			○	○	
		表象文化研究ⅡB		2			○	○	
		文化社会学研究ⅠA		2			○	○	
		文化社会学研究ⅠB		2			○	○	
		文化社会学研究ⅡA		2			○	○	
		文化社会学研究ⅡB		2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅠA		2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅠB		2			○	○	
アメリカ文化研究ⅡA		2			○	○			
アメリカ文化研究ⅡB		2			○	○			
近現代日本文学研究ⅠA		2			○	○			
近現代日本文学研究ⅠB		2			○	○			
近現代日本文学研究ⅡA		2			○	○			
近現代日本文学研究ⅡB		2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅠA	※	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅠB	※	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅡA	※	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅡB	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅠA	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅠB	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅡA	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅡB	※	2			○	○			
哲学研究ⅠA		2			○	○			
哲学研究ⅠB		2			○	○			
哲学研究ⅡA		2			○	○			

※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
	哲学研究ⅡB		2			○	○	
	演劇研究ⅠA		2			○	○	
	演劇研究ⅠB		2			○	○	
	演劇研究ⅡA		2			○	○	
	演劇研究ⅡB		2			○	○	
	英語圏文学研究ⅠA	※	2			○	○	
	英語圏文学研究ⅠB	※	2			○	○	
	英語圏文学研究ⅡA	※	2			○	○	
	英語圏文学研究ⅡB	※	2			○	○	
	ジェンダー研究ⅠA		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅠB		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅡA		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅡB		2			○	○	
	日本文化史研究ⅠA		2			○	○	
	日本文化史研究ⅠB		2			○	○	
	日本文化史研究ⅡA		2			○	○	
	日本文化史研究ⅡB		2			○	○	
	日本歴史研究ⅠA		2			○	○	
	日本歴史研究ⅠB		2			○	○	
	日本歴史研究ⅡA		2			○	○	
	日本歴史研究ⅡB		2			○	○	
	卒業論文	必修	4				○	4単位必修

※25年度開講せず

第2部

履修ガイド

国際コミュニケーション学部

平成23・24年度入学生用

1. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

<大学の方針>

椋山女学園大学では、その教育理念「人間になろう」、「椋山女学園大学の目的」、「ディプロマ・ポリシー」等の具現化を期し、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成・実施します。

1. 開講する授業科目は、全学共通科目「人間論」、教養教育科目、専門教育科目、資格関連科目等とします。
2. 教養教育科目と専門教育科目を学士課程教育の核として捉え、両科目をバランス良く配列します。
3. 教養教育科目を全学共通化するとともに、専門教育科目等を精選し、学生の学びが基礎から応用へと発展的に進むように配列します。
4. 身に付いた知識・技術等を統合し、集大成するために卒業論文又は卒業研究等を課します。
5. 初年次から卒業まで、学生が目的、意欲的に学べるように、各学年の履修ガイダンスをきめ細かく実施します。また、いつでもどこでも必要な支援が得られるよう学修支援体制を整備します。
6. シラバスについては、そのコンテンツに「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「何ができるようになるか」という学習成果を加えるとともに、教室外の学習時間の確保や成績評価の基準についてもその内容を明示します。
7. キャリア教育を全学化し、学生の職業的・社会的自立と就業力の育成を図ります。

<学部・学科の方針>

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
国際コミュニケーション学部	<p>国際コミュニケーション学部は、「ことばの力」について学び、外国語及び日本語に関する知識と技能を高めながら、自らのものの考え方を育成するカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 両学科で共通に開かれている「専門共通科目」とそれぞれの学科で開かれている「学科専門科目」がありますが、「学科専門科目」についても両学科の学生が履修できるシステムとする。 2. 「学科専門科目」は、両学科とも、4つの科目群に分け、学生の履修科目選択の自主性を重視するかたちで編成する。 3. 「卒業論文準備科目」を3年次と4年次に履修させ、卒業論文テーマに関連した知識、研究方法、論理的思考力等を育成するように、丁寧な個別指導を行う。
国際言語コミュニケーション学科	<p>国際言語コミュニケーション学科は、高度な外国語能力と専門としての言語文化知識の修得が教育課程の目標です。そのために設置された外国語（アドヴァンスト）科目群、英語コミュニケーション科目群、英語文化圏科目群、ヨーロッパ文化科目群に基づいて、外国語能力を修得し、異文化を理解する力、課題の発見と解決をする力を育成するカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門教育の基礎として1年次に外国語の必修科目を多く配置し、外国語能力の修得を図る。2年次以降は、上級外国語修得のため、アカデミックな外国語、実用的外国語、資格外国語など学習者の志向に幅広く対応する。 2. 教科書による外国語学習に加えて、「外国語を実際に使う」場面を多く提供する。そうした活動の集大成として海外留学を教育課程に位置づけ、多様な留学プログラムを提供する。

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
	<p>3. 卒業後の「コミュニケーションのプロ」を具体的に想定し、その達成に向けて外国言語文化に関する専門科目群の編成を行う。その一方で、専門関連科目に配置した日本語学、日本文化の科目、さらには自由選択の枠で表現文化学科の科目を履修できるようにすることで、多様な履修形態を可能にする。</p> <p>4. 2年次の教養演習（発展）、3、4年次の卒業論文準備科目と各学年に少人数の演習科目を配置し、卒業論文完成に導くカリキュラムを編成する。特に、外国語教育と専門教育の成果として、英語による卒業論文作成を積極的に推進する。</p>
表現文化学科	<p>表現文化学科は、幅広い教養教育科目、外国語科目、全学共通の「人間論」を基盤とし、その上に次のような編成方針による専門科目を積み上げることにより、文化・表現に対する教養を深め、「ことばの力」についての理解を有し、総合的な人間力を備えた人材を育成するカリキュラムを編成します。</p> <p>1. 専門分野に関する基礎的な知識・能力を身につけるため、学科専門科目・専門共通科目を設ける。専門共通科目は、国際コミュニケーション学科と共通の科目として、両学科間の知識・能力の共通化を図る。</p> <p>2. 学科専門科目・専門共通科目においては、時代的・地域的の広がりを持つ知識・教養を身につけるとともに、創造的な技術・能力を身につけるために、次の（3、4）の方針により、4つの科目群を設ける。</p> <p>3. 国内外のクラシックに文化・表現の本質を学び、現代における新しい価値を発見する（クラシック・スタディーズ科目群）とともに、現代的なテーマの考察を通じて、身近な場所から世界までを深く広く考える力を身につけ（モダン・スタディーズ科目群）、さらに時代の先端の文化を分析・批評・評価する力を身につける（ポップカルチャー・スタディーズ科目群）ことを目指す。</p> <p>4. 具体的な表現形態に即して表現論理・表現技術を学び、個性的で新しい文化的表現を創造し、発信する能力を身につける（クリエイティブ・スタディーズ科目群）ことを目指す。</p> <p>5. 卒業論文の作成に向けて、3、4年次を通じて専門分野を集中的に学ぶ（卒業論文準備科目）。それを通じて、文化・表現の分野についての専門的考察をさらに深めるとともに、洞察力、調査能力、問題解決能力、自己表現力等を磨く。</p>

2. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

＜大学の方針＞

椋山女学園大学では、本学に4年以上在学して所定の単位を修得し、かつ次のような能力を身に付けた人に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 基礎体力及び健全なこころとからだ
2. 文化、社会、自然等に関する基礎的な知識・理解
3. コミュニケーション・スキル、数量的スキル、問題解決能力等の汎用的技能
4. 自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等の態度・志向性
5. 上記の1～4を基盤として涵養される情操、創造力、批判的思考力、実践力等からなる人間として善く生きる力

＜学部・学科の方針＞

学部・学科名	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
国際コミュニケーション学部	<p>国際コミュニケーション学部は、「コミュニケーション能力」を持った「言語・文化の専門家」を育成することを教育目標にし、次の能力を身につけた人に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語と文化に関する確かな知識を修得し、社会の中で活躍することができる能力（知識・理解）。 2. 外国の社会文化と比較し、日本の社会文化の認識を深める能力（分析・判断）。 3. 外国語あるいは日本語による自己表現能力を高め、コミュニケーション能力（技能・表現）。
国際言語コミュニケーション学科	<p>国際言語コミュニケーション学科は、外国語特に英語による「コミュニケーションのプロ」を育成することを教育目標とし、その実現を意図した教育課程を編成しています。卒業までに次の資質を身につけた人に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国語とコミュニケーションに関する確かな知識を修得し、異文化の多様な側面を理解することができる（知識・理解）。 2. 高度な外国語能力をもとに、相手の立場を把握しながら、コミュニケーション上の問題を理解することができる（分析・判断）。 3. 外国語による自己表現力を高め、異文化において人間関係を形成し発展させることができる（技能・表現）。 4. 国際的な視野を育成するために、多様な科目選択、卒業研究を通じて、自らの関心に基づいた主体的な学修ができる（関心・態度）。
表現文化学科	<p>表現文化学科は、文化的素養を基礎として、他者への理解と適切な自己表現の力を身につけ、多様化する社会で活躍できる学士力を有すると認められた人に学士の学位を授与します。</p> <p>卒業者に求められる学士力に関する主な内容は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自国の文化、諸外国の文化に関する豊かな知識と理解 2. 「ことば」を中心とする様々な形態の表現を分析し理解する能力 3. 文化的専門分野に関する深い考察を通じて身につけた洞察力と問題解決能力 4. 新しい文化的価値を自ら生み出し表現する能力 5. 他者への理解力と適切な自己表現力に支えられたコミュニケーション能力

3. カリキュラムの特色・構成・趣旨

本学部の授業科目は「全学共通科目」「教養教育科目」「専門教育科目」から成っています。このうち「教養教育科目」は「教養演習」と「教養基礎科目」から成り、「専門教育科目」は「専門共通科目」「学科専門科目」「卒業論文準備科目」および「卒業論文」から成っています。

カリキュラムの編成上、一番の特色は、2つの学科に共通の科目が多いということです。2学科共通の「教養教育科目」の上に、「専門教育科目」が配置されていますが、その「専門教育科目」の中でも「専門共通科目」「卒業論文準備科目」「卒業論文」は2学科共通で、各学科固有の科目は「学科専門科目」のみという編成になっています。しかも、この「学科専門科目」には、2学科間相互に開放された科目が多数設定されており、シラバス（授業内容一覧）では各学科の専門科目の後に「共通関連科目」として一括掲載されています。これは、学生の皆さんの知的関心の多様性に応えるための方策です。

また、卒業要件126単位中、自由選択を24単位認めており、意欲のある学生はこの単位の範囲内で、他学部、他学科（開放科目のみ）の授業を受講できます。青年期は、自己認識や世界・社会に対する認識が大きく変動したり、それに応じて将来に描く夢や希望が変化したりする時期です。このような変化・変動に柔軟に対応できるカリキュラムこそ、新しい時代の文系学部に求められるべきものであろうと考えています。

カリキュラムの趣旨と概要を以下に記します。

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 全学共通科目
「人間論」 | <p>本学では、建学の精神「人間になろう」の理念を皆さんに体得していただくために、「人間論」を全学共通の必修科目としています。</p> <p>本学部では、すべての学問、知識、技術は人間に対する豊かな共感と深い思索を伴って初めて十分な意義を発揮するという認識のもとに「人間論」を開講しています。皆さんには、この科目を通じて人間の洞察ならびに自己認識を深めていただきたいと考えています。</p> |
| 2. 教養教育科目 | <p>教養教育科目は、「教養演習」と「教養基礎科目」から成ります。</p> <p>○教養演習</p> <p>新入生の皆さんが最大限多い学生生活を送ることができるようにとの配慮から開設した科目で、1年次前期に開講される「教養演習（入門）」（必修科目）と、2年次前期に開講される「教養演習（発展）」（選択科目）とから成っています。前者では、大学での学習に備えるため少人数クラスで書物の読み方、資料の探し方、意見の発表の仕方、学術的な文章の書き方などを学びます、後者は、専門教育科目、特に3・4年次に開講される「卒業論文準備科目」全般に向けて、教養演習（入門）と同じ訓練をより専門的におこなうための科目です。</p> <p>○教養基礎科目</p> <p>教養基礎科目には次の6領域があります。</p> <p><①思想と表現></p> |

人類が築き上げた思想、芸術、文化等ならびにその受容のあり方を学び、人間の精神活動全般への理解を深めることによって、人間の事象に対する正確な判断力と豊かな自己表現能力の基礎を養うことを目的としています。

<②歴史と社会>

現代に至るまでの人類の歩みや、社会のさまざまな仕組み・事象を総合的に理解する能力を養うことを目的としています。地球上のさまざまな地域の人々の歴史、社会、生活のあり方を学ぶことにより、自分自身や世界の将来を切り拓く想像力を養ってください。

<③健康運動とスポーツ>

充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフを創造するための知識や技術をスポーツを実践しながら体験します。

<④自然と科学技術>

文明の誕生以来、人間社会は科学・技術の進歩と発展によって支えられてきました。その背景には地球とそこに棲む生物があり、人間はこれらの自然によって生かされて生活してきました。しかし、現代、人間社会は、環境・資源・人口など、人間の生存に関わる問題への新たな対応を迫られています。この領域は、自然と科学技術への深い理解に基づいた、人間の生き方に関する選択・決定能力を養うことを目的としています。

<⑤数理と情報>

現代社会は、高度で高速な情報処理と伝達によって特徴づけられています。この領域では、コンピュータの情報処理システムの構造や原理、数理科学の思考方法や解析方法の基礎を学び、現代社会において必要とされる数量・空間感覚や情報を処理し活用する能力を養います。

<⑥言語とコミュニケーション>

この領域は、国際化の浸透する現代社会を生きるための基本的能力である外国語コミュニケーション能力の養成を目的としています。

3. 専門教育科目

専門教育科目は、「専門共通科目」「学科専門科目」「卒業論文準備科目」「卒業論文」から成ります。

○専門共通科目

「国際言語コミュニケーション学科」「表現文化学科」の両学科に等距離に関わり、すべてテーマごとに教養基礎科目を発展させた科目と位置づけることができます。語学関係では、日本語教員資格に関する科目や、英語、ドイツ語、フランス語などの科

目、またこれら外国語の資格に関する科目、さらに海外留学に関連した科目などが多数開講され、国際コミュニケーション学部の学生にふさわしく、皆さんが《世界の中のわたし》という視点に立って、自分自身の母国語である日本語を再認識するとともに、外国語運用能力の向上と異文化理解の促進を図れるよう科目編成されています。また、すでに国際文化としての位置づけを得ている日本の文学、文化に関する科目も多く開講され、それらの学問的成果の理解を図ることができるよう科目編成されています。専門共通科目は、外国語に関わる科目を一括した「外国語科目」とその他の科目を一括した「専門関連科目」とに分けられていますが、皆さんは、これらの科目全体の中から自らの興味にもとづいて自由に履修し、学科専門科目や卒業論文準備科目での学修、研究がより幅広く、かつ深まるような知識や考え方を養ってください。

○学科専門科目

「国際言語コミュニケーション学科」「表現文化学科」それぞれに4つの科目群が設定されています。

【国際言語コミュニケーション学科】

①「外国語（アドヴァンスト）科目群」

スピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの4技能の徹底した訓練に加え、新聞・雑誌英語、観光専門英語、翻訳（英語）、通訳（英語）、英会話ストラテジー、ディスカッションなどを学びます。ドイツ語、フランス語の上級科目として、翻訳、会話などを学ぶこともでき、幅広い異文化コミュニケーションの能力を育成します。

②「英語コミュニケーション科目群」

外国語としての英語の仕組み、面白さを学びながら、コンピュータやインターネットと英語の関係など、「英語の現在」を分析し考察します。また、人と人とのコミュニケーションのあり方、コミュニケーションの理論などを修得し、人と人との相互理解を深める英語力、文化的スキルを養成します。

③「英語文化圏科目群」

異文化への理解がなければ外国語能力の上達には限界があります。英語が使われている地域のさまざまな文化、歴史、社会問題などを学ぶことによって、語り聴く内容の面からも英語力を高めてください。

④「ヨーロッパ文化科目群」

フランス語圏、ドイツ語圏の言語文化の学習を中心に、さらにヨーロッパ文化全体の根源をも学習するための科目群です。この科目群は「外国語（アドヴァンスト）科目群」と相俟って2言語以上の外国語理解に立つ国際性を身につけた人材を育てることを目標とします。

【表現文化学科】

①「クラシック・スタディーズ科目群」

クラシックとは、何百年にもわたって常に新鮮であることが実証されてきたものことです。クラシックを学習することにより、人類全体の文化的遺産についての教養を深めるとともに、《新しい自己》を発見する喜びを体験してください。

②「モダン・スタディーズ科目群」

人間の歴史を大きく塗り替えた「近代」の思想的基盤を、鋭く見抜く洞察力を養成する科目群です。法律論、社会論、ジェンダー論、文学論などの「論じる学」を講述し、現代の世界と文化のパラダイムを深く広く考察する力を養います。ドイツ語、フランス語の上級科目も数多く開講されています。

③「ポップ・カルチャー・スタディーズ科目群」

日常生活にあるさまざまな文化、ポップ・カルチャーは、私たちに一番身近な文化です。伝統との切断を意図した文化の様相に触れることで、変化する時代の先端に向けて自己発信するセンスを磨く科目群です。

④「クリエイティブ・スタディーズ科目群」

人は文化の中に生まれると同時に、文化を創りながら生きています。私たち一人ひとりが文化の創造者であり、文化の表現者なのです。日本語を用いて表現し、日本語を創造し、自己発信する能力を養成し、その楽しさを味わう科目群です。

○卒業論文準備科目

少人数クラスで行われる3、4年次開講の科目です。専門共通科目や学科専門科目の学習を背景にして、皆さんが各自、自分自身の知的関心に基づいて、その関心に適合すると考える専任教員のもとで、より専門性を深め、卒業論文の準備のための学習を進めます。皆さんの多様な関心に応えるため、専任教員のほとんどがこの科目を担当します。

○卒業論文

「卒業論文」は、国際コミュニケーション学部における4年間の学習成果を具体的な形で表現する4年次の重要な課題です。本学部の学生は、卒業するために「卒業論文」を必ず提出し、4単位を修得しなければなりません。課題は、皆さんが学部生として過ごした数年間に自分自身のうちに芽生え、成育した問題意識に応じて、自分自身の主体性のもとで決定してください。

「卒業論文」の作成、執筆は、それぞれ決められた教員の指導のもとで行います。

「卒業論文」の形式（分量、執筆要項、表紙など）、提出期限、提出先およびその他の詳細については、その都度掲示でお知らせしますので注意してください。

4. 履修のためのガイドライン

本学部では、卒業後の多様な進路を想定して、幅広い授業科目を用意しています。全学共通科目、教養教育科目、外国語教育を含む専門共通科目、各学科4つの科目群から成る学科専門科目、卒業論文準備科目、そして、卒業論文を段階的に履修することにより、基礎から幅広い専門教育へと展開していくよう指導します。皆さんは、それぞれの科目の枠を考慮し多様な科目を体系的に履修する際に、各学科における代表的な3つの履修モデルを参考にしてください。

1. 「国際言語コミュニケーション学科」モデルコース

履修モデルA（英語とコミュニケーション）

履修モデルAでは、主として国際的なサービス業の分野で活躍できる人材を育成するために、英語の運用能力を中心とした実践外国語の修得、異文化に適応する能力の養成、そして、その背景の知識としての異文化理解、外国語による交渉能力の向上、コンピュータ・リテラシーの修得をめざします。

[年次と科目例]

1年次：Communicative English、フランス語、社会、文学、言語、芸術、地理、法、コンピュータと情報 など

2年次：Academic English、実践英語、海外英語演習、異文化適応論、世界のさまざまな英語、TOEIC600、日本語表現法②（日本語の話し方） など

3年次：Expressive English、英会話ストラテジー、英語における女性語、言語コミュニケーション論、非言語コミュニケーション論、英語とコミュニケーション、異文化コミュニケーション研究Ⅰ など

4年次：異文化コミュニケーション研究Ⅱ、卒業論文 など

[活躍が期待できる分野]

航空関係職、旅行会社、ホテル、観光通訳ガイド、ツアーコンダクター など

履修モデルB（国際社会とビジネス）

履修モデルBでは、とくに、国際的なビジネスの分野で活躍できる人材を育成するために、高度な英語の運用能力を前提として、外国留学体験に基づいた諸外国の歴史、文化、社会への理解をさらに深める専門領域を中心に学習させます。また、ビジネスに直接関連するコンピュータ・リテラシー、プレゼンテーション能力などのスキルとビジネス文化を理解する科目も修得してください。

〔年次と科目例〕

- 1年次：Communicative English、ドイツ語、社会、地理、経済、法、コンピュータと情報、統計の世界 など
- 2年次：Academic English、TOEIC600、日本語表現法①（ビジネス文書等の作成）、異文化適応論、アメリカ文化論、アメリカの政治と社会、アメリカ現代社会、〈国際コミュニケーション学部が主催する中期留学〉 など
- 3年次：ビジネスのための英語、資格ドイツ語（独検）、Expressive English、異文化コミュニケーション論、アメリカ社会の諸問題、アメリカの人種民族問題、アメリカのビジネス、日米比較社会研究Ⅰ など
- 4年次：日米比較社会研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

海外貿易関連事業、商社、外資系企業、一般企業の海外事業部、国際秘書 など

履修モデルC（国際交流）

履修モデルCでは、民間および官公庁で行われているさまざまなレベルでの国際交流事業の分野で活躍できる人材を育成するために、さまざまな外国語（この場合は英語とフランス語）の運用能力と時事問題への関心を高めるための科目を中心に学習させます。また、文化交流事業で相互理解を推進する役割を果たすために、各国の事情を理解するだけでなく、日本文化を理解し、さらに発信する能力を高めます。

〔年次と科目例〕

- 1年次：Communicative English、フランス語、文学、哲学、芸術、言語、歴史、社会、地理、法、コンピュータと情報 など
- 2年次：通訳（英語）、文化人類学、日本文化史、Academic English、実践英語、言語コミュニケーション論、異文化適応論、海外英語演習、日中比較文化論 など
- 3年次：言語と社会、英語における女性語、英会話ストラテジー、Expressive English、フランス事情、フランス思想、翻訳（フランス語）、英語とコミュニケーション、フランス語圏文化・思想研究Ⅰ など
- 4年次：フランス語圏文化・思想研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

異文化交流事業、官公庁国際交流部門、国際協力開発、国際的なNPOなどの団体、英語教員、英会話学校講師 など

2. 「表現文化学科」モデルコース

履修モデルA（教育と文化）

履修モデルAでは、「文化ビジネス」※のうち、教育機関や教育サービス産業、各種文化団体や施設などで活躍できる人材を育成するために、まず外国語の修得（この場合はドイツ語）を重視し、次に学科専門科目としてクラシック・スタディーズとモダン・スタディーズを中心とした、いわば社会全体に共有されている文化教養を身につけることをめざします。また、幅広い教養や文化の発信力が必要になることから、専門共通科目やクリエイティブ・スタディーズ科目群からの履修も指導します。

〔年次と科目例〕

1年次：ドイツ語（Ⅰ）－（Ⅲ）、哲学、文学、言語、歴史、法、社会、日本文化史、言語と文化、日本文学史（上代・中古）、日本国憲法 など

2年次：ドイツ語（Ⅳ）、（Ⅴ）、資格ドイツ語（独検）、平安朝の生活と文学、聖書読解、現代思想、文学の理論、現代女性文学 など

3年次：ドイツ語会話・中級、ヨーロッパ社会論、万葉集読解、フランス思想、詩歌創作、小説創作、書写・書道、ドイツ語圏文化・思想研究Ⅰ、哲学研究Ⅰ など

4年次：哲学研究Ⅱ、西洋哲学史、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

国語教員、学芸員、予備校・学習塾講師、カルチャーセンターの企画・広報、広告会社 など

履修モデルB（文化とビジネス）

履修モデルBでは、「文化ビジネス」※のうち、ビジネスを文化の面からサポートし、また、文化をビジネスとして展開する分野で活躍できる人材を育成するために、それに必要な英語運用能力の修得を重視し、英語圏中期留学にも参加できるように指導します。また、学科専門科目ではモダン・スタディーズを中心にした科目を履修することが目的に合致していますが、例えば、日本の古典文学や芸能についても学び、一方で韓国・アメリカ・ヨーロッパの外交問題や社会問題の知識を修得して、文化交流についての理解を深めるといった履修の仕方も考えられます。

〔年次と科目例〕

1年次：Communicative English、心理、言語、法、経済、社会、地理、統計の世界、言語と社会、コンピュータと情報、アメリカ映画論 など

2年次：日本語表現法①（ビジネス文書等の作成）、TOEIC500、日本伝統文化論、万葉集読解、ポップカルチャーの理論、英語圏文学を読む、〈国際コミュニケーション学部が主催する中期留学〉 など

3年次：TOEIC600、歌舞伎、日韓交渉史、アメリカ社会の諸問題、言語コミュニケーション論、エディティング（編集）、広告プロデュース、日米比較社会研究Ⅰ、アメリカ文化研究Ⅰ など

4年次：アメリカ文化研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

アナウンサー、雑誌・書籍の編集、新聞社、広告会社、印刷会社、企業・自治体の広報関係 など

履修モデルC（文化創造）

履修モデルCでは「文化ビジネス」※のうち、芸術・娯楽作品の創作のほか、新聞・放送・広告などの各種メディアや出版などの文化を創造する分野で活躍できる人材を育成するために、文化の発信力を身につける科目を中心とした履修を勧めます。そのためには学科専門科目のポップ・カルチャー・スタディーズ科目群とクリエイティブ・スタディーズ科目群の履修が中心となります。また、外国語の修得（この場合はフランス語）にも力を注ぎ、クリエイティブ・スタディーズ科目群での達成を高度なものにするために、クラシック、モダン両科目群の履修も勧めます。

〔年次と科目例〕

1年次：フランス語（Ⅰ）－（Ⅲ）、文学、芸術、哲学、言語、歴史、社会、コンピュータと情報、女性学、西洋美術史、海外フランス語演習、生命の科学、日本文学史（近代・現代）、アメリカ映画論 など

2年次：フランス語（Ⅳ）、（Ⅴ）、近代日本文学読解、現代日本文学読解、映像文化論、映画制作、ファッション論、エッセイ創作、シナリオ創作、エディティング（編集）、ポップアート論、現代音楽論、広告プロデュース など

3年次：日本語表現法③（文章分析と表現テクニック）、フランス事情、エンターテインメント文化論、児童文学、小説創作、ライフヒストリー研究、表象文化研究Ⅰ など

4年次：表象文化研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

TV番組制作、コピーライター、企業・自治体の企画・広報関係、新聞社、学芸員、雑誌・書籍の編集 など

※「文化ビジネス」とは、単に文化一般に関わるビジネスだけでなく、さらに広く文化的な思考・感性・教養を要請し組み込んだビジネスをも包括する幅広い意味合いを持つ概念である。文系学部卒業生のこれまでの実際の進路からみた場合、この「文

化ビジネス」を選択する志向性が強い。高度に成長した消費社会において、社会・企業の側も、今日、製品や商品の企画、開発、製造、営業、販売等々の局面で有効な概念構築やイメージ戦略に意を注いでおり、女性の意識や感性を活かした観点からの参入を求めており、その傾向は確実に増大している。新学部、とくに表現文化学科を構想するに際し、卒業後の進路として想定されるさまざまな職業を包括する言葉を模索する過程で創られた概念である。

5. 卒業資格について

4年以上在学し、所定の単位数を修得した者には卒業資格が与えられます。
卒業までに必要な最低修得単位数は次の表のとおりです。

授業科目区分		学 科	国際言語コミュニケーション学科	表現文化学科
全学共通科目「人間論」			2 単位	
教 養 教 育 科 目	教養演習		1 単位	
	①「思想と表現」		10単位	
	②「歴史と社会」			
	③「健康運動とスポーツ」			
	④「自然と科学技術」			
	⑤「数理と情報」			
	⑥「言語とコミュニケーション」			
上記（教養演習及び教養基礎科目）から			20単位	
専 門 教 育 科 目	専門共通科目	32単位	26単位	
	学科専門科目	36単位	42単位	
	卒業論文準備科目		8 単位	
	卒業論文		4 単位	
(自由選択) *			24単位	
卒業に必要な単位数の合計			126単位	

*印は、教養教育科目、専門教育科目、国際コミュニケーション学部の他の学科の専門教育科目、教職に関する科目、第16条に規定するインターンシップに関する科目及び第20条の2から第20条の5までに規定するいずれかの科目から修得してもよい。ただし、教職に関する科目及び第20条の2から第20条の5までに規定する他の大学等において修得した単位は、12単位を上限として、及び国際コミュニケーション学部が主催する中期留学において修得した単位は、16単位を上限として自由選択の単位とする。

【(自由選択)の単位に含まれるもの】

国際言語コミュニケーション学科	表現文化学科
1. 国際言語コミュニケーション学科で開設している教養教育科目、専門教育科目	1. 表現文化学科で開設している教養教育科目、専門教育科目
2. 表現文化学科のみで開設されている学科専門科目	2. 国際言語コミュニケーション学科のみで開設されている学科専門科目
3. 学則第16条に規定するインターンシップに関する科目	3. 学則第16条に規定するインターンシップに関する科目
4. 国際コミュニケーション学部が主催する中期留学において修得した単位（「5. 中期留学に伴う単位認定制度」を参照）	4. 国際コミュニケーション学部が主催する中期留学において修得した単位（「5. 中期留学に伴う単位認定制度」を参照）
5. 教職に関する科目（上限12単位まで）	5. 教職に関する科目（上限12単位まで）
6. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目（上限12単位まで） ①英語検定試験（実用英語技能検定試験、TOEFLおよびTOEFLITP、TOEICおよびTOEICIP）によって得た、級または得点（「6. 英語検定試験による単位認定制度」を参照） ②本学での他学部・他学科の開放科目 ③愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目 ④安全教育に関する科目	6. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目（上限12単位まで） ①英語検定試験（実用英語技能検定試験、TOEFLおよびTOEFLITP、TOEICおよびTOEICIP）によって得た、級または得点（「6. 英語検定試験による単位認定制度」を参照） ②本学での他学部・他学科の開放科目 ③愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目 ④安全教育に関する科目

6. 授業科目学年配当表

国際言語コミュニケーション学科（平成23・24年度入学生）

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考	
国際言語コミュニケーション学科	教養演習	必修	1	○				1単位必修	
	教養演習(発展)		1		○				
	①思想と表現	哲学		2	○	○			①から⑥までの分野から5つの分野にわたり10単位以上選択履修
		文学		2	○	○			
		芸術		2	○	○			
		心理		2	○	○			
		言語		2	○	○			
	②歴史と社会	歴史		2	○	○			
		法		2	○	○			
		経済		2	○	○			
		社会		2	○	○			
		地理		2	○	○			
	③健康運動とスポーツ	健康運動の科学と実践		2	○	○			
	④自然と科学技術	環境の科学		2	○	○			
		自然の科学		2	○	○			
		生命の科学		2	○	○			
		人間と自然科学		2	○	○			
	⑤数理と情報	数理の世界		2	○	○			
		統計の世界		2	○	○			
		コンピュータと情報	必修	2	○	○			
		コンピュータと情報 I		2	○	○			
	⑥言語とコミュニケーション	コンピュータと情報 II		2	○	○			
		英語 A		1	○	○			
		英語 B		1	○	○			
		ドイツ語 A		1	○	○			
		ドイツ語 B		1	○	○			
フランス語 A			1	○	○				
フランス語 B			1	○	○				
スペイン語 A			1	○	○				
スペイン語 B		1	○	○					
中国語 A		1	○	○					
中国語 B		1	○	○					

平成23・24年度入学生用

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
国際言語コミュニケーション学科	専門関連科目	論理学	2	○	○	○	○	うち外国語科目の Communicative English (I) A～(V)Bの10単位必修さらにドイツ語(I)A～(II)Bまたはフランス語(I)A～(II)Bのいずれか6単位を履修し、計32単位以上選択履修
		倫理学	2	○	○	○	○	
		女性学A	2	○	○	○	○	
		女性学B	2	○	○	○	○	
		西洋美術史	2	○	○	○	○	
		文化人類学	2	○	○	○	○	
		文化社会学	2	○	○	○	○	
		言語と文化	2	○	○	○	○	
		言語と社会	2	○	○	○	○	
		日本国憲法	2	○	○	○	○	
		日本文化史	2	○	○	○	○	
		日中比較文化論	2	○	○	○	○	
		日韓交渉史	2	○	○	○	○	
		日本文学史(上代・中古)A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(上代・中古)B	2	○	○	○	○	
		日本文学史(中世・近世)A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(中世・近世)B	2	○	○	○	○	
		日本文学史(近代・現代)A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(近代・現代)B	2	○	○	○	○	
		社会言語学	2	○	○	○	○	
		対照言語学	2	○	○	○	○	
		東海北陸の言語	2	○	○	○	○	
		翻訳言語論	2	○	○	○	○	
		日本語の音声と音韻	2	○	○	○	○	
		日本語文法の基礎A	2	○	○	○	○	
		日本語文法の基礎B	2	○	○	○	○	
		日本語の歴史A	2	○	○	○	○	
		日本語の歴史B	2	○	○	○	○	
		日本語表現のデータベース処理A	2	○	○	○	○	
		日本語表現のデータベース処理B	2	○	○	○	○	
		日本語学概論A	2	○	○	○	○	
		日本語学概論B	2	○	○	○	○	
		日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	2	○	○	○	○	
日本語表現法②(日本語の話し方)	2	○	○	○	○			
日本語表現法③(文章分析と表現テクニック)	2	○	○	○	○			
書物の文化史	2	○	○	○	○			
日本伝統文化論A	2	○	○	○	○			
日本伝統文化論B	2	○	○	○	○			
日本語教育方法論A	2	○	○	○	○			
日本語教育方法論B	2	○	○	○	○			
日本語教育実践論	2	○	○	○	○			
日本語教授法演習	1	○	○	○	○			
日本語教材・教具研究A	2	○	○	○	○			
日本語教材・教具研究B	2	○	○	○	○			
外国語科目	Communicative English (I)A		1	○				Communicative English (I) A～(V)Bの10単位必修さらにドイツ語(I)A～(II)Bまたはフランス語(I)A～(II)Bのいずれか6単位を選択履修
	Communicative English (I)B		1	○				
	Communicative English (II)A		1	○				
	Communicative English (II)B		1	○				
	Communicative English (III)A		1	○				
	Communicative English (III)B		1	○				
	Communicative English (IV)A		1	○				
	Communicative English (IV)B		1	○				
	Communicative English (V)A		1	○				
	Communicative English (V)B		1	○				
	ドイツ語 (I)A		1	○				
	ドイツ語 (I)B		1	○				
	ドイツ語 (II)A		1	○				
	ドイツ語 (II)B		1	○				
	ドイツ語 (III)A		1	○				
	ドイツ語 (III)B		1	○				
ドイツ語 (IV)A		1		○				
ドイツ語 (IV)B		1		○				
ドイツ語 (V)A		1		○				
ドイツ語 (V)B		1		○				

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
国際言語コミュニケーション学科	フランス語(I)A		1	○					
	フランス語(I)B		1	○					
	フランス語(II)A		1	○					
	フランス語(II)B		1	○					
	フランス語(III)A		1	○					
	フランス語(III)B		1	○					
	フランス語(IV)A		1		○				
	フランス語(IV)B		1		○				
	フランス語(V)A		1		○				
	フランス語(V)B		1		○				
	TOEIC500(I)A		2		○				
	TOEIC500(I)B		2		○				
	TOEIC500(II)A		2		○				
	TOEIC500(II)B		2		○				
	TOEIC600(I)A		2		○				
	TOEIC600(I)B		2		○				
	TOEIC600(II)A		2		○				
	TOEIC600(II)B		2		○				
	TOEIC700(I)A		2		○				
	TOEIC700(I)B		2		○				
	TOEIC700(II)A		2		○				
	TOEIC700(II)B		2		○				
	資格ドイツ語(独検)A		2		○				
	資格ドイツ語(独検)B		2		○				
	資格フランス語(仏検)A		2		○				
	資格フランス語(仏検)B		2		○				
	日米異文化論		2		○				
	ビジネスのための英語		2		○				
	海外英語演習A		4		○	○			
	海外英語演習B		4		○	○			
	海外英語演習C		2		○	○			
	海外ドイツ語演習A		2		○	○			
	海外ドイツ語演習B		4		○	○			
海外フランス語演習		2		○	○				

平成23・24年度入学生用

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考		
国際言語コミュニケーション学科	外国語（アドヴァンスト）科目群	Academic English A		2		○			うち2科目 4単位以上 選択履修		
		Academic English B		2		○					
		Academic English C		2		○					
		Academic English D		2		○					
		Academic English E		2		○					
		Academic English F		2		○					
		Expressive English A		2				○			
		Expressive English B		2				○			
		Expressive English C		2				○			
		Expressive English D		2				○			
		ライフスタイル論Ⅰ（米国）	◆	2	○	○	○	○			
		ライフスタイル論Ⅱ（豪州）		2		○	○	○			
		観光専門英語A		2		○	○	○			
		観光専門英語B		2		○	○	○			
		映画と音楽で学ぶ英語A		2		○	○	○			
		映画と音楽で学ぶ英語B		2		○	○	○			
		英語短編小説を読む		2		○	○	○			
		実践英語Ⅰ（リスニング）		2		○	○	○			
		実践英語Ⅱ（リーディング）		2		○	○	○			
		実践英語Ⅲ（ディスカッション）		2		○	○	○			
		翻訳（英語）A		2		○	○	○			
		翻訳（英語）B		2		○	○	○			
		通訳（英語）A		2		○	○	○			
		通訳（英語）B		2		○	○	○			
		Time/Newsweekを読む		2		○	○	○			
		英会話ストラテジー		2		○	○	○			
		ドイツ語会話・中級A	◆	2		○	○	○			
		ドイツ語会話・中級B	◆	2		○	○	○			
		ドイツ語会話・上級	◆	2			○	○			
		フランス語会話・中級A	◆	2		○	○	○			
		フランス語会話・中級B	◆	2		○	○	○			
		フランス語会話・上級A	◆	2			○	○			
		フランス語会話・上級B	◆	2			○	○			
		ドイツ語で読むグリム	◆	2		○	○	○			
		翻訳（フランス語）A	◆	2		○	○	○			
		翻訳（フランス語）B	◆	2		○	○	○			
総合ドイツ語A	◆	2		○	○	○					
総合ドイツ語B	◆	2		○	○	○					
フランス語講読A	◆	2		○	○	○					
フランス語講読B	◆	2		○	○	○					
英語コミュニケーション科目群	英語学入門		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修	うち18科目 36単位以上 選択履修		
	英語の科学		2		○	○	○				
	英語と社会		2		○	○	○				
	世界のさまざまな英語		2		○	○	○				
	英語における女性語		2		○	○	○				
	英語の丁寧表現		2		○	○	○				
	コンピュータ利用の英語研究		2		○	○	○				
	日英会話分析		2		○	○	○				
	英語音声学		2		○	○	○				
	英語と心理		2		○	○	○				
	異文化適応論		2		○	○	○				
	言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○				
	非言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○				
	英語とコミュニケーションA		2		○	○	○				
	英語とコミュニケーションB		2		○	○	○				
英語文化圏科目群	異文化コミュニケーション論A		2		○	○	○				
	異文化コミュニケーション論B		2		○	○	○				
	スクリーンと文学		2		○	○	○				
	アメリカ文学史A	◆	2		○	○	○				
	アメリカ文学史B	◆	2		○	○	○				
	アメリカ現代社会		2	○	○	○	○				
	アメリカ史		2	○	○	○	○				
	アメリカ社会の諸問題A	◆	2		○	○	○				
アメリカ社会の諸問題B	◆	2		○	○	○					
アメリカの人種民族問題A	◆	2		○	○	○					
アメリカの人種民族問題B	◆	2		○	○	○					

◆国際言語・表現文化共通開講科目

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
国際言語コミュニケーション学科	英語文化圏科目群	ポップカルチャーの理論	◆	2	○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修
		アメリカのビジネス		2		○	○	
		アメリカ映画論A	◆	2	○	○	○	
		アメリカ映画論B	◆	2	○	○	○	
		アメリカの政治と社会		2		○	○	
		スポーツ文化論	※◆	2		○	○	
		アミューズメント・カルチャー	※◆	2		○	○	
		アメリカ文化論		2	○	○	○	
		英語圏文学を読むA	◆	2		○	○	
		英語圏文学を読むB	◆	2		○	○	
		テクノロジーと文学	◆	2		○	○	
		ポップアート論	◆	2		○	○	
		ドイツ文学を読む	◆	2		○	○	
	スイス・オーストリア文学を読む	◆	2		○	○		
	ドイツメルヘン学	※◆	2		○	○		
	ウィーンの演劇とオペラ	※◆	2		○	○		
	フランス文学を読む	◆	2		○	○		
	フランス文化史A	◆	2		○	○		
	フランス文化史B	◆	2		○	○		
	フランス思想	◆	2		○	○		
	ドイツ語文化圏事情A	◆	2		○	○		
	ドイツ語文化圏事情B	◆	2		○	○		
	フランス事情A	◆	2		○	○		
	フランス事情B	◆	2		○	○		
	ヨーロッパの民族と言語	◆	2		○	○		
	ヨーロッパ社会論	◆	2	○	○	○		
	西洋身体史	※◆	2	○	○	○		
西洋演劇論	◆	2		○	○			
現代思想	◆	2		○	○			
西洋哲学史A	◆	2		○	○			
西洋哲学史B	◆	2		○	○			
ギリシャ哲学	◆	2		○	○			
ギリシャ悲劇	◆	2	○	○	○			
日欧比較文化論	◆	2	○	○	○			
グローバリゼーション論	◆	2	○	○	○			
聖書読解A	◆	2	○	○	○			
聖書読解B	◆	2	○	○	○			

◆国際言語・表現文化共通開講科目

※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
国際言語コミュニケーション学科	日米比較社会研究ⅠA		2			○	○	うち、いずれかの研究「ⅠAおよびⅠB」ならびに研究「ⅡAおよびⅡB」からそれぞれ2単位ずつ計8単位以上選択履修
	日米比較社会研究ⅠB		2			○	○	
	日米比較社会研究ⅡA		2			○	○	
	日米比較社会研究ⅡB		2			○	○	
	英語学研究ⅠA		2			○	○	
	英語学研究ⅠB		2			○	○	
	英語学研究ⅡA		2			○	○	
	英語学研究ⅡB		2			○	○	
	応用言語学研究ⅠA		2			○	○	
	応用言語学研究ⅠB		2			○	○	
	応用言語学研究ⅡA		2			○	○	
	応用言語学研究ⅡB		2			○	○	
	社会言語学研究ⅠA		2			○	○	
	社会言語学研究ⅠB		2			○	○	
	社会言語学研究ⅡA		2			○	○	
	社会言語学研究ⅡB		2			○	○	
	異文化コミュニケーション研究ⅠA		2			○	○	
	異文化コミュニケーション研究ⅠB		2			○	○	
	異文化コミュニケーション研究ⅡA		2			○	○	
	異文化コミュニケーション研究ⅡB		2			○	○	
	日本語表現研究ⅠA		2			○	○	
	日本語表現研究ⅠB		2			○	○	
	日本語表現研究ⅡA		2			○	○	
	日本語表現研究ⅡB		2			○	○	
	ドイツ語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
	ドイツ語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
	ドイツ語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
	ドイツ語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
	フランス語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
	フランス語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
	フランス語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
	フランス語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
	アメリカ大衆文化研究ⅠA		2			○	○	
	アメリカ大衆文化研究ⅠB		2			○	○	
	アメリカ大衆文化研究ⅡA		2			○	○	
	アメリカ大衆文化研究ⅡB		2			○	○	
	日米現代文化研究ⅠA		2			○	○	
	日米現代文化研究ⅠB		2			○	○	
	日米現代文化研究ⅡA		2			○	○	
	日米現代文化研究ⅡB		2			○	○	
	表象文化研究ⅠA		2			○	○	
	表象文化研究ⅠB		2			○	○	
	表象文化研究ⅡA		2			○	○	
	表象文化研究ⅡB		2			○	○	
	文化社会学研究ⅠA		2			○	○	
	文化社会学研究ⅠB		2			○	○	
	文化社会学研究ⅡA		2			○	○	
	文化社会学研究ⅡB		2			○	○	
	アメリカ文化研究ⅠA		2			○	○	
	アメリカ文化研究ⅠB		2			○	○	
アメリカ文化研究ⅡA		2			○	○		
アメリカ文化研究ⅡB		2			○	○		
近現代日本文学研究ⅠA		2			○	○		
近現代日本文学研究ⅠB		2			○	○		
近現代日本文学研究ⅡA		2			○	○		
近現代日本文学研究ⅡB		2			○	○		
中世・近世日本文学研究ⅠA	※	2			○	○		
中世・近世日本文学研究ⅠB	※	2			○	○		
中世・近世日本文学研究ⅡA	※	2			○	○		
中世・近世日本文学研究ⅡB	※	2			○	○		
古代日本文学研究ⅠA	※	2			○	○		
古代日本文学研究ⅠB	※	2			○	○		
古代日本文学研究ⅡA	※	2			○	○		
古代日本文学研究ⅡB	※	2			○	○		
哲学研究ⅠA		2			○	○		
哲学研究ⅠB		2			○	○		
哲学研究ⅡA		2			○	○		

卒業論文準備科目

※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
国際言語コミュニケーション学科	卒業論文準備科目	哲学研究ⅡB	2			○	○		
		演劇研究ⅠA	2			○	○		
		演劇研究ⅠB	2			○	○		
		演劇研究ⅡA	2			○	○		
		演劇研究ⅡB	2			○	○		
		英語圏文学研究ⅠA	※	2			○		○
		英語圏文学研究ⅠB	※	2			○		○
		英語圏文学研究ⅡA	※	2			○		○
		英語圏文学研究ⅡB	※	2			○		○
		ジェンダー研究ⅠA		2			○		○
		ジェンダー研究ⅠB		2			○		○
		ジェンダー研究ⅡA		2			○		○
		ジェンダー研究ⅡB		2			○		○
		日本文化史研究ⅠA		2			○		○
		日本文化史研究ⅠB		2			○		○
		日本文化史研究ⅡA		2			○		○
		日本文化史研究ⅡB		2			○		○
		日本歴史研究ⅠA		2			○		○
		日本歴史研究ⅠB		2			○		○
		日本歴史研究ⅡA		2			○		○
日本歴史研究ⅡB		2			○	○			
卒業論文		必修	4				○	4単位必修	

※25年度開講せず

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
表現文化学科	教養演習	必修	1	○				1単位必修	
	教養演習(入門)		1	○					
		教養演習(発展)		1		○			
	①思想と表現	哲学		2	○	○			①から⑥までの分野から5つの分野にわたり10単位以上選択履修
		文学		2	○	○			
		芸術		2	○	○			
		心理		2	○	○			
		言語		2	○	○			
		②歴史と社会	歴史		2	○	○		
		法		2	○	○			
		経済		2	○	○			
		社会		2	○	○			
		地理		2	○	○			
	③とスポーツ	健康運動の科学と実践		2	○	○			
	④自然科学と技術	環境の科学		2	○	○			
		自然の科学		2	○	○			
		生命の科学		2	○	○			
		人間と自然科学		2	○	○			
	⑤数理と情報	数理の世界		2	○	○			
		統計の世界		2	○	○			
		コンピュータと情報	必修	2	○	○			
		コンピュータと情報 I		2	○	○			
		コンピュータと情報 II		2	○	○			
	⑥言語とコミュニケーション	英語 A		1	○	○			
		英語 B		1	○	○			
		ドイツ語 A		1	○	○			
		ドイツ語 B		1	○	○			
フランス語 A			1	○	○				
フランス語 B			1	○	○				
スペイン語 A			1	○	○				
スペイン語 B			1	○	○				
中国語 A		1	○	○					
	中国語 B		1	○	○				

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
表現文化学科	専門関連科目	論理学	2	○	○	○	○		
		倫理学	2	○	○	○	○		
		女性学A	2	○	○	○	○		
		女性学B	2	○	○	○	○		
		西洋美術史	2	○	○	○	○		
		文化人類学	2	○	○	○	○		
		文化社会学	2	○	○	○	○		
		言語と文化	2	○	○	○	○		
		言語と社会	2	○	○	○	○		
		日本国憲法	2	○	○	○	○		
		日本文化史	2	○	○	○	○		
		日中比較文化論	2	○	○	○	○		
		日韓交渉史	2	○	○	○	○		
		日本文学史(上代・中古) A	2	○	○	○	○		
		日本文学史(上代・中古) B	2	○	○	○	○		
		日本文学史(中世・近世) A	2	○	○	○	○		
		日本文学史(中世・近世) B	2	○	○	○	○		
		日本文学史(近代・現代) A	2	○	○	○	○		
		日本文学史(近代・現代) B	2	○	○	○	○		
		社会言語学	2	○	○	○	○		
		対照言語学	2	○	○	○	○		
		東海北陸の言語	2	○	○	○	○		
		翻訳言語論	2	○	○	○	○		
		日本語の音声と音韻	2	○	○	○	○		
		日本語文法の基礎A	2	○	○	○	○		
		日本語文法の基礎B	2	○	○	○	○		
		日本語の歴史A	2	○	○	○	○		
		日本語の歴史B	2	○	○	○	○		
		日本語表現のデータベース処理A	2	○	○	○	○		
		日本語表現のデータベース処理B	2	○	○	○	○		
		日本語学概論A	2	○	○	○	○		
		日本語学概論B	2	○	○	○	○		
		日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	2	○	○	○	○		
		日本語表現法②(日本語の話し方)	2	○	○	○	○		
		日本語表現法③(文章分析と表現テクニック)	2	○	○	○	○		
書物の文化史	2	○	○	○	○				
日本伝統文化論A	2	○	○	○	○				
日本伝統文化論B	2	○	○	○	○				
日本語教育方法論A	2	○	○	○	○				
日本語教育方法論B	2	○	○	○	○				
日本語教育実践論	2	○	○	○	○				
日本語教授法演習	1		○	○	○				
日本語教材・教具研究A	2	○	○	○	○				
日本語教材・教具研究B	2	○	○	○	○				
外国語科目	Communicative English(I)A	1	○					うち外国語科目の Communicative English(I) A～(V)B または ドイツ語(I)A～(V)B または フランス語(I) A～(V)Bから いずれかの言語を計10単位以上を履修し、計26単位以上選択履修	
	Communicative English(I)B	1	○						
	Communicative English(II)A	1	○						
	Communicative English(II)B	1	○						
	Communicative English(III)A	1	○						
	Communicative English(III)B	1	○						
	Communicative English(IV)A	1	○						
	Communicative English(IV)B	1	○						
	Communicative English(V)A	1	○						
	Communicative English(V)B	1	○						
	ドイツ語(I)A	1	○						
	ドイツ語(I)B	1	○						
	ドイツ語(II)A	1	○						
	ドイツ語(II)B	1	○						
	ドイツ語(III)A	1	○						
	ドイツ語(III)B	1	○						
	ドイツ語(IV)A	1		○					
	ドイツ語(IV)B	1		○					
	ドイツ語(V)A	1		○					
	ドイツ語(V)B	1		○					
フランス語(I)A	1	○							
フランス語(I)B	1	○							
フランス語(II)A	1	○							
フランス語(II)B	1	○							
フランス語(III)A	1	○							
フランス語(III)B	1	○							

平成23・24年度入学生用

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考	
表現文化学科	フランス語(M)A		1		○					
	フランス語(M)B		1		○					
	フランス語(V)A		1		○					
	フランス語(V)B		1		○					
	TOEIC500(I)A		2		○					
	TOEIC500(I)B		2		○					
	TOEIC500(II)A		2		○					
	TOEIC500(II)B		2		○					
	TOEIC600(I)A		2		○					
	TOEIC600(I)B		2		○					
	TOEIC600(II)A		2		○					
	TOEIC600(II)B		2		○					
	TOEIC700(I)A		2		○					
	TOEIC700(I)B		2		○					
	TOEIC700(II)A		2		○					
	TOEIC700(II)B		2		○					
	資格ドイツ語(独検)A		2		○					
	資格ドイツ語(独検)B		2		○					
	資格フランス語(仏検)A		2		○					
	資格フランス語(仏検)B		2		○					
	日米異文化論		2		○					
	ビジネスのための英語		2		○					
	海外英語演習A		4		○	○				
	海外英語演習B		4		○	○				
	海外英語演習C		2		○	○				
	海外ドイツ語演習A		2		○	○				
海外ドイツ語演習B		4		○	○					
海外フランス語演習		2		○	○					

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
表現文化学科	クラシック・スタディーズ科目群	万葉集読解A		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修
		万葉集読解B		2		○	○	○	
		源氏物語読解A		2		○	○	○	
		源氏物語読解B		2		○	○	○	
		平安朝の生活と文学A		2		○	○	○	
		平安朝の生活と文学B		2		○	○	○	
		中古中世歌人論A		2		○	○	○	
		中古中世歌人論B		2		○	○	○	
		能・狂言		2		○	○	○	
		歌舞伎		2		○	○	○	
		江戸時代の思想と文学		2		○	○	○	
		和歌・俳諧読解		2		○	○	○	
		古文書読解		2		○	○	○	
		中国哲学A		2		○	○	○	
		中国哲学B		2		○	○	○	
		中国文学A	※	2		○	○	○	
		中国文学B	※	2		○	○	○	
		中国古典読解A		2	○	○	○	○	
		中国古典読解B		2	○	○	○	○	
		聖書読解A	◆	2	○	○	○	○	
	聖書読解B	◆	2	○	○	○	○		
	ギリシャ悲劇	◆	2	○	○	○	○		
	ギリシャ哲学	◆	2	○	○	○	○		
	西洋哲学史A	◆	2	○	○	○	○		
	西洋哲学史B	◆	2	○	○	○	○		
	モダン・スタディーズ科目群	日本文学を読むA		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修
		日本文学を読むB		2		○	○	○	
		英語圏文学を読むA	◆	2		○	○	○	
		英語圏文学を読むB	◆	2		○	○	○	
		アメリカ文学史A	◆	2		○	○	○	
		アメリカ文学史B	◆	2		○	○	○	
		近代日本文学読解		2		○	○	○	
		現代日本文学読解		2		○	○	○	
西洋演劇論		◆	2		○	○	○		
文学の理論A			2		○	○	○		
文学の理論B			2		○	○	○		
アメリカ社会の諸問題A		◆	2		○	○	○		
アメリカ社会の諸問題B		◆	2		○	○	○		
アメリカの人種民族問題A		◆	2		○	○	○		
アメリカの人種民族問題B		◆	2		○	○	○		
西洋身体史		※◆	2	○	○	○	○		
日欧比較文化論		◆	2	○	○	○	○		
ドイツ文学を読む		◆	2		○	○	○		
スイス・オーストリア文学を読む		◆	2		○	○	○		
ドイツメルヘン学		※◆	2		○	○	○		
ウィーンの演劇とオペラ		※◆	2		○	○	○		
フランス文学を読む		◆	2		○	○	○		
フランス文化史A		◆	2		○	○	○		
フランス文化史B	◆	2		○	○	○			
フランス思想	◆	2		○	○	○			
ドイツ語文化圏事情A	◆	2		○	○	○			
ドイツ語文化圏事情B	◆	2		○	○	○			
フランス事情A	◆	2		○	○	○			
フランス事情B	◆	2		○	○	○			
ヨーロッパの民族と言語	◆	2		○	○	○			
ヨーロッパ社会論	◆	2	○	○	○	○			
グローバリゼーション論	◆	2	○	○	○	○			
言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○			
非言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○			
ドイツ語会話・中級A	◆	2		○	○	○			
ドイツ語会話・中級B	◆	2		○	○	○			

◆国際言語・表現文化共通開講科目

※25年度開講せず

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考		
表現文化学科	モタン・スタディーズ科目群	ドイツ語会話・上級	◆	2		○	○			
		フランス語会話・中級A	◆	2		○	○			
		フランス語会話・中級B	◆	2		○	○			
		フランス語会話・上級A	◆	2			○	○		
		フランス語会話・上級B	◆	2			○	○		
		ドイツ語で読むグリム	◆	2		○	○	○		
		翻訳(フランス語) A	◆	2		○	○	○		
		翻訳(フランス語) B	◆	2		○	○	○		
		総合ドイツ語 A	◆	2		○	○	○		
		総合ドイツ語 B	◆	2		○	○	○		
		フランス語講読 A	◆	2		○	○	○		
		フランス語講読 B	◆	2		○	○	○		
		ポップ・カルチャー・スタディーズ科目群	映像文化論 A		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修
			映像文化論 B		2		○	○	○	
	アメリカ映画論 A		◆	2	○	○	○	○		
	アメリカ映画論 B		◆	2	○	○	○	○		
	マンガ文化論			2		○	○	○		
	パフォーマンス・アーツ論			2		○	○	○		
	現代風俗文化論			2		○	○	○		
	ポップアート論		◆	2		○	○	○		
	現代女性文学			2		○	○	○		
	エンターテインメント文化論 A			2		○	○	○		
	エンターテインメント文化論 B			2		○	○	○		
	ノンセンシス文学			2		○	○	○		
	テクノロジーと文学		◆	2		○	○	○		
	ファッション論			2		○	○	○		
	現代マスコミ論			2		○	○	○		
	都市とジェンダー			2		○	○	○		
	児童文学 A			2		○	○	○		
	児童文学 B			2		○	○	○		
	現代音楽論			2		○	○	○		
	アミューズメント・カルチャー	※◆	2		○	○	○			
	スポーツ文化論	※	2		○	○	○			
ライフスタイル論 I (米国)	◆	2	○	○	○	○				
ポップカルチャーの理論	◆	2	○	○	○	○				
現代思想	◆	2		○	○	○				
クリエイティブ・スタディーズ科目群	ライフヒストリー研究 A		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修		
	ライフヒストリー研究 B		2		○	○	○			
	ドキュメント制作		2	○	○	○	○			
	マンガ創作 A		2		○	○	○			
	マンガ創作 B		2		○	○	○			
	演劇・パフォーマンス	※	2		○	○	○			
	シナリオ創作		2		○	○	○			
	舞台空間論		2	○	○	○	○			
	映画制作 A		2		○	○	○			
	映画制作 B		2		○	○	○			
	詩歌創作 A		2		○	○	○			
	詩歌創作 B		2		○	○	○			
	小説創作 A		2		○	○	○			
	小説創作 B		2		○	○	○			
	エッセイ創作 A		2		○	○	○			
	エッセイ創作 B		2		○	○	○			
	広告プロデュース		2		○	○	○			
	エディティング(編集)		2		○	○	○			
	ローカル・エリア・スタディーズ		2		○	○	○			
書写・書道 A		2	○	○	○	○				
書写・書道 B		2	○	○	○	○				

◆国際言語・表現文化共通開講科目
※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考	
表現文化学科	卒業論文準備科目	日米比較社会研究ⅠA		2			○	○	うち、いずれかの研究「ⅠAおよびⅠB」ならびに研究「ⅡAおよびⅡB」からそれぞれ2単位ずつ計8単位以上選択履修
		日米比較社会研究ⅠB		2			○	○	
		日米比較社会研究ⅡA		2			○	○	
		日米比較社会研究ⅡB		2			○	○	
		英語学研究ⅠA		2			○	○	
		英語学研究ⅠB		2			○	○	
		英語学研究ⅡA		2			○	○	
		英語学研究ⅡB		2			○	○	
		応用言語学研究ⅠA		2			○	○	
		応用言語学研究ⅠB		2			○	○	
		応用言語学研究ⅡA		2			○	○	
		応用言語学研究ⅡB		2			○	○	
		社会言語学研究ⅠA		2			○	○	
		社会言語学研究ⅠB		2			○	○	
		社会言語学研究ⅡA		2			○	○	
		社会言語学研究ⅡB		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅠA		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅠB		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅡA		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅡB		2			○	○	
		日本語表現研究ⅠA		2			○	○	
		日本語表現研究ⅠB		2			○	○	
		日本語表現研究ⅡA		2			○	○	
		日本語表現研究ⅡB		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅠA		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅠB		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅡA		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅡB		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅠA		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅠB		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅡA		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅡB		2			○	○	
		表象文化研究ⅠA		2			○	○	
		表象文化研究ⅠB		2			○	○	
		表象文化研究ⅡA		2			○	○	
		表象文化研究ⅡB		2			○	○	
		文化社会学研究ⅠA		2			○	○	
		文化社会学研究ⅠB		2			○	○	
		文化社会学研究ⅡA		2			○	○	
		文化社会学研究ⅡB		2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅠA		2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅠB		2			○	○	
アメリカ文化研究ⅡA		2			○	○			
アメリカ文化研究ⅡB		2			○	○			
近現代日本文学研究ⅠA		2			○	○			
近現代日本文学研究ⅠB		2			○	○			
近現代日本文学研究ⅡA		2			○	○			
近現代日本文学研究ⅡB		2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅠA	※	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅠB	※	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅡA	※	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅡB	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅠA	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅠB	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅡA	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅡB	※	2			○	○			
哲学研究ⅠA		2			○	○			
哲学研究ⅠB		2			○	○			
哲学研究ⅡA		2			○	○			

※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
	哲学研究ⅡB		2			○	○	
	演劇研究ⅠA		2			○	○	
	演劇研究ⅠB		2			○	○	
	演劇研究ⅡA		2			○	○	
	演劇研究ⅡB		2			○	○	
	英語圏文学研究ⅠA	※	2			○	○	
	英語圏文学研究ⅠB	※	2			○	○	
	英語圏文学研究ⅡA	※	2			○	○	
	英語圏文学研究ⅡB	※	2			○	○	
	ジェンダー研究ⅠA		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅠB		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅡA		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅡB		2			○	○	
	日本文化史研究ⅠA		2			○	○	
	日本文化史研究ⅠB		2			○	○	
	日本文化史研究ⅡA		2			○	○	
	日本文化史研究ⅡB		2			○	○	
	日本歴史研究ⅠA		2			○	○	
	日本歴史研究ⅠB		2			○	○	
	日本歴史研究ⅡA		2			○	○	
	日本歴史研究ⅡB		2			○	○	
	卒業論文	必修	4				○	4単位必修

※25年度開講せず

第2部

履修ガイド

国際コミュニケーション学部

平成22年度入学生用

1. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

<大学の方針>

椋山女学園大学では、その教育理念「人間になろう」、「椋山女学園大学の目的」、「ディプロマ・ポリシー」等の具現化を期し、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成・実施します。

1. 開講する授業科目は、全学共通科目「人間論」、教養教育科目、専門教育科目、資格関連科目等とします。
2. 教養教育科目と専門教育科目を学士課程教育の核として捉え、両科目をバランス良く配列します。
3. 教養教育科目を全学共通化するとともに、専門教育科目等を精選し、学生の学びが基礎から応用へと発展的に進むように配列します。
4. 身に付いた知識・技術等を統合し、集大成するために卒業論文又は卒業研究等を課します。
5. 初年次から卒業まで、学生が目的、意欲的に学べるように、各学年の履修ガイダンスをきめ細かく実施します。また、いつでもどこでも必要な支援が得られるよう学修支援体制を整備します。
6. シラバスについては、そのコンテンツに「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「何ができるようになるか」という学習成果を加えるとともに、教室外の学習時間の確保や成績評価の基準についてもその内容を明示します。
7. キャリア教育を全学化し、学生の職業的・社会的自立と就業力の育成を図ります。

<学部・学科の方針>

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
国際コミュニケーション学部	<p>国際コミュニケーション学部は、「ことばの力」について学び、外国語及び日本語に関する知識と技能を高めながら、自らのものの考え方を育成するカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 両学科で共通に開かれている「専門共通科目」とそれぞれの学科で開かれている「学科専門科目」がありますが、「学科専門科目」についても両学科の学生が履修できるシステムとする。 2. 「学科専門科目」は、両学科とも、4つの科目群に分け、学生の履修科目選択の自主性を重視するかたちで編成する。 3. 「卒業論文準備科目」を3年次と4年次に履修させ、卒業論文テーマに関連した知識、研究方法、論理的思考力等を育成するように、丁寧な個別指導を行う。
国際言語コミュニケーション学科	<p>国際言語コミュニケーション学科は、高度な外国語能力と専門としての言語文化知識の修得が教育課程の目標です。そのために設置された外国語(アドヴァンスト)科目群、英語コミュニケーション科目群、英語文化圏科目群、ヨーロッパ文化科目群に基づいて、外国語能力を修得し、異文化を理解する力、課題の発見と解決をする力を育成するカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門教育の基礎として1年次に外国語の必修科目を多く配置し、外国語能力の修得を図る。2年次以降は、上級外国語修得のため、アカデミックな外国語、実用的外国語、資格外国語など学習者の志向に幅広く対応する。 2. 教科書による外国語学習に加えて、「外国語を実際に使う」場面を多く提供する。そうした活動の集大成として海外留学を教育課程に位置づけ、多様な留学プログラムを提供する。

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
	<p>3. 卒業後の「コミュニケーションのプロ」を具体的に想定し、その達成に向けて外国言語文化に関する専門科目群の編成を行う。その一方で、専門関連科目に配置した日本語学、日本文化の科目、さらには自由選択の枠で表現文化学科の科目を履修できるようにすることで、多様な履修形態を可能にする。</p> <p>4. 2年次の教養演習（発展）、3、4年次の卒業論文準備科目と各学年に少人数の演習科目を配置し、卒業論文完成に導くカリキュラムを編成する。特に、外国語教育と専門教育の成果として、英語による卒業論文作成を積極的に推進する。</p>
表現文化学科	<p>表現文化学科は、幅広い教養教育科目、外国語科目、全学共通の「人間論」を基盤とし、その上に次のような編成方針による専門科目を積み上げることにより、文化・表現に対する教養を深め、「ことばの力」についての理解を有し、総合的な人間力を備えた人材を育成するカリキュラムを編成します。</p> <p>1. 専門分野に関する基礎的な知識・能力を身につけるため、学科専門科目・専門共通科目を設ける。専門共通科目は、国際コミュニケーション学科と共通の科目として、両学科間の知識・能力の共通化を図る。</p> <p>2. 学科専門科目・専門共通科目においては、時代的・地域的の広がりを持つ知識・教養を身につけるとともに、創造的な技術・能力を身につけるために、次の（3、4）の方針により、4つの科目群を設ける。</p> <p>3. 国内外のクラシックに文化・表現の本質を学び、現代における新しい価値を発見する（クラシック・スタディーズ科目群）とともに、現代的なテーマの考察を通じて、身近な場所から世界までを深く広く考える力を身につけ（モダン・スタディーズ科目群）、さらに時代の先端の文化を分析・批評・評価する力を身につける（ポップカルチャー・スタディーズ科目群）ことを目指す。</p> <p>4. 具体的な表現形態に即して表現論理・表現技術を学び、個性的で新しい文化的表現を創造し、発信する能力を身につける（クリエイティブ・スタディーズ科目群）ことを目指す。</p> <p>5. 卒業論文の作成に向けて、3、4年次を通じて専門分野を集中的に学ぶ（卒業論文準備科目）。それを通じて、文化・表現の分野についての専門的考察をさらに深めるとともに、洞察力、調査能力、問題解決能力、自己表現力等を磨く。</p>

2. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

＜大学の方針＞

椋山女学園大学では、本学に4年以上在学して所定の単位を修得し、かつ次のような能力を身に付けた人に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 基礎体力及び健全なこころとからだ
2. 文化、社会、自然等に関する基礎的な知識・理解
3. コミュニケーション・スキル、数量的スキル、問題解決能力等の汎用的技能
4. 自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等の態度・志向性
5. 上記の1～4を基盤として涵養される情操、創造力、批判的思考力、実践力等からなる人間として善く生きる力

＜学部・学科の方針＞

学部・学科名	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
国際コミュニケーション学部	<p>国際コミュニケーション学部は、「コミュニケーション能力」を持った「言語・文化の専門家」を育成することを教育目標にし、次の能力を身につけた人に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語と文化に関する確かな知識を修得し、社会の中で活躍することができる能力（知識・理解）。 2. 外国の社会文化と比較し、日本の社会文化の認識を深める能力（分析・判断）。 3. 外国語あるいは日本語による自己表現能力を高め、コミュニケーション能力（技能・表現）。
国際言語コミュニケーション学科	<p>国際言語コミュニケーション学科は、外国語特に英語による「コミュニケーションのプロ」を育成することを教育目標とし、その実現を意図した教育課程を編成しています。卒業までに次の資質を身につけた人に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国語とコミュニケーションに関する確かな知識を修得し、異文化の多様な側面を理解することができる（知識・理解）。 2. 高度な外国語能力をもとに、相手の立場を把握しながら、コミュニケーション上の問題を理解することができる（分析・判断）。 3. 外国語による自己表現力を高め、異文化において人間関係を形成し発展させることができる（技能・表現）。 4. 国際的な視野を育成するために、多様な科目選択、卒業研究を通じて、自らの関心に基づいた主体的な学修ができる（関心・態度）。
表現文化学科	<p>表現文化学科は、文化的素養を基礎として、他者への理解と適切な自己表現の力を身につけ、多様化する社会で活躍できる学士力を有すると認められた人に学士の学位を授与します。</p> <p>卒業者に求められる学士力に関する主な内容は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自国の文化、諸外国の文化に関する豊かな知識と理解 2. 「ことば」を中心とする様々な形態の表現を分析し理解する能力 3. 文化的専門分野に関する深い考察を通じて身につけた洞察力と問題解決能力 4. 新しい文化的価値を自ら生み出し表現する能力 5. 他者への理解力と適切な自己表現力に支えられたコミュニケーション能力

3. カリキュラムの特色・構成・趣旨

本学部の授業科目は「全学共通科目」「教養教育科目」「専門教育科目」から成っています。このうち「教養教育科目」は「教養演習」と「教養基礎科目」から成り、「専門教育科目」は「専門共通科目」「学科専門科目」「卒業論文準備科目」および「卒業論文」から成っています。

カリキュラムの編成上、一番の特色は、2つの学科に共通の科目が多いということです。2学科共通の「教養教育科目」の上に、「専門教育科目」が配置されていますが、その「専門教育科目」の中でも「専門共通科目」「卒業論文準備科目」「卒業論文」は2学科共通で、各学科固有の科目は「学科専門科目」のみという編成になっています。しかも、この「学科専門科目」には、2学科間相互に開放された科目が多数設定されており、シラバス（授業内容一覧）では各学科の専門科目の後に「共通関連科目」として一括掲載されています。これは、学生の皆さんの知的関心の多様性に応えるための方策です。

また、卒業要件126単位中、自由選択を24単位認めており、意欲のある学生はこの単位の範囲内で、他学部、他学科（開放科目のみ）の授業を受講できます。青年期は、自己認識や世界・社会に対する認識が大きく変動したり、それに応じて将来に描く夢や希望が変化したりする時期です。このような変化・変動に柔軟に対応できるカリキュラムこそ、新しい時代の文系学部に求められるべきものであろうと考えています。

カリキュラムの趣旨と概要を以下に記します。

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 全学共通科目
「人間論」 | <p>本学では、建学の精神「人間になろう」の理念を皆さんに体得していただくために、「人間論」を全学共通の必修科目としています。</p> <p>本学部では、すべての学問、知識、技術は人間に対する豊かな共感と深い思索を伴って初めて十分な意義を発揮するという認識のもとに「人間論」を開講しています。皆さんには、この科目を通じて人間への洞察ならびに自己認識を深めていただきたいと考えています。</p> |
| 2. 教養教育科目 | <p>教養教育科目は、「教養演習」と「教養基礎科目」から成ります。</p> <p>○教養演習</p> <p>新入生の皆さんが最大限多い学生生活を送ることができるようにとの配慮から開設した科目で、1年次前期に開講される「教養演習（入門）」（必修科目）と、2年次前期に開講される「教養演習（発展）」（選択科目）とから成っています。前者では、大学での学習に備えるため少人数クラスで書物の読み方、資料の探し方、意見の発表の仕方、学術的な文章の書き方などを学びます。後者は、専門教育科目、特に3・4年次に開講される「卒業論文準備科目」全般に向けて、教養演習（入門）と同じ訓練をより専門的におこなうための科目です。</p> <p>○教養基礎科目</p> <p>教養基礎科目には次の6領域があります。</p> <p><①思想と表現></p> |

人類が築き上げた思想、芸術、文化等ならびにその受容のあり方を学び、人間の精神活動全般への理解を深めることによって、人間の事象に対する正確な判断力と豊かな自己表現能力の基礎を養うことを目的としています。

<②歴史と社会>

現代に至るまでの人類の歩みや、社会のさまざまな仕組み・事象を総合的に理解する能力を養うことを目的としています。地球上のさまざまな地域の人々の歴史、社会、生活のあり方を学ぶことにより、自分自身や世界の将来を切り拓く想像力を養ってください。

<③健康運動とスポーツ>

充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフを創造するための知識や技術をスポーツを実践しながら体験します。

<④自然と科学技術>

文明の誕生以来、人間社会は科学・技術の進歩と発展によって支えられてきました。その背景には地球とそこに棲む生物があり、人間はこれらの自然によって生かされて生活してきました。しかし、現代、人間社会は、環境・資源・人口など、人間の生存に関わる問題への新たな対応を迫られています。この領域は、自然と科学技術への深い理解に基づいた、人間の生き方に関する選択・決定能力を養うことを目的としています。

<⑤数理と情報>

現代社会は、高度で高速な情報処理と伝達によって特徴づけられています。この領域では、コンピュータの情報処理システムの構造や原理、数理科学の思考方法や解析方法の基礎を学び、現代社会において必要とされる数量・空間感覚や情報を処理し活用する能力を養います。

<⑥言語とコミュニケーション>

この領域は、国際化の浸透する現代社会を生きるための基本的能力である外国語コミュニケーション能力の養成を目的としています。

3. 専門教育科目

専門教育科目は、「専門共通科目」「学科専門科目」「卒業論文準備科目」「卒業論文」から成ります。

○専門共通科目

「国際言語コミュニケーション学科」「表現文化学科」の両学科に等距離に関わり、すべてテーマごとに教養基礎科目を発展させた科目と位置づけることができます。語学関係では、日本語教員資格に関する科目や、英語、ドイツ語、フランス語などの科

目、またこれら外国語の資格に関する科目、さらに海外留学に関連した科目などが多数開講され、国際コミュニケーション学部の学生にふさわしく、皆さんが《世界の中のわたし》という視点に立って、自分自身の母国語である日本語を再認識するとともに、外国語運用能力の向上と異文化理解の促進を図れるよう科目編成されています。また、すでに国際文化としての位置づけを得ている日本の文学、文化に関する科目も多く開講され、それらの学問的成果の理解を図ることができるよう科目編成されています。専門共通科目は、外国語に関わる科目を一括した「外国語科目」とその他の科目を一括した「専門関連科目」とに分けられていますが、皆さんは、これらの科目全体の中から自らの興味にもとづいて自由に履修し、学科専門科目や卒業論文準備科目での学修、研究がより幅広く、かつ深まるような知識や考え方を養ってください。

○学科専門科目

「国際言語コミュニケーション学科」「表現文化学科」それぞれに4つの科目群が設定されています。

【国際言語コミュニケーション学科】

①「外国語（アドヴァンスト）科目群」

スピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの4技能の徹底した訓練に加え、新聞・雑誌英語、観光専門英語、翻訳（英語）、通訳（英語）、英会話ストラテジー、ディスカッションなどを学びます。ドイツ語、フランス語の上級科目として、翻訳、会話などを学ぶこともでき、幅広い異文化コミュニケーションの能力を育成します。

②「英語コミュニケーション科目群」

外国語としての英語の仕組み、面白さを学びながら、コンピュータやインターネットと英語の関係など、「英語の現在」を分析し考察します。また、人と人とのコミュニケーションのあり方、コミュニケーションの理論などを修得し、人と人との相互理解を深める英語力、文化的スキルを養成します。

③「英語文化圏科目群」

異文化への理解がなければ外国語能力の上達には限界があります。英語が使われている地域のさまざまな文化、歴史、社会問題などを学ぶことによって、語り聴く内容の面からも英語力を高めてください。

④「ヨーロッパ文化科目群」

フランス語圏、ドイツ語圏の言語文化の学習を中心に、さらにヨーロッパ文化全体の根源をも学習するための科目群です。この科目群は「外国語（アドヴァンスト）科目群」と相俟って2言語以上の外国語理解に立つ国際性を身につけた人材を育てることを目標とします。

【表現文化学科】

①「クラシック・スタディーズ科目群」

クラシックとは、何百年にもわたって常に新鮮であることが実証されてきたものことです。クラシックを学習することにより、人類全体の文化的遺産についての教養を深めるとともに、《新しい自己》を発見する喜びを体験してください。

②「モダン・スタディーズ科目群」

人間の歴史を大きく塗り替えた「近代」の思想的基盤を、鋭く見抜く洞察力を養成する科目群です。法律論、社会論、ジェンダー論、文学論などの「論じる学」を講述し、現代の世界と文化のパラダイムを深く広く考察する力を養います。ドイツ語、フランス語の上級科目も数多く開講されています。

③「ポップ・カルチャー・スタディーズ科目群」

日常生活にあるさまざまな文化、ポップ・カルチャーは、私たちに一番身近な文化です。伝統との切断を意図した文化の様相に触れることで、変化する時代の先端に向けて自己発信するセンスを磨く科目群です。

④「クリエイティブ・スタディーズ科目群」

人は文化の中に生まれると同時に、文化を創りながら生きています。私たち一人ひとりが文化の創造者であり、文化の表現者なのです。日本語を用いて表現し、日本語を創造し、自己発信する能力を養成し、その楽しさを味わう科目群です。

○卒業論文準備科目

少人数クラスで行われる3、4年次開講の科目です。専門共通科目や学科専門科目の学習を背景にして、皆さんが各自、自分自身の知的関心に基づいて、その関心に適合すると考える専任教員のもとで、より専門性を深め、卒業論文の準備のための学習を進めます。皆さんの多様な関心に応えるため、専任教員のほとんどがこの科目を担当します。

○卒業論文

「卒業論文」は、国際コミュニケーション学部における4年間の学習成果を具体的な形で表現する4年次の重要な課題です。本学部の学生は、卒業するために「卒業論文」を必ず提出し、4単位を修得しなければなりません。課題は、皆さんが学部生として過ごした数年間に自分自身のうちに芽生え、成育した問題意識に応じて、自分自身の主体性のもとで決定してください。

「卒業論文」の作成、執筆は、それぞれ決められた教員の指導のもとで行います。

「卒業論文」の形式（分量、執筆要項、表紙など）、提出期限、提出先およびその他の詳細については、その都度提示でお知らせしますので注意してください。

4. 履修のためのガイドライン

本学部では、卒業後の多様な進路を想定して、幅広い授業科目を用意しています。全学共通科目、教養教育科目、外国語教育を含む専門共通科目、各学科4つの科目群から成る学科専門科目、卒業論文準備科目、そして、卒業論文を段階的に履修することにより、基礎から幅広い専門教育へと展開していくよう指導します。皆さんは、それぞれの科目の枠を考慮し多様な科目を体系的に履修する際に、各学科における代表的な3つの履修モデルを参考にしてください。

1. 「国際言語コミュニケーション学科」モデルコース

履修モデルA（英語とコミュニケーション）

履修モデルAでは、主として国際的なサービス業の分野で活躍できる人材を育成するために、英語の運用能力を中心とした実践外国語の修得、異文化に適応する能力の養成、そして、その背景の知識としての異文化理解、外国語による交渉能力の向上、コンピュータ・リテラシーの修得をめざします。

[年次と科目例]

1年次：Communicative English、フランス語、社会、文学、言語、芸術、地理、法、コンピュータと情報 など

2年次：Academic English、実践英語、海外英語演習、異文化適応論、世界のさまざまな英語、TOEIC600、日本語表現法②（日本語の話し方） など

3年次：Expressive English、英会話ストラテジー、英語における女性語、言語コミュニケーション論、非言語コミュニケーション論、英語とコミュニケーション、異文化コミュニケーション研究Ⅰ など

4年次：異文化コミュニケーション研究Ⅱ、卒業論文 など

[活躍が期待できる分野]

航空関係職、旅行会社、ホテル、観光通訳ガイド、ツアーコンダクター など

履修モデルB（国際社会とビジネス）

履修モデルBでは、とくに、国際的なビジネスの分野で活躍できる人材を育成するために、高度な英語の運用能力を前提として、外国留学体験に基づいた諸外国の歴史、文化、社会への理解をさらに深める専門領域を中心に学習させます。また、ビジネスに直接関連するコンピュータ・リテラシー、プレゼンテーション能力などのスキルとビジネス文化を理解する科目も修得してください。

〔年次と科目例〕

- 1年次：Communicative English、ドイツ語、社会、地理、経済、法、コンピュータと情報、統計の世界 など
- 2年次：Academic English、TOEIC600、日本語表現法①（ビジネス文書等の作成）、異文化適応論、アメリカ文化論、アメリカの政治と社会、アメリカ現代社会、〈国際コミュニケーション学部が主催する中期留学〉 など
- 3年次：ビジネスのための英語、資格ドイツ語（独検）、Expressive English、異文化コミュニケーション論、アメリカ社会の諸問題、アメリカの人種民族問題、アメリカのビジネス、日米比較社会研究Ⅰ など
- 4年次：日米比較社会研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

海外貿易関連事業、商社、外資系企業、一般企業の海外事業部、国際秘書 など

履修モデルC（国際交流）

履修モデルCでは、民間および官公庁で行われているさまざまなレベルでの国際交流事業の分野で活躍できる人材を育成するために、さまざまな外国語（この場合は英語とフランス語）の運用能力と時事問題への関心を高めるための科目を中心に学習させます。また、文化交流事業で相互理解を推進する役割を果たすために、各国の事情を理解するだけでなく、日本文化を理解し、さらに発信する能力を高めます。

〔年次と科目例〕

- 1年次：Communicative English、フランス語、文学、哲学、芸術、言語、歴史、社会、地理、法、コンピュータと情報 など
- 2年次：通訳（英語）、文化人類学、日本文化史、Academic English、実践英語、言語コミュニケーション論、異文化適応論、海外英語演習、日中比較文化論 など
- 3年次：言語と社会、英語における女性語、英会話ストラテジー、Expressive English、フランス事情、フランス思想、翻訳（フランス語）、英語とコミュニケーション、フランス語圏文化・思想研究Ⅰ など
- 4年次：フランス語圏文化・思想研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

異文化交流事業、官公庁国際交流部門、国際協力開発、国際的なNPOなどの団体、英語教員、英会話学校講師 など

2. 「表現文化学科」モデルコース

履修モデルA（教育と文化）

履修モデルAでは、「文化ビジネス」※のうち、教育機関や教育サービス産業、各種文化団体や施設などで活躍できる人材を育成するために、まず外国語の修得（この場合はドイツ語）を重視し、次に学科専門科目としてクラシック・スタディーズとモダン・スタディーズを中心とした、いわば社会全体に共有されている文化教養を身につけることをめざします。また、幅広い教養や文化の発信力が必要になることから、専門共通科目やクリエイティブ・スタディーズ科目群からの履修も指導します。

〔年次と科目例〕

1年次：ドイツ語（Ⅰ）－（Ⅲ）、哲学、文学、言語、歴史、法、社会、日本文化史、言語と文化、日本文学史（上代・中古）、日本国憲法 など

2年次：ドイツ語（Ⅳ）、（Ⅴ）、資格ドイツ語（独検）、平安朝の生活と文学、聖書読解、現代思想、文学の理論、現代女性文学 など

3年次：ドイツ語会話・中級、地中海世界、万葉集読解、フランス思想、詩歌創作、小説創作、書写・書道、ドイツ語圏文化・思想研究Ⅰ、哲学研究Ⅰ など

4年次：哲学研究Ⅱ、西洋哲学史、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

国語教員、学芸員、予備校・学習塾講師、カルチャーセンターの企画・広報、広告会社 など

履修モデルB（文化とビジネス）

履修モデルBでは、「文化ビジネス」※のうち、ビジネスを文化の面からサポートし、また、文化をビジネスとして展開する分野で活躍できる人材を育成するために、それに必要な英語運用能力の修得を重視し、英語圏中期留学にも参加できるように指導します。また、学科専門科目ではモダン・スタディーズを中心にした科目を履修することが目的に合致していますが、例えば、日本の古典文学や芸能についても学び、一方で韓国・アメリカ・ヨーロッパの外交問題や社会問題の知識を修得して、文化交流についての理解を深めるという履修の仕方も考えられます。

〔年次と科目例〕

1年次：Communicative English、心理、言語、法、経済、社会、地理、統計の世界、言語と社会、コンピュータと情報、アメリカ映画論 など

2年次：日本語表現法①（ビジネス文書等の作成）、TOEIC500、日本伝統文化論、万葉集読解、ポップカルチャーの理論、英語圏文学を読む、〈国際コミュニケーション学部が主催する中期留学〉 など

3年次：TOEIC600、歌舞伎、日韓交渉史、アメリカ社会の諸問題、言語コミュニケーション論、エディティング（編集）、広告プロデュース、日米比較社会研究Ⅰ、アメリカ文化研究Ⅰ など

4年次：アメリカ文化研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

アナウンサー、雑誌・書籍の編集、新聞社、広告会社、印刷会社、企業・自治体の広報関係 など

履修モデルC（文化創造）

履修モデルCでは「文化ビジネス」※のうち、芸術・娯楽作品の創作のほか、新聞・放送・広告などの各種メディアや出版などの文化を創造する分野で活躍できる人材を育成するために、文化の発信力を身につける科目を中心とした履修を勧めます。そのためには学科専門科目のポップ・カルチャー・スタディーズ科目群とクリエイティブ・スタディーズ科目群の履修が中心となります。また、外国語の修得（この場合はフランス語）にも力を注ぎ、クリエイティブ・スタディーズ科目群での達成を高度なものにするために、クラシック、モダン両科目群の履修も勧めます。

〔年次と科目群〕

1年次：フランス語（Ⅰ）－（Ⅲ）、文学、芸術、哲学、言語、歴史、社会、コンピュータと情報、女性学、西洋美術史、海外フランス語演習、生命の科学、日本文学史（近代・現代）、アメリカ映画論 など

2年次：フランス語（Ⅳ）、（Ⅴ）、近代日本文学読解、現代日本文学読解、映像文化論、映画制作、ファッション論、エッセイ創作、シナリオ創作、エディティング（編集）、ポップアート論、現代音楽論、広告プロデュース など

3年次：日本語表現法③（文章分析と表現テクニック）、フランス事情、エンターテインメント文化論、児童文学、小説創作、ライフヒストリー研究、表象文化研究Ⅰ など

4年次：表象文化研究Ⅱ、卒業論文 など

〔活躍が期待できる分野〕

TV番組制作、コピーライター、企業・自治体の企画・広報関係、新聞社、学芸員、雑誌・書籍の編集 など

※「文化ビジネス」とは、単に文化一般に関わるビジネスだけでなく、さらに広く文化的な思考・感性・教養を要請し組み込んだビジネスをも包括する幅広い意味合いを持つ概念である。文系学部卒業生のこれまでの実際の進路からみた場合、この「文

化ビジネス」を選択する志向性が強い。高度に成長した消費社会において、社会・企業の側も、今日、製品や商品の企画、開発、製造、営業、販売等々の局面で有効な概念構築やイメージ戦略に意を注いでおり、女性の意識や感性を活かした観点からの参入を求めており、その傾向は確実に増大している。新学部、とくに表現文化学科を構想するに際し、卒業後の進路として想定されるさまざまな職業を包括する言葉を模索する過程で創られた概念である。

5. 卒業資格について

4年以上在学し、所定の単位数を修得した者には卒業資格が与えられます。

卒業までに必要な最低修得単位数は次の表のとおりです。

授業科目区分		学 科	
		国際言語コミュニケーション学科	表現文化学科
全学共通科目「人間論」		2単位	
教 養 教 育 科 目	教養演習	1単位	
	①「思想と表現」	10単位	
	②「歴史と社会」		
	③「健康運動とスポーツ」		
	④「自然と科学技術」		
	⑤「数理と情報」		
	⑥「言語とコミュニケーション」		
上記(教養演習及び教養基礎科目)から		20単位	
専 門 教 育 科 目	専門共通科目	32単位	26単位
	学科専門科目	36単位	42単位
	卒業論文準備科目	8単位	
	卒業論文	4単位	
(自由選択) *		24単位	
卒業に必要な単位数の合計		126単位	

*印は、教養教育科目、専門教育科目、国際コミュニケーション学部の他の学科の専門教育科目、教職に関する科目及び学則第20条の2から第20条の5までに規定するいずれの科目から修得してもよい。ただし、教職に関する科目及び学則第20条の2から第20条の5までに規定する他の大学等において修得した単位は12単位、国際コミュニケーション学部が主催する中期留学において修得した単位は16単位を上限として自由選択の単位とする。

【(自由選択)の単位に含まれるもの】

国際言語コミュニケーション学科	表現文化学科
1. 国際言語コミュニケーション学科で開設している教養教育科目、専門教育科目	1. 表現文化学科で開設している教養教育科目、専門教育科目
2. 表現文化学科のみで開設されている学科専門科目	2. 国際言語コミュニケーション学科のみで開設されている学科専門科目
3. 国際コミュニケーション学部が主催する中期留学において修得した単位（「5. 中期留学に伴う単位認定制度」を参照）	3. 国際コミュニケーション学部が主催する中期留学において修得した単位（「5. 中期留学に伴う単位認定制度」を参照）
4. 教職に関する科目（上限12単位まで）	4. 教職に関する科目（上限12単位まで）
5. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目（上限12単位まで） ①英語検定試験（実用英語技能検定試験、TOEFLおよびTOEFLITP、TOEICおよびTOEICIP）によって得た、級または得点（「6. 英語検定試験による単位認定制度」を参照） ②本学での他学部・他学科の開放科目 ③愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目 ④安全教育に関する科目	5. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目（上限12単位まで） ①英語検定試験（実用英語技能検定試験、TOEFLおよびTOEFLITP、TOEICおよびTOEICIP）によって得た、級または得点（「6. 英語検定試験による単位認定制度」を参照） ②本学での他学部・他学科の開放科目 ③愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目 ④安全教育に関する科目

6. 授業科目学年配当表

国際言語コミュニケーション学科（平成22年度入学生）

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考	
国際言語コミュニケーション学科	教養演習	教養演習(入門)	必修	1	○			1単位必修	
		教養演習(発展)		1		○			
	① 思想と表現	哲学		2	○	○			うち①から⑥までの分野から5つの分野にわたり10単位以上選択履修
		文学		2	○	○			
		芸術		2	○	○			
		心理		2	○	○			
		言語		2	○	○			
	② 歴史と社会	歴史		2	○	○			
		法		2	○	○			
		経済		2	○	○			
		社会		2	○	○			
	③ スポーツと健康運動	健康運動の科学と実践		2	○	○			
		環境の科学		2	○	○			
	④ 自然科学と技術	自然の科学		2	○	○			
		生命の科学		2	○	○			
		人間と自然科学		2	○	○			
		数理の世界		2	○	○			
	⑤ 数理と情報	統計の世界		2	○	○			
		コンピュータと情報	必修	2	○	○			
		コンピュータと情報Ⅰ		2	○	○			
		コンピュータと情報Ⅱ		2	○	○			
	⑥ 言語とコミュニケーション	英語A		1	○	○			
		英語B		1	○	○			
		ドイツ語A		1	○	○			
		ドイツ語B		1	○	○			
		フランス語A		1	○	○			
		フランス語B		1	○	○			
		スペイン語A		1	○	○			
スペイン語B			1	○	○				
中国語A		1	○	○					
中国語B		1	○	○					

平成22年度入学生用

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
国際言語コミュニケーション学科	専門関連科目	論理学	2	○	○	○	○	うち外国語科目の Communicative English (I) A～(V)B の10単位必修さらに ドイツ語(I)A～(III)B または フランス語(I)A～(III)B のいずれか6単位を履修し、計32単位以上選択履修
		倫理学	2	○	○	○	○	
		女性学A	2	○	○	○	○	
		女性学B	2	○	○	○	○	
		西洋美術史	2	○	○	○	○	
		文化人類学	2	○	○	○	○	
		言語と文化	2	○	○	○	○	
		言語と社会	2	○	○	○	○	
		日本国憲法	2	○	○	○	○	
		日本文化史	2	○	○	○	○	
		日中比較文化論	2	○	○	○	○	
		日韓交渉史	2	○	○	○	○	
		日本文学史(上代・中古)A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(上代・中古)B	2	○	○	○	○	
		日本文学史(中世・近世)A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(中世・近世)B	2	○	○	○	○	
		日本文学史(近代・現代)A	2	○	○	○	○	
		日本文学史(近代・現代)B	2	○	○	○	○	
		社会言語学	2	○	○	○	○	
		対照言語学	2	○	○	○	○	
		東海北陸の言語	2	○	○	○	○	
		翻訳言語論	2	○	○	○	○	
		日本語の音声と音韻	2	○	○	○	○	
		日本語文法の基礎A	2	○	○	○	○	
		日本語文法の基礎B	2	○	○	○	○	
		日本語の歴史A	2	○	○	○	○	
		日本語の歴史B	2	○	○	○	○	
		日本語表現のデータベース処理A	2	○	○	○	○	
		日本語表現のデータベース処理B	2	○	○	○	○	
		日本語学概論A	2	○	○	○	○	
	日本語学概論B	2	○	○	○	○		
	日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	2	○	○	○	○		
	日本語表現法②(日本語の話し方)	2	○	○	○	○		
	日本語表現法③(文章分析と表現テクニック)	2	○	○	○	○		
	書物の文化史	2	○	○	○	○		
	日本伝統文化論A	2	○	○	○	○		
	日本伝統文化論B	2	○	○	○	○		
	日本語教育方法論A	2	○	○	○	○		
	日本語教育方法論B	2	○	○	○	○		
	日本語教育実践論	2	○	○	○	○		
日本語教授法演習	1		○	○	○			
日本語教材・教具研究A	2	○	○	○	○			
日本語教材・教具研究B	2	○	○	○	○			
外国語科目	Communicative English(I)A		1	○				Communicative English (I) A～(V)Bの10単位必修さらに ドイツ語(I)A～(III)B または フランス語(I)A～(III)B のいずれか6単位を選択履修
	Communicative English(I)B		1	○				
	Communicative English(II)A		1	○				
	Communicative English(II)B		1	○				
	Communicative English(III)A		1	○				
	Communicative English(III)B		1	○				
	Communicative English(IV)A		1	○				
	Communicative English(IV)B		1	○				
	Communicative English(V)A		1	○				
	Communicative English(V)B		1	○				
	ドイツ語(I)A		1	○				
	ドイツ語(I)B		1	○				
	ドイツ語(II)A		1	○				
	ドイツ語(II)B		1	○				
	ドイツ語(III)A		1	○				
	ドイツ語(III)B		1	○				
ドイツ語(IV)A		1		○				
ドイツ語(IV)B		1		○				
ドイツ語(V)A		1		○				
ドイツ語(V)B		1		○				

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
国際言語コミュニケーション学科	フランス語(I)A		1	○					
	フランス語(I)B		1	○					
	フランス語(II)A		1	○					
	フランス語(II)B		1	○					
	フランス語(III)A		1	○					
	フランス語(III)B		1	○					
	フランス語(IV)A		1		○				
	フランス語(IV)B		1		○				
	フランス語(V)A		1		○				
	フランス語(V)B		1		○				
	TOEIC500(I)A		2		○				
	TOEIC500(I)B		2		○				
	TOEIC500(II)A		2		○				
	TOEIC500(II)B		2		○				
	TOEIC600(I)A		2		○				
	TOEIC600(I)B		2		○				
	TOEIC600(II)A		2		○				
	TOEIC600(II)B		2		○				
	TOEIC700(I)A		2		○				
	TOEIC700(I)B		2		○				
	TOEIC700(II)A		2		○				
	TOEIC700(II)B		2		○				
	資格ドイツ語(独検)A		2		○				
	資格ドイツ語(独検)B		2		○				
	資格フランス語(仏検)A		2		○				
	資格フランス語(仏検)B		2		○				
	日米異文化論		2		○				
	ビジネスのための英語		2		○				
	海外英語演習A		4	○	○				
	海外英語演習B		4	○	○				
	海外ドイツ語演習A		2	○	○				
	海外ドイツ語演習B		4		○				
	海外フランス語演習		2	○	○				

平成22年度入学生用

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考	
国際言語コミュニケーション学科	外国語（アドヴァンスト）科目群	Academic English A		2		○		うち2科目 4単位以上 選択履修		
		Academic English B		2		○				
		Academic English C		2		○				
		Academic English D		2		○				
		Academic English E		2		○				
		Academic English F		2		○				
		Expressive English A		2			○			
		Expressive English B		2			○			
		Expressive English C		2			○			
		Expressive English D		2			○			
		ライフスタイル論Ⅰ（米国）	◆	2	○	○	○			○
		ライフスタイル論Ⅱ（豪州）		2		○	○			○
		観光専門英語 A		2		○	○			○
		観光専門英語 B		2		○	○			○
		映画と音楽で学ぶ英語 A		2		○	○			○
		映画と音楽で学ぶ英語 B		2		○	○			○
		英語短編小説を読む		2		○	○			○
		実践英語Ⅰ（リスニング）		2		○	○			○
		実践英語Ⅱ（リーディング）		2		○	○			○
		実践英語Ⅲ（ディスカッション）		2		○	○			○
		翻訳（英語）A		2		○	○			○
		翻訳（英語）B		2		○	○			○
		通訳（英語）A		2		○	○			○
		通訳（英語）B		2		○	○			○
		Time/Newsweekを読む		2		○	○			○
		英会話ストラテジー		2		○	○			○
		ドイツ語会話・中級 A	◆	2		○	○			○
		ドイツ語会話・中級 B	◆	2		○	○			○
		ドイツ語会話・上級	◆	2		○	○			○
		フランス語会話・中級 A	◆	2		○	○			○
		フランス語会話・中級 B	◆	2		○	○			○
		フランス語会話・上級 A	◆	2		○	○			○
		フランス語会話・上級 B	◆	2		○	○			○
		ドイツ語で読むグリム	◆	2		○	○			○
		翻訳（フランス語）A	◆	2		○	○			○
		翻訳（フランス語）B	◆	2		○	○			○
総合ドイツ語 A	◆	2		○	○	○				
総合ドイツ語 B	◆	2		○	○	○				
フランス語講読 A	◆	2		○	○	○				
フランス語講読 B	◆	2		○	○	○				
英語コミュニケーション科目群	英語学入門		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修		
	英語の科学		2		○	○	○			
	英語と社会		2		○	○	○			
	世界のさまざまな英語		2		○	○	○			
	英語における女性語		2		○	○	○			
	英語の丁寧表現		2		○	○	○			
	コンピュータ利用の英語研究		2		○	○	○			
	日英会話分析		2		○	○	○			
	英語音声学		2		○	○	○			
	英語と心理		2		○	○	○			
	異文化適応論		2		○	○	○			
	言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○			
	非言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○			
	英語とコミュニケーション A		2		○	○	○			
英語とコミュニケーション B		2		○	○	○				
英語文化圏科目群	異文化コミュニケーション論 A		2		○	○	○	うち18科目 36単位以上 選択履修		
	異文化コミュニケーション論 B		2		○	○	○			
	スクリーンと文学		2		○	○	○			
	アメリカ文学史 A	◆	2		○	○	○			
	アメリカ文学史 B	◆	2		○	○	○			
	アメリカ現代社会		2	○	○	○	○			
	アメリカ史		2	○	○	○	○			
	アメリカ社会の諸問題 A	◆	2		○	○	○			
アメリカ社会の諸問題 B	◆	2		○	○	○				
アメリカの人種民族問題 A	◆	2		○	○	○				
アメリカの人種民族問題 B	◆	2		○	○	○				

◆国際言語・表現文化共通開講科目

平成22年度入学生用

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考		
国際言語コミュニケーション学科	英語文化圏科目群	ポップカルチャーの理論 ◆	2	○	○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修		
		アメリカのビジネス	2	○	○	○	○			
		アメリカ映画論A ◆	2	○	○	○	○			
		アメリカ映画論B ◆	2	○	○	○	○			
		アメリカの政治と社会	2	○	○	○	○			
		スポーツ文化論 ※◆	2	○	○	○	○			
		アミューズメント・カルチャー ※◆	2	○	○	○	○			
		アメリカ文化論	2	○	○	○	○			
		英語圏文学を読むA ◆	2	○	○	○	○			
		英語圏文学を読むB ◆	2	○	○	○	○			
		テクノロジーと文学 ◆	2	○	○	○	○			
		ポップアート論 ◆	2	○	○	○	○			
		ヨーロッパ文化科目群	ドイツ文学を読む ◆	2	○	○	○		○	うち2科目 4単位以上 選択履修
			スイス・オーストリア文学を読む ◆	2	○	○	○		○	
	ドイツメルヘン学 ※◆		2	○	○	○	○			
	ウィーンの演劇とオペラ ※◆		2	○	○	○	○			
	フランス文学を読む ◆		2	○	○	○	○			
	フランス文化史A ◆		2	○	○	○	○			
	フランス文化史B ◆		2	○	○	○	○			
	フランス思想 ◆		2	○	○	○	○			
	ドイツ語文化圏事情A ◆		2	○	○	○	○			
	ドイツ語文化圏事情B ◆		2	○	○	○	○			
	フランス事情A ◆		2	○	○	○	○			
	フランス事情B ◆		2	○	○	○	○			
	ヨーロッパの民族と言語 ◆		2	○	○	○	○			
	西洋身体史 ※◆	2	○	○	○	○				
	西洋演劇論 ◆	2	○	○	○	○				
現代思想 ◆	2	○	○	○	○					
西洋哲学史A ◆	2	○	○	○	○					
西洋哲学史B ◆	2	○	○	○	○					
ギリシャ哲学 ◆	2	○	○	○	○					
ギリシャ悲劇 ◆	2	○	○	○	○					
地中海世界 ※◆	2	○	○	○	○					
日欧比較文化論 ◆	2	○	○	○	○					
聖書読解A ◆	2	○	○	○	○					
聖書読解B ◆	2	○	○	○	○					

◆国際言語・表現文化共通開講科目

※25年度開講せず

平成22年度入学生用

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
国際言語コミュニケーション学科	日米比較社会研究ⅠA		2			○	○	うち、いずれかの研究「ⅠAおよびⅠB」ならびに研究「ⅠAおよびⅠB」からそれぞれ2単位ずつ計8単位以上選択履修
	日米比較社会研究ⅠB		2			○	○	
	日米比較社会研究ⅡA		2			○	○	
	日米比較社会研究ⅡB		2			○	○	
	英語学研究ⅠA		2			○	○	
	英語学研究ⅠB		2			○	○	
	英語学研究ⅡA		2			○	○	
	英語学研究ⅡB		2			○	○	
	応用言語学研究ⅠA		2			○	○	
	応用言語学研究ⅠB		2			○	○	
	応用言語学研究ⅡA		2			○	○	
	応用言語学研究ⅡB		2			○	○	
	社会言語学研究ⅠA		2			○	○	
	社会言語学研究ⅠB		2			○	○	
	社会言語学研究ⅡA		2			○	○	
	社会言語学研究ⅡB		2			○	○	
	異文化コミュニケーション研究ⅠA		2			○	○	
	異文化コミュニケーション研究ⅠB		2			○	○	
	異文化コミュニケーション研究ⅡA		2			○	○	
	異文化コミュニケーション研究ⅡB		2			○	○	
	日本語表現研究ⅠA		2			○	○	
	日本語表現研究ⅠB		2			○	○	
	日本語表現研究ⅡA		2			○	○	
	日本語表現研究ⅡB		2			○	○	
	ドイツ語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
	ドイツ語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
	ドイツ語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
	ドイツ語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
	フランス語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
	フランス語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
	フランス語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
	フランス語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
	アメリカ大衆文化研究ⅠA		2			○	○	
	アメリカ大衆文化研究ⅠB		2			○	○	
	アメリカ大衆文化研究ⅡA		2			○	○	
	アメリカ大衆文化研究ⅡB		2			○	○	
	日米現代文化研究ⅠA		2			○	○	
	日米現代文化研究ⅠB		2			○	○	
	日米現代文化研究ⅡA		2			○	○	
	日米現代文化研究ⅡB		2			○	○	
	表象文化研究ⅠA		2			○	○	
	表象文化研究ⅠB		2			○	○	
	表象文化研究ⅡA		2			○	○	
	表象文化研究ⅡB		2			○	○	
	アメリカ文化研究ⅠA		2			○	○	
	アメリカ文化研究ⅠB		2			○	○	
	アメリカ文化研究ⅡA		2			○	○	
	アメリカ文化研究ⅡB		2			○	○	
	近現代日本文学研究ⅠA		2			○	○	
	近現代日本文学研究ⅠB		2			○	○	
近現代日本文学研究ⅡA		2			○	○		
近現代日本文学研究ⅡB		2			○	○		
中世・近世日本文学研究ⅠA	※	2			○	○		
中世・近世日本文学研究ⅠB	※	2			○	○		
中世・近世日本文学研究ⅡA	※	2			○	○		
中世・近世日本文学研究ⅡB	※	2			○	○		
古代日本文学研究ⅠA	※	2			○	○		
古代日本文学研究ⅠB	※	2			○	○		
古代日本文学研究ⅡA	※	2			○	○		
古代日本文学研究ⅡB	※	2			○	○		
哲学研究ⅠA		2			○	○		
哲学研究ⅠB		2			○	○		
哲学研究ⅡA		2			○	○		
哲学研究ⅡB		2			○	○		
演劇研究ⅠA		2			○	○		
演劇研究ⅠB		2			○	○		
演劇研究ⅡA		2			○	○		

※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
国際言語コミュニケーション学科	卒業論文準備科目	演劇研究ⅡB		2			○	○	
		英語圏文学研究ⅠA	※	2			○	○	
		英語圏文学研究ⅠB	※	2			○	○	
		英語圏文学研究ⅡA	※	2			○	○	
		英語圏文学研究ⅡB	※	2			○	○	
		ジェンダー研究ⅠA		2			○	○	
		ジェンダー研究ⅠB		2			○	○	
		ジェンダー研究ⅡA		2			○	○	
		ジェンダー研究ⅡB		2			○	○	
		日本文化史研究ⅠA		2			○	○	
		日本文化史研究ⅠB		2			○	○	
		日本文化史研究ⅡA		2			○	○	
		日本文化史研究ⅡB		2			○	○	
		日本歴史研究ⅠA		2			○	○	
		日本歴史研究ⅠB		2			○	○	
		日本歴史研究ⅡA		2			○	○	
日本歴史研究ⅡB		2			○	○			
卒業論文		必修	4				○	4単位必修	

※25年度開講せず

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
表現文化学科	教養演習	必修	1	○				1単位必修	
	教養演習(入門)		1	○					
		教養演習(発展)		1		○			
	①思想と表現	哲学		2	○	○			うち①から⑥までの分野から5つの分野にわたり10単位以上選択履修 20単位以上選択履修
		文学		2	○	○			
		芸術		2	○	○			
		心理		2	○	○			
		言語		2	○	○			
		②歴史と社会	歴史		2	○	○		
		法		2	○	○			
		経済		2	○	○			
		社会		2	○	○			
		地理		2	○	○			
	③健康運動とスポーツ	健康運動の科学と実践		2	○	○			
	④自然科学と科学技術	環境の科学		2	○	○			
		自然の科学		2	○	○			
		生命の科学		2	○	○			
		人間と自然科学		2	○	○			
	⑤数理と情報	数理の世界		2	○	○			
		統計の世界		2	○	○			
		コンピュータと情報	必修	2	○	○			
		コンピュータと情報 I		2	○	○			
		コンピュータと情報 II		2	○	○			
	⑥言語とコミュニケーション	英語 A		1	○	○			
		英語 B		1	○	○			
		ドイツ語 A		1	○	○			
		ドイツ語 B		1	○	○			
フランス語 A			1	○	○				
フランス語 B			1	○	○				
スペイン語 A			1	○	○				
スペイン語 B			1	○	○				
	中国語 A		1	○	○				
	中国語 B		1	○	○				

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
表現文化学科	専門「関連科目」	論理学	2	○	○	○	○		
		倫理学	2	○	○	○	○		
		女性学A	2	○	○	○	○		
		女性学B	2	○	○	○	○		
		西洋美術史	2	○	○	○	○		
		文化人類学	2	○	○	○	○		
		言語と文化	2	○	○	○	○		
		言語と社会	2	○	○	○	○		
		日本国憲法	2	○	○	○	○		
		日本文化史	2	○	○	○	○		
		日中比較文化論	2	○	○	○	○		
		日韓交渉史	2	○	○	○	○		
		日本文学史(上代・中古)A	2	○	○	○	○		
		日本文学史(上代・中古)B	2	○	○	○	○		
		日本文学史(中世・近世)A	2	○	○	○	○		
		日本文学史(中世・近世)B	2	○	○	○	○		
		日本文学史(近代・現代)A	2	○	○	○	○		
		日本文学史(近代・現代)B	2	○	○	○	○		
		社会言語学	2	○	○	○	○		
		対照言語学	2	○	○	○	○		
		東海北陸の言語	2	○	○	○	○		
		翻訳言語論	2	○	○	○	○		
		日本語の音声と音韻	2	○	○	○	○		
		日本語文法の基礎A	2	○	○	○	○		
		日本語文法の基礎B	2	○	○	○	○		
		日本語の歴史A	2	○	○	○	○		
		日本語の歴史B	2	○	○	○	○		
		日本語表現のデータベース処理A	2	○	○	○	○		
		日本語表現のデータベース処理B	2	○	○	○	○		
		日本語学概論A	2	○	○	○	○		
		日本語学概論B	2	○	○	○	○		
		日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	2	○	○	○	○		
		日本語表現法②(日本語の話し方)	2	○	○	○	○		
		日本語表現法③(文章分析と表現テクニック)	2	○	○	○	○		
書物の文化史	2	○	○	○	○				
日本伝統文化論A	2	○	○	○	○				
日本伝統文化論B	2	○	○	○	○				
日本語教育方法論A	2	○	○	○	○				
日本語教育方法論B	2	○	○	○	○				
日本語教育実践論	2	○	○	○	○				
日本語教授法演習	1		○	○	○				
日本語教材・教具研究A	2	○	○	○	○				
日本語教材・教具研究B	2	○	○	○	○				
外国語科目	Communicative English(I)A		1	○				Communicative English(I) A ~ (V)B または ドイツ語(I)A ~ (V)B または フランス語(I) A ~ (V)Bから いずれかの言語を計10単位以上選択履修	
	Communicative English(I)B		1	○					
	Communicative English(II)A		1	○					
	Communicative English(II)B		1	○					
	Communicative English(III)A		1	○					
	Communicative English(III)B		1	○					
	Communicative English(M)A		1	○					
	Communicative English(M)B		1	○					
	Communicative English(V)A		1	○					
	Communicative English(V)B		1	○					
	ドイツ語(I)A		1	○					
	ドイツ語(I)B		1	○					
	ドイツ語(II)A		1	○					
	ドイツ語(II)B		1	○					
	ドイツ語(III)A		1	○					
	ドイツ語(III)B		1	○					
	ドイツ語(M)A		1		○				
	ドイツ語(M)B		1		○				
	ドイツ語(V)A		1		○				
	ドイツ語(V)B		1		○				
フランス語(I)A		1	○						
フランス語(I)B		1	○						
フランス語(II)A		1	○						
フランス語(II)B		1	○						
フランス語(III)A		1	○						
フランス語(III)B		1	○						

平成22年度入学生用

専門共通科目

学科	教育内容	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考	
表現文化学科	フランス語(M)A		1		○					
	フランス語(M)B		1		○					
	フランス語(V)A		1		○					
	フランス語(V)B		1		○					
	TOEIC500(I)A		2		○					
	TOEIC500(I)B		2		○					
	TOEIC500(II)A		2		○					
	TOEIC500(II)B		2		○					
	TOEIC600(I)A		2		○					
	TOEIC600(I)B		2		○					
	TOEIC600(II)A		2		○					
	TOEIC600(II)B		2		○					
	TOEIC700(I)A		2		○					
	TOEIC700(I)B		2		○					
	TOEIC700(II)A		2		○					
	TOEIC700(II)B		2		○					
	資格ドイツ語(独検)A		2		○					
	資格ドイツ語(独検)B		2		○					
	資格フランス語(仏検)A		2		○					
	資格フランス語(仏検)B		2		○					
	日米異文化論		2		○					
	ビジネスのための英語		2		○					
	海外英語演習A		4		○	○				
海外英語演習B		4		○	○					
海外ドイツ語演習A		2		○	○					
海外ドイツ語演習B		4		○	○					
海外フランス語演習		2		○	○					

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
クラシック・スタディーズ科目群	万葉集読解A		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修	
	万葉集読解B		2		○	○	○		
	源氏物語読解A		2		○	○	○		
	源氏物語読解B		2		○	○	○		
	平安朝の生活と文学A		2		○	○	○		
	平安朝の生活と文学B		2		○	○	○		
	中古中世歌人論A		2		○	○	○		
	中古中世歌人論B		2		○	○	○		
	能・狂言		2		○	○	○		
	歌舞伎		2		○	○	○		
	江戸時代の思想と文学		2		○	○	○		
	和歌・俳諧読解		2		○	○	○		
	古文書読解		2		○	○	○		
	中国哲学A		2		○	○	○		
	中国哲学B		2		○	○	○		
	中国文学A	※	2		○	○	○		
	中国文学B	※	2		○	○	○		
	中国古典読解A		2	○	○	○	○		
	中国古典読解B		2	○	○	○	○		
	聖書読解A	◆	2	○	○	○	○		
	聖書読解B	◆	2	○	○	○	○		
ギリシャ悲劇	◆	2	○	○	○	○			
ギリシャ哲学	◆	2		○	○	○			
地中海世界	※◆	2	○	○	○	○			
西洋哲学史A	◆	2		○	○	○			
西洋哲学史B	◆	2		○	○	○			
モダン・スタディーズ科目群	日本文学を読むA		2		○	○	○	うち2科目 4単位以上 選択履修	うち21科目 42単位以上 選択履修
	日本文学を読むB		2		○	○	○		
	英語圏文学を読むA	◆	2		○	○	○		
	英語圏文学を読むB	◆	2		○	○	○		
	アメリカ文学史A	◆	2		○	○	○		
	アメリカ文学史B	◆	2		○	○	○		
	近代日本文学読解		2		○	○	○		
	現代日本文学読解		2		○	○	○		
	西洋演劇論	◆	2		○	○	○		
	文学の理論A		2		○	○	○		
	文学の理論B		2		○	○	○		
	アメリカ社会の諸問題A	◆	2		○	○	○		
	アメリカ社会の諸問題B	◆	2		○	○	○		
	アメリカの人種民族問題A	◆	2		○	○	○		
	アメリカの人種民族問題B	◆	2		○	○	○		
	西洋身体史	※◆	2	○	○	○	○		
	日欧比較文化論	◆	2	○	○	○	○		
	ドイツ文学を読む	◆	2		○	○	○		
	スイス・オーストリア文学を読む	◆	2		○	○	○		
	ドイツメルヘン学	※◆	2		○	○	○		
	ウィーンの演劇とオペラ	※◆	2		○	○	○		
	フランス文学を読む	◆	2		○	○	○		
	フランス文化史A	◆	2		○	○	○		
	フランス文化史B	◆	2		○	○	○		
	フランス思想	◆	2		○	○	○		
	ドイツ語文化圏事情A	◆	2		○	○	○		
	ドイツ語文化圏事情B	◆	2		○	○	○		
フランス事情A	◆	2		○	○	○			
フランス事情B	◆	2		○	○	○			
ヨーロッパの民族と言語	◆	2		○	○	○			
言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○			
非言語コミュニケーション論	◆	2		○	○	○			
ドイツ語会話・中級A	◆	2		○	○	○			
ドイツ語会話・中級B	◆	2		○	○	○			

◆国際言語・表現文化共通開講科目

※25年度開講せず

平成22年度入学生用

学科専門科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考	
表現文化学科	モダン・スタディーズ科目群	ドイツ語会話・上級	◆	2		○	○			
		フランス語会話・中級A	◆	2		○	○	○		
		フランス語会話・中級B	◆	2		○	○	○		
		フランス語会話・上級A	◆	2			○	○		
		フランス語会話・上級B	◆	2			○	○		
		ドイツ語で読むグリム	◆	2		○	○	○		
		翻訳(フランス語)A	◆	2		○	○	○		
		翻訳(フランス語)B	◆	2		○	○	○		
		総合ドイツ語A	◆	2		○	○	○		
		総合ドイツ語B	◆	2		○	○	○		
		フランス語講読A	◆	2		○	○	○		
		フランス語講読B	◆	2		○	○	○		
		ポップ・カルチャー・スタディーズ科目群	映像文化論A		2		○	○	○	
			映像文化論B		2		○	○	○	
	アメリカ映画論A		◆	2	○	○	○	○		
	アメリカ映画論B		◆	2	○	○	○	○		
	マンガ文化論			2		○	○	○		
	パフォーマンス・アーツ論			2		○	○	○		
	現代風俗文化論			2		○	○	○		
	ポップアート論		◆	2		○	○	○		
	現代女性文学			2		○	○	○		
	エンターテインメント文化論A			2		○	○	○		
	エンターテインメント文化論B			2		○	○	○		
	ノンセンシス文学			2		○	○	○		
	テクノロジーと文学		◆	2		○	○	○		
	ファッション論			2		○	○	○		
	現代マスコミ論			2		○	○	○		
	都市とジェンダー			2		○	○	○		
	児童文学A			2		○	○	○		
	児童文学B			2		○	○	○		
	現代音楽論		2		○	○	○			
	アミューズメント・カルチャー	※◆	2		○	○	○			
	スポーツ文化論	※	2		○	○	○			
	ライフスタイル論I(米国)	◆	2	○	○	○	○			
	ポップカルチャーの理論	◆	2	○	○	○	○			
	現代思想	◆	2		○	○	○			
クリエイティブ・スタディーズ科目群	ライフヒストリー研究A		2		○	○	○			
	ライフヒストリー研究B		2		○	○	○			
	ドキュメント制作		2	○	○	○	○			
	マンガ創作A		2		○	○	○			
	マンガ創作B		2		○	○	○			
	演劇・パフォーマンス	※	2		○	○	○			
	シナリオ創作		2		○	○	○			
	舞台空間論		2	○	○	○	○			
	映画制作A		2		○	○	○			
	映画制作B		2		○	○	○			
	詩歌創作A		2		○	○	○			
	詩歌創作B		2		○	○	○			
	小説創作A		2		○	○	○			
	小説創作B		2		○	○	○			
	エッセイ創作A		2		○	○	○			
	エッセイ創作B		2		○	○	○			
	広告プロデュース		2		○	○	○			
	エディティング(編集)		2		○	○	○			
ローカル・エリア・スタディーズ		2		○	○	○				
書写・書道A		2	○	○	○	○				
書写・書道B		2	○	○	○	○				

◆国際言語・表現文化共通開講科目
※25年度開講せず

うち2科目
4単位以上
選択履修

うち2科目
4単位以上
選択履修

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
表現文化学科	卒業論文準備科目	日米比較社会研究ⅠA		2			○	○	うち、いずれかの研究「ⅠAおよびⅠB」ならびに研究「ⅡAおよびⅡB」からそれぞれ2単位ずつ計8単位以上選択履修
		日米比較社会研究ⅠB		2			○	○	
		日米比較社会研究ⅡA		2			○	○	
		日米比較社会研究ⅡB		2			○	○	
		英語学研究ⅠA		2			○	○	
		英語学研究ⅠB		2			○	○	
		英語学研究ⅡA		2			○	○	
		英語学研究ⅡB		2			○	○	
		応用言語学研究ⅠA		2			○	○	
		応用言語学研究ⅠB		2			○	○	
		応用言語学研究ⅡA		2			○	○	
		応用言語学研究ⅡB		2			○	○	
		社会言語各研究ⅠA		2			○	○	
		社会言語各研究ⅠB		2			○	○	
		社会言語学研究ⅡA		2			○	○	
		社会言語学研究ⅡB		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅠA		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅠB		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅡA		2			○	○	
		異文化コミュニケーション研究ⅡB		2			○	○	
		日本語表現研究ⅠA		2			○	○	
		日本語表現研究ⅠB		2			○	○	
		日本語表現研究ⅡA		2			○	○	
		日本語表現研究ⅡB		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
		ドイツ語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅠA		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅠB		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅡA		2			○	○	
		フランス語圏文化・思想研究ⅡB		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅠA		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅠB		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅡA		2			○	○	
		アメリカ大衆文化研究ⅡB		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅠA		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅠB		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅡA		2			○	○	
		日米現代文化研究ⅡB		2			○	○	
		表象文化研究ⅠA		2			○	○	
		表象文化研究ⅠB		2			○	○	
		表象文化研究ⅡA		2			○	○	
		表象文化研究ⅡB		2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅠA		2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅠB		2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅡA		2			○	○	
		アメリカ文化研究ⅡB		2			○	○	
		近現代日本文学研究ⅠA		2			○	○	
		近現代日本文学研究ⅠB		2			○	○	
近現代日本文学研究ⅡA		2			○	○			
近現代日本文学研究ⅡB		2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅠA	※	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅠB	※	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅡA	※	2			○	○			
中世・近世日本文学研究ⅡB	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅠA	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅠB	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅡA	※	2			○	○			
古代日本文学研究ⅡB	※	2			○	○			
哲学研究ⅠA		2			○	○			
哲学研究ⅠB		2			○	○			
哲学研究ⅡA		2			○	○			
哲学研究ⅡB		2			○	○			
演劇研究ⅠA		2			○	○			
演劇研究ⅠB		2			○	○			
演劇研究ⅡA		2			○	○			

※25年度開講せず

卒業論文準備科目・卒業論文

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
	演劇研究ⅡB		2			○	○	
	英語圏文学研究ⅠA ※		2			○	○	
	英語圏文学研究ⅠB ※		2			○	○	
	英語圏文学研究ⅡA ※		2			○	○	
	英語圏文学研究ⅡB ※		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅠA		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅠB		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅡA		2			○	○	
	ジェンダー研究ⅡB		2			○	○	
	日本文化史研究ⅠA		2			○	○	
	日本文化史研究ⅠB		2			○	○	
	日本文化史研究ⅡA		2			○	○	
	日本文化史研究ⅡB		2			○	○	
	日本歴史研究ⅠA		2			○	○	
	日本歴史研究ⅠB		2			○	○	
	日本歴史研究ⅡA		2			○	○	
	日本歴史研究ⅡB		2			○	○	
	卒業論文	必修	4				○	4単位必修

※25年度開講せず

7. 中期留学に伴う単位認定制度

1. 概要
この制度は、国際コミュニケーション学部の中期留学制度を利用して、2年次あるいは3年次後期から留学した学生に対し、提携校からの成績報告書に基づいて、国際コミュニケーション学部の単位を認定するものです。
2. 認定される単位
・中期留学（半年）により認定される単位は、最大16単位です。これらの単位は「（自由選択）24単位」に算入し、卒業単位を満たすための単位の一部とすることができます。
・中期留学（1年）により認定される単位は、最大30単位です。16単位は「（自由選択）24単位」に算入し、残りの14単位は教養教育科目又は専門教育科目に科目読替を行うことで卒業要件を満たすための単位の一部とすることができます。
科目読替で認定される単位は、最大14単位です。
3. 単位認定の申請方法
中期留学終了後、留学中使用した教材、ノート、筆記試験、エッセイ等すべて提出し、面接を受けます。提出資料、面接および提携校からの成績報告書をもとに単位認定の可否が決定されます。
4. 成績評価
中期留学（半年）によって認定された単位は、通常の評価ではなく、「認定」として扱われ、成績表には「㊦」と表記されます。中期留学（1年）により認定された単位は、「（自由選択）24単位」に算入する16単位は㊦認定になりますが、残りの14単位については科目読替を行い、評価はS、A、B、Cのいずれかになります。

8. 英語検定試験による単位認定制度

1. 概要 この制度は、国際コミュニケーション学部の学生が入学後に受験した「英検」や「TOEIC」などの英語検定試験で、所定の級や点数を得た学生に対し、その級または点数に基づいて、国際コミュニケーション学部の単位を認定するものです。
2. 対象となる英語検定試験 単位認定の対象となる英語検定試験は次の3種類です。
 ①実用英語技能検定試験（英検）
 ②Test of English as a Foreign Language（TOEFLおよびTOEFLITP）
 ③Test of English for International Communication（TOEICおよびTOEICIP）
3. 認定される単位 英語検定試験の結果に基づいて、4単位または8単位が単位として認定されます。これらの単位認定を受けるには、指定された英語検定試験のいずれかにおいて、下表に定める級または点数を得なければなりません。
 認定された単位は、（自由選択）24単位のうち最大8単位まで算入し、卒業単位とすることができます。
 なお、この制度は入学後に受験した英語検定試験の結果に対してのみ適用されます。

英語検定の種類	4 単位	8 単位
実用英語技能検定試験（英検）	—	準1級以上
Test of English as a foreign Language （TOEFLおよびTOEFLITP）	500～545点	550点以上
Test of English for International Communication（TOEICおよびTOEICIP）	600～725点	730点以上

- 注1）表記されている点数はペーパーテストで受験した時の基準です。
 TOEFLiBTおよびCBTの単位認定については別途相談してください。
- 注2）英語検定試験による単位認定は、最大8単位までです。したがって、上記の表で4単位を認定された後に8単位を申請した場合でも、追加として4単位のみが与えられます。
- 注3）英語検定試験による単位認定で4単位の認定を受けた場合、次の認定は8単位の認定基準を満たした場合のみ追加で4単位を認定します。

4. 単位認定の申請方法 英語検定試験において所定の級または点数を得た学生が、単位認定を希望する場合は、「英語検定単位認定申請書」に級の認定書または得点証明書（コピーは不可）を添え、次に示す期間に教務課まで提出します。
- 前期提出期間：前期授業開始日～前期試験終了日
 後期提出期間：後期授業開始日～後期試験終了日

5. 成績評価 この制度によって認定された単位は、通常科目のような評価ではなく、認定のみがされ「N」となります。

9. 教職課程

1. 教職課程とは

大学、高専を除くすべての国公私立の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員になるためには、常勤、非常勤を問わず教育職員免許状の取得が必要です。

教育職員免許状を取得するには、「教育職員免許法」「教育職員免許法施行規則」等の法令に基づき、文部科学大臣の認定を受けた大学等の課程において所定の単位を修得しなければなりません。

本学では各学部・学科において、以下の免許・教科の教職課程を開設しています。

学部	学科	認定を受けている免許種・教科		
生活科学部	管理栄養学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	栄教一種
	生活環境デザイン学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	
国際コミュニケーション学部	国際語コミュニケーション学科	中一種(英語)	高一種(英語)	
	表現文化学科	中一種(国語)	高一種(国語)	
人間関係学部	人間関係学科	中一種(社会)	高一種(地歴)	高一種(公民)
	心理学科	中一種(社会)	高一種(公民)	
文化情報学部	文化情報学科	高一種(情報)		
	メディア情報学科	高一種(情報)		
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	中一種(社会)	高一種(公民)	高一種(商業)
教育学部	子ども発達学科	幼一種	小一種	中一種(数学)
		中一種(音楽)	高一種(数学)	高一種(音楽)
看護学部	看護学科	養教一種		

2. 教員養成に対する理念

今日、わが国では、国際化、高度情報化、都市化、少子高齢化、核家族化が進展し、人々の価値観が多様化する中で、社会変化に適切に主体的に対応することができる子どもの育成、すなわち自分で課題を探求し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題解決しうる力と、自らを律し、他人と協調し、他人を思いやるといった豊かな人間性とを意味する「生きる力」を持った子どもの育成が教員に期待されています。

「生きる力」の育成に寄与できる教員の資質能力としては、1997年の教育職員養成審議会答申が述べたように、時代を超えて求められる一般的資質能力と現代社会において教員に求められる資質能力が考えられます。前者の資質能力としては、教育者としての使命感、子どもの成長・発達、学びについての理解、子どもに対する教育的愛情、教科に関する専門的知識と豊かな教養等が考えられ、後者の資質能力としては、地球的視野に立って行動する資質能力（地球、国家、人間等に関する適切な理解等）、変化の時代に生きる社会人に求められる資質能力（課題解決能力や社会変化に適応しうる知識、技能等）、及び教員の職務から必然的に求められる資質能力（子どもや学びに関する理解、教職に対する愛着等）が考えられます。換言すれば、対人関係能力、自己制御能力、課題解決能力、子どもの学び、発達、発達障害および教科についての見識、教職に対する使命感、教育愛および国際感覚を持った教員が今求められているということが言えます。

本学は、このような資質能力を持った教員の養成、すなわち、人間力と専門的能力を兼ね備えた教員の養成を目指しています。

3. 教職課程履修上の諸注意

〈心構え〉

教職課程を履修するうえで最も大切なことは、将来教師になるという明確な目標と自覚を持ち、常日頃から教師としてふさわしい態度や行動を心がけることです。教師の資質や能力は教職課程に関わる科目の履修のみならず、様々な経験や体験、日頃の行動などによっても養われます。授業で学んだことを児童・生徒にどのように指導するのか、また、自らの経験や体験を教師としてどう活かしていくのかといった視点を常に持ちながら学生生活を送るよう心がけてください。

〈履修計画〉

本学の教職課程は、1年次から4年次までの4年間を基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として1年次から履修を開始し、必要な科目を学年配当に沿って4年間をかけて段階的・計画的に履修していくことが必要です。例えば2年次以降から履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合は、4年次で卒業するまでの間に履修を終えることが困難になる場合がありますので注意が必要です。

〈各種手続き等について〉

教職課程履修者は教職課程に関するガイダンス等の諸行事には必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続き（教育実習・介護等体験の申し込みなど）を行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続き未了の場合は、その参加を辞退していただく場合がありますので注意してください。

4. 教職課程登録手続き

1年次4月に実施される教職課程登録ガイダンスに参加し、所定の期間内に教職課程履修費を納入するとともに、教務課へ教職課程履修登録届を提出してください。

また、1年次前期の履修登録期間にS*mapの履修登録画面から、取得を希望する免許の仮申請を行ってください。

5. 教職課程で必要となる費用

教職課程の履修にあたっては主に以下の費用が必要となります。

〈教職課程履修費〉

課程の種類	金額	納入時期
中学校、高等学校の課程	14,000円	1年次4月

〈実習費等〉

実習等の種類	金額	納入時期
介護等体験	7,500円	3年次4月
教育実習	実習先指定額	実習時

《教育職員免許状発行手数料》

費用の種類	金額	納入時期
教育職員免許状発行手数料（1免許につき）	3,400円	4年次11月

※上記の発行手数料は愛知県教育委員会への支払いとなります。

6. 教育職員免許状取得に必要な基礎資格と単位数

教育職員免許状を取得するためには、以下の基礎資格を有し、各科目の最低修得単位数を満たす必要があります。ただし、以下の表に記載されている単位数は法令上の最低修得単位数です。実際のカリキュラムでは最低修得単位数以上の単位数修得が必要な場合がありますので注意してください。

免許状の種類	基礎資格	法令上の最低修得単位数			
		① 教科に関する科目	② 教職に関する科目	③ 教科又は教職に関する科目	④ その他の必修科目
中学校教諭 一種免許状	学士の学位を 有すること	20	31	8	8
高等学校教諭 一種免許状		20	23	16	8

7. 介護等体験

《概要と趣旨》

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等による法律」（介護等体験特例法）により、小学校教諭、中学校教諭の免許状を取得するためには、原則として3年次に社会福祉施設および特別支援学校等において7日間以上の「介護等体験」が必要となります。

介護等体験特例法制定の趣旨は次のとおりです。

「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を講ずるため、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与について教育職員免許法の特例等を定めるものであること。」

介護等体験は、教員を目指すものが、高齢者や障害者に対する介護等の体験を自らの体験として持つとともに、この体験を今後の教育活動に生かしていくことによって、人の心の痛みが分かる人づくり、個人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりを実現することを願って行われるものです。

《体験内容》

障害者、高齢者に対する介護、介助（作業補助や食事介助、排泄介助など）のほか、障害者、高齢者との話し相手、散歩の付き添い等の交流体験、あるいは掃除や洗濯などの施設職員の業務補助など幅広い内容が想定されますが、体験先の施設種別は様々であるため、体験内容も施設等により大きく異なります。

《介護等体験の参加資格》

- ①将来教員を志望する者
- ②健康で教員としての適格性を有する者
- ③特別支援教育に対する理解があり、障害者に対する配慮のできる者

《体験施設・期間等》

介護等体験は3年次8月～1月の期間に、社会福祉施設（児童養護施設、障害者支援施設、老人ホーム、老人デイサービスセンター等）で5日間、特別支援学校（盲・聾・養護学校）で2日間の体験を行います。

なお、体験先施設、体験期間については社会福祉協議会等からの割り当てとなりますので、特定の施設・学校を体験先として指定することや、体験期間を指定することはできません。

《介護等体験に参加するうえでの心構え》

まずは小学校・中学校教諭の免許状取得のために介護等体験が義務付けられている趣旨を十分理解することが重要です。体験期間は7日間と短いため、目的意識を持って体験に参加しないと何も得られないまま体験を終えることになってしまいます。自分なりの目標を立てて体験に臨んでください。

また、施設等の利用者には抵抗力の弱い方もいらっしゃいますので、体験中はもちろん、体験前においても体調管理には十分注意してください。

《履修登録》

本学では介護等体験を「教科又は教職に関する科目」の単位として認定しています。介護等体験に参加する学生は、体験実施年度の前期に授業科目「介護等体験」（1単位）を必ず履修登録してください。

8. 教育実習

「教育実習」は教育職員免許状取得のための必修科目です。教育実習は学内で行われる授業とは異なり、実際の学校現場において現場の教師と同様に勤務しながら教育活動の重要な領域を行動的に経験し、教職についての認識を深め、自己の教職への適性を把握する重要な機会となります。

教育実習の目的は、教育者としての基本的な態度・技能を身に付けることにあります。具体的には、観察・参加・実習等を通じて教育者としての実地修練を行うことにより、教育についての理解を深め、指導技術を体得するとともに、教育に携わる者としての自覚と熱意を高め、優秀な教育者として活動し得る素地を養うことにあります。

これらの目的は短期間の実習のみで達成できるものではありません。日頃から、将来教師になる者としての自覚を持ち、教育実習に耐え得る健康を保持するなど、教師としての資質向上に努めてください。

《教育実習の履修要件》

- ① 将来教職に就く意思を有し、都道府県及び政令指定都市教育委員会が実施する教員採用試験を必ず受験すること。
- ② 3 年次終了までに以下の単位を履修済みであることを原則とする。
 - ・「教養教育科目」の必要最低単位数をすべて履修済みであること。
 - ・「教科に関する科目」「教職に関する科目」を履修し、かつその成績が良好であること。
 - ・「教科の指導法Ⅰ」が履修済みであること。
- ※ 中学校の免許を希望する場合は「教科の指導法Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであること。
- ③ 「事前及び事後指導」を履修すること。
- ④ 教職課程履修上の各種手続きを遅滞なく済ませていること。

《必要実習期間と履修登録科目》

教育実習の履修登録は、取得する免許・実習期間に応じ、4 年次前期に以下のとおり登録してください。

ただし、教育実習の事前指導は 3 年次から始まりますので、「事前及び事後指導（1 単位）」は 3 年次前期にも履修登録をしてください。（単位認定は事後指導後、4 年次後期に行われます。）

平成23年度以降入学生

取得予定免許	必要実習期間	履修登録科目
中一種免のみ	中学校で 3 週間以上	事前及び事後指導（1 単位） 教育実習（4 単位）
中一種免・高一種免	中学校もしくは高等学校で 3 週間以上	
	高等学校で 2 週間＋ 梶小・中・高のいずれかで 1 週間	事前及び事後指導（1 単位） 教育実習 A（2 単位）
高一種免のみ	高等学校で 2 週間以上	

※上記の実習パターンに該当しない場合は、パターンによって履修登録科目が変わりますので、必ず教務課の窓口で履修指導を受けてから履修登録してください。

平成22年度以前入学生

取得予定免許	必要実習期間	履修登録科目
中一種免のみ	中学校で 3 週間以上	事前及び事後指導（1 単位） 教育実習 A（2 単位） 教育実習 B（2 単位）
中一種免・高一種免	中学校もしくは高等学校で 3 週間以上	
	高等学校で 2 週間＋ 梶小・中・高のいずれかで 1 週間	事前及び事後指導（1 単位） 教育実習 A（2 単位）
高一種免のみ	高等学校で 2 週間以上	

※上記の実習パターンに該当しない場合は、パターンによって履修登録科目が変わりますので、必ず教務課の窓口で履修指導を受けてから履修登録してください。

9. 履修カルテ

教職実践演習

《履修カルテとは》

教育職員免許法施行規則の改正に伴い、平成22年度入学生から「教職実践演習」が必修化されました。「教職実践演習」は、教職課程における授業科目の履修や教職課程内外での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な

資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が求める教員像や到達目標に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものです。

履修カルテは、教職課程を履修する学生が、授業や課外活動などの面において、どのように4年間を過ごしてきたのかを記録することで、学生それぞれの優れている点や不足している点などを把握し、4年次後期に開講される「教職実践演習」で活用するために導入されたものです。ただし、履修カルテは、大学側が学生それぞれの状況を把握し授業に活用することのみを目的としたものではなく、学生自身が自らの学修等を振り返り、自分自身を成長させていくためのツールとして積極的に活用することも必要です。履修カルテの作成や教職実践演習の履修を通じて、将来、教員になる上で何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。

〈履修カルテ作成項目〉

履修カルテは以下の項目について作成します。

①	教員免許取得に係る以下の科目の“ふりかえり” ●教科に関する科目 ●教職に関する科目 ●教科又は教職に関する科目 ●その他の必修科目
②	学外活動に関する“ふりかえり” 【対象となる主な学外活動】 ●教育実習 ●介護等体験（参加者は入力必須） ●ボランティア活動 ●その他教員としてプラスになる活動
③	資質能力についての自己評価

〈履修カルテ作成時期〉

	前 期	後 期
学生による履修カルテWeb入力期間	前期合否発表開始日～指定日	後期合否発表開始日～指定日
Web入力対象項目	●前期開講科目 ●前期中に行った学外活動	●後期・通年開講科目 ●後期中に行った学外活動 ●資質能力に関する自己評価

〈教職実践演習の履修要件〉

4年次後期に開講される教職実践演習は、教育実習と同じく履修要件を定めています。次の要件を満たさない学生は教職実践演習を受けることが出来ませんので注意してください。

履修要件

主たる教員免許状の取得に必要な教育実習を修了し、「教育実習」と「事前及び事後指導」の単位取得見込みであること。

10. 教員免許更新制

教育職員免許法の改正により、平成21年4月から教員免許更新制が導入されました。概要は以下のとおりです。

《新免許状（平成21年4月1日以降授与分）》

- ①平成21年4月1日以降に授与された免許状の有効期間は10年となります。
- ②更新講習修了確認期限までに更新講習を修了しなければ、免許状は失効します。
- ③更新講習を受講できるのは、現職教員（非常勤含む。以下同じ。）に限られます。
- ④いわゆるペーパーティーチャーの免許状は、更新講習を受講できないため、更新講習終了確認期限を過ぎると一旦失効します。ただし、失効後に教員採用試験に合格した場合や非常勤等での採用が予定されている場合は、就任時までに更新講習を修了すれば、免許状の再交付を受けることができます。

《更新講習》

①開設者

- ・大学、指定教員養成機関、都道府県・指定都市教育委員会など

②講習時間（30時間）

- ・教育の最新事情に関する事項（12時間以上）
- ・教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項（18時間以上）

③受講資格のある者

- ・現職教員、教員採用内定者、非常勤講師リスト掲載者 など

11. 教職課程における主なスケジュール

学年	時期	ガイダンス・手続き等	備考
1年次	4月上旬	教職課程履修登録ガイダンス	
	4月中旬	履修費納入・履修登録届の提出	
	7月上旬	履修カルテ作成ガイダンス	
2年次	10月中旬	第1回介護等体験ガイダンス	介護等体験（仮）登録
3年次	4月上旬	第2回介護等体験ガイダンス	介護等体験（本）登録 介護等体験費用納入
	4月中旬	教育実習内諾依頼ガイダンス	
	4月中旬～	教育実習校依頼手続き開始	
	6月下旬	第3回介護等体験ガイダンス	
	6月下旬	介護等体験プレ講習会	
	7月上旬	介護等体験講習会	土曜日午後実施
	8月～	介護等体験開始	体験日程は施設により異なる
	体験終了後	介護等体験レポート提出	体験終了後1か月以内
	12月中旬	教育実習承認申請ガイダンス	
4年次	4月下旬	教育実習事前ガイダンス	
	4月～5月	前期教育実習事前打ち合わせ会	実習校において実施
	5月～6月	前期教育実習	実習日程は実習先により異なる
	7月	公立学校教員採用試験（1次）	日程は受験地により異なる
	8月	公立学校教員採用試験（2次）	日程は受験地により異なる
	8月～9月	後期教育実習事前打ち合わせ会	実習校において実施
	9月～10月	後期教育実習	実習日程は実習先により異なる
	実習終了後	教育実習記録の提出	実習終了後1か月以内
	11月下旬	教育職員免許状一括申請ガイダンス	
	卒業式	教育職員免許状の交付	

※スケジュールは現在の予定です。詳細はS*mapのジャーナル、掲示、ガイダンス等で随時ご案内します。

12. 教職課程カリ

キュラム表

平成23年度以降入学生

①教科に関する
科目

「教科に関する科目」は、その教科の担当者として求められる知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により教科ごとに修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。網掛けの授業科目は、その科目区分における「一般的包括的な内容を含む科目」（各科目区分において修得すべき内容を網羅的に取り扱う科目）であり、免許取得要件上、必修もしくは選択必修として設定されています。「教科に関する科目」の履修にあたっては、必修および選択必修の要件を満たしたうえで、法令上の最低修得単位（中一種、高一種ともに20単位以上）を修得する必要があります。

国際言語コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考	
			必修	選択		
教科に関する科目 二〇単位以上	英語学	英語学入門		2	うち1科目以上 上選択必修	
		英語の科学		2		
		翻訳(英語)A		2		
		翻訳(英語)B		2		
		英語と社会		2		
		世界のさまざまな英語		2		
		英語における女性語		2		
		英語の丁寧表現		2		
		コンピュータ利用の英語研究		2		
		日英語会話分析		2		
		英語音声学		2		
		英語と心理		2		
		英語学研究ⅠA		2		
		英語学研究ⅠB		2		
		英語学研究ⅡA		2		
	英語学研究ⅡB		2			
	英米文学	1	アメリカ文学史A		2	うち1科目以上 上選択必修
			アメリカ文学史B		2	
			英語圏文学を読むA		2	
			英語圏文学を読むB		2	
			スクリーンと文学		2	
			英語圏文学研究ⅠA		2	
			英語圏文学研究ⅠB		2	
			英語圏文学研究ⅡA		2	
	英語圏文学研究ⅡB		2			
	英語コミュニケーション	1	Communicative English(Ⅰ)A		1	うち1科目以上 上選択必修
			Communicative English(Ⅰ)B		1	
			Communicative English(Ⅱ)A		1	
			Communicative English(Ⅱ)B		1	
			Communicative English(Ⅲ)A		1	
Communicative English(Ⅲ)B				1		
Communicative English(Ⅳ)A				1		
Communicative English(Ⅳ)B				1		
Communicative English(Ⅴ)A				1		
Communicative English(Ⅴ)B				1		
翻訳言語論				2		
ビジネスのための英語				2		
Academic English A				2		
Academic English B				2		
Academic English C				2		
Academic English D				2		

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目 二〇単位以上	英語コミュニケーション	Academic English F		2	
		Academic English E		2	
Expressive English A			2		
Expressive English B			2		
Expressive English C			2		
Expressive English D			2		
通訳(英語)A			2		
通訳(英語)B			2		
言語コミュニケーション論			2		
非言語コミュニケーション論			2		
英語とコミュニケーションA			2		
英語とコミュニケーションB			2		
異文化コミュニケーション論A			2		
異文化コミュニケーション論B			2		
異文化コミュニケーション研究ⅠA			2		
異文化コミュニケーション研究ⅠB			2		
異文化コミュニケーション研究ⅡA		2			
異文化コミュニケーション研究ⅡB		2			
異文化理解	1	日米異文化論		2	うち1科目以上選択必修
		異文化適応論		2	
		アメリカ史		2	
		アメリカ現代社会		2	
		アメリカ社会の諸問題A		2	
		アメリカ社会の諸問題B		2	
		アメリカ文化論		2	
		対照言語学		2	
		ライフスタイル論Ⅰ(米国)		2	
		ライフスタイル論Ⅱ(豪州)		2	
	アメリカの人種民族問題A		2		
	アメリカの人種民族問題B		2		
	ポップカルチャーの理論		2		
	アメリカのビジネス		2		
	アメリカ映画論A		2		
	アメリカ映画論B		2		
	アメリカの政治と社会		2		
	日米比較社会研究ⅠA		2		
	日米比較社会研究ⅠB		2		
	日米比較社会研究ⅡA		2		
	日米比較社会研究ⅡB		2		
	アメリカ大衆文化研究ⅠA		2		
	アメリカ大衆文化研究ⅠB		2		
	アメリカ大衆文化研究ⅡA		2		
	アメリカ大衆文化研究ⅡB		2		
	日米現代文化研究ⅠA		2		
	日米現代文化研究ⅠB		2		
	日米現代文化研究ⅡA		2		
	日米現代文化研究ⅡB		2		
	アメリカ文化研究ⅠA		2		
	アメリカ文化研究ⅠB		2		
	アメリカ文化研究ⅡA		2		
アメリカ文化研究ⅡB		2			

科目名

…一般的包括的な内容を含む科目

「教科に関する科目」の最低修得単位数は、中一種・高一種とも20単位である。
それに対し、上記の表より選択必修科目を含めた実際の最低修得単位数は中一種・高一種とも8単位となる。



「教科に関する科目」の最低修得単位数20単位を超えるよう、上記の表の科目を修得しなければならない。20単位を超えて修得した「教科に関する科目」の単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位に算入することができる。

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考	
			必修	選択		
教科に関する科目 二〇単位以上	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学概論A		2	うち1科目以上 上選択必修	
		日本語学概論B		2		
		日本語表現法③ （文章分析と表現テクニック）		2		
			シナリオ創作		2	うち1科目以上 上選択必修
			詩歌創作A		2	
			詩歌創作B		2	
			小説創作A		2	
			小説創作B		2	
			日本語の音声と音韻		2	
			日本語文法の基礎A		2	
		日本語文法の基礎B		2		
		日本語の歴史A		2		
		日本語の歴史B		2		
		エッセイ創作A		2		
		エッセイ創作B		2		
		日本語表現研究ⅠA		2		
		日本語表現研究ⅠB		2		
		日本語表現研究ⅡA		2		
		日本語表現研究ⅡB		2		
		国文学（国文学史を含む。）	日本文学史(上代・中古)A		2	うち1科目以上 上選択必修
	日本文学史(上代・中古)B			2		
	日本文学史(中世・近世)A			2	うち1科目以上 上選択必修	
	日本文学史(中世・近世)B			2		
	日本文学史(近代・現代)A			2	うち1科目以上 上選択必修	
	日本文学史(近代・現代)B			2		
	日本文学を読むA			2	うち1科目以上 上選択必修	
	日本文学を読むB			2		
	近代日本文学読解			2		
	現代日本文学読解			2		
	文学の理論A		2			
	文学の理論B		2			
	万葉集読解A		2			
	万葉集読解B		2			
	源氏物語読解A		2			
	源氏物語読解B		2			
	平安朝の生活と文学A		2			
	平安朝の生活と文学B		2			
	中古中世歌人論A		2			
	中古中世歌人論B		2			
	能・狂言		2			
	歌舞伎		2			
	江戸時代の思想と文学		2			
	和歌・俳諧読解		2			
	現代女性文学		2			
	エンターテインメント文化論B		2			
	児童文学A		2			
	児童文学B		2			

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目	1	近現代日本文学研究ⅠA		2	
		近現代日本文学研究ⅠB		2	
		近現代日本文学研究ⅡA		2	
		近現代日本文学研究ⅡB		2	
		中世・近世日本文学研究ⅠA		2	
		中世・近世日本文学研究ⅠB		2	
		中世・近世日本文学研究ⅡA		2	
		中世・近世日本文学研究ⅡB		2	
		古代日本文学研究ⅠA		2	
		古代日本文学研究ⅠB		2	
		古代日本文学研究ⅡA		2	
古代日本文学研究ⅡB		2			
漢文学	1	中国文学A		2	うち1科目以上選択必修
		中国文学B		2	
		中国古典読解A		2	
		中国古典読解B		2	
		中国哲学A		2	
中国哲学B		2			
書道(書写を中心とする。)*	1	書写・書道A		2	中一種のみ 1科目以上選択必修
		書写・書道B		2	

科目名

…一般的包括的な内容を含む科目

「教科に関する科目」の最低修得単位数は、中一種・高一種とも20単位である。それに対し、上記の表より選択必修科目を含めた実際の最低修得単位数は中一種16単位・高一種14単位となる。



「教科に関する科目」の最低修得単位数20単位を超えるよう、上記の表の科目を修得しなければならない。20単位を超えて修得した「教科に関する科目」の単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位に算入することができる。

※「書道(書写を中心とする。)」について

「書道(書写を中心とする。)」の科目区分は、中学校教諭免許状にのみ必要とされる条件なので、授業科目「書写・書道A」「書写・書道B」を修得した場合、中学校教諭免許状については「教科に関する科目」に算入できますが、高等学校教諭免許状については「教科又は教職に関する科目」も含めて一切算入できません。

②教職に関する科目

「教職に関する科目」は、教師として求められる要素や知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。「教職に関する科目」の履修にあたっては、各免許における必修および選択必修等の要件を満たしたうえで、法令上の最低修得単位（中一種31単位以上、高一種23単位以上）を修得する必要があります。

国際言語コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

表現文化学科

中学校教諭一種免許状（国語）・高等学校教諭一種免許状（国語）

資格関係

科目	免許法施行規則に定める科目区分 及び最低修得単位数		本学の開設授業科目				備考			
	科目	各科目に含める必要事項	単位数	中	高	○印：教職必修科目		単位数	配当年次	
教職の意義等に関する科目	2	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○	○	○	教職論	2	1	
教育の基礎理論に関する科目	6	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	○	○	○	教育本質論	2	1	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	6	○	○	○	発達と学習	2	1	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	6	○	○	○	教育制度と社会	2	1	
教育課程及び指導法に関する科目	中一種12 高一種6	・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法	12	○	○	○	カリキュラム論	2	2	
		・道徳の指導法 ※ ・特別活動の指導法	○	○	○	○	英語科の指導法Ⅰ	2	2	中一種（英語）・高一種（英語）必修 中一種（英語）のみ必修
			○	○	○	○	英語科の指導法Ⅱ	2	2	
			○	○	○	○	英語科の指導法Ⅲ	2	3	
			○	○	○	○	英語科の指導法Ⅳ	2	3	
		○	○	○	○	国語科の指導法Ⅰ	2	2	中一種（国語）・高一種（国語）必修 中一種（国語）のみ必修	
		○	○	○	○	国語科の指導法Ⅱ	2	2		
		○	○	○	○	国語科の指導法Ⅲ	2	3		
○	○	○	○	国語科の指導法Ⅳ	2	3				
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	○	○	○	生徒指導と進路指導	2	3	
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	○	○	○	教育相談	2	3	
教育実習	中一種5 高一種3		○	○	○	○	事前及び事後指導	1	3・4	中一種4単位以上、高一種2単位以上選択履修
			○	○	○	○	教育実習	4	3・4	
			○	○	○	○	教育実習A	2	3・4	
			○	○	○	○	教育実習B	2	3・4	
教職実践演習	2	○	○	○	○	教職実践演習（中・高）	2	4		

「教職に関する科目」の最低修得単位数は、中一種31単位、高一種23単位である。それに対し、上の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、中一種31単位、高一種25単位となる。



「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位の単位数に算入することができる。

※「道徳の指導法」について

「道徳の指導法」の科目区分は、中学校教諭免許状にのみ必要とされる条件なので、授業科目「道徳の指導法」を修得した場合、中学校教諭免許状については「教職に関する科目」に算入できますが、高等学校教諭免許状については「教職に関する科目」に算入できません。ただし、「教科又は教職に関する科目」に算入することができます。

「教職に関する科目」に他学部・他学科履修について

「教職に関する科目」の履修にあたっては、所属する学部・学科において同一時限に履修を希望する他の科目がある場合に限り、他学部・他学科（教育学部を除く。）で開講される同一名称の「教職に関する科目」を履修することができます。

通常の履修登録方法とは異なりますので、他学部・他学科での履修を希望する学生は教務課まで相談に来てください。

平成23年度以降入学生

③教科又は教職に関する科目

「教科に関する科目」「教職に関する科目」のうち最低修得単位数を超えて修得した単位数および所定の「教科又は教職に関する科目」の単位数を合わせて中一種は8単位以上、高一種は16単位以上修得しなければなりません。

国際言語コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

免許法施行規則に定める科目区分と単位数	本学の開設授業科目	単位数	備考
教科又は教職に関する科目	介護等体験	1	中一種必修 高一種のみ適用
	道徳の指導法	2	
	海外英語演習A	4	
	海外英語演習B	4	
	Time/Newsweekを読む	2	
中一種8単位	最低修得単位数（中一種・高一種とも20単位）を超えて修得した		
高一種16単位	①「教科に関する科目」		
	最低修得単位数（中一種31単位・高一種23単位）を超えて修得した		
	②「教職に関する科目」		

表現文化学科

中学校教諭一種免許状（国語）・高等学校教諭一種免許状（国語）

免許法施行規則に定める科目区分と単位数	本学の開設授業科目	単位数	備考
教科又は教職に関する科目	介護等体験	1	中一種必修 高一種のみ適用
	道徳の指導法	2	
	日本語表現のデータベース処理A	2	
	日本語表現のデータベース処理B	2	
	日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	2	
	日本語表現法②(日本語の話し方)	2	
	日本語教育方法論A	2	
	日本語教育方法論B	2	
	日本語教育実践論	2	
	東海北陸の言語	2	
	古文書読解	2	
高一種16単位	社会言語学	2	
	書物の文化史	2	
	最低修得単位数（中一種・高一種とも20単位）を超えて修得した		
	①「教科に関する科目」		
	最低修得単位数（中一種31単位・高一種23単位）を超えて修得した		
	②「教職に関する科目」		

平成25年度入学生

④その他の必修
科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定められている科目であり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の科目区分について、各2単位以上修得する必要があります。

国際言語コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）
中学校教諭一種免許状（国語）・高等学校教諭一種免許状（国語）

表現文化学科

免許法施行規則に定める科目区分と単位数	単位数	本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体 育	2	健康運動の科学と実践	2		
外国語コミュニケーション	2	外国語(英語A)		1	うち2科目以上選択必修
		外国語(英語B)		1	
		外国語(ドイツ語A)		1	
		外国語(ドイツ語B)		1	
		外国語(フランス語A)		1	
		外国語(フランス語B)		1	
		外国語(スペイン語A)		1	
		外国語(スペイン語B)		1	
		外国語(中国語A)		1	
		外国語(中国語B)		1	
		ドイツ語(I)A		1	
		ドイツ語(I)B		1	
		ドイツ語(II)A		1	
		ドイツ語(II)B		1	
		ドイツ語(III)A		1	
		ドイツ語(III)B		1	
		ドイツ語(M)A		1	
		ドイツ語(M)B		1	
		ドイツ語(V)A		1	
		ドイツ語(V)B		1	
		フランス語(I)A		1	
		フランス語(I)B		1	
		フランス語(II)A		1	
フランス語(II)B		1			
フランス語(III)A		1			
フランス語(III)B		1			
フランス語(M)A		1			
フランス語(M)B		1			
フランス語(V)A		1			
フランス語(V)B		1			
情報機器の操作	2	コンピュータと情報 コンピュータと情報 I コンピュータと情報 II	2 2 2		

④その他の必修
科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定められている科目であり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の科目区分について、各2単位以上修得する必要があります。

国際言語コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

中学校教諭一種免許状（国語）・高等学校教諭一種免許状（国語）

表現文化学科

免許法施行規則に定める科目区分と単位数		本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体育	2	健康運動の科学と実践	2		
外国語コミュニケーション	2	英語A		1	うち2科目以上選択必修
		英語B		1	
		ドイツ語A		1	
		ドイツ語B		1	
		フランス語A		1	
		フランス語B		1	
		スペイン語A		1	
		スペイン語B		1	
		中国語A		1	
		中国語B		1	
		ドイツ語(I)A		1	
		ドイツ語(I)B		1	
		ドイツ語(II)A		1	
		ドイツ語(II)B		1	
		ドイツ語(III)A		1	
		ドイツ語(III)B		1	
		ドイツ語(M)A		1	
		ドイツ語(M)B		1	
		ドイツ語(V)A		1	
		ドイツ語(V)B		1	
		フランス語(I)A		1	
		フランス語(I)B		1	
フランス語(II)A		1			
フランス語(II)B		1			
フランス語(III)A		1			
フランス語(III)B		1			
フランス語(M)A		1			
フランス語(M)B		1			
フランス語(V)A		1			
フランス語(V)B		1			
情報機器の操作	2	コンピュータと情報 コンピュータと情報 I コンピュータと情報 II	2	2 2	

平成22年度入学生

①教科に関する科目

「教科に関する科目」は、その教科の担当者として求められる知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により教科ごとに修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。網掛けの授業科目は、その科目区分における「一般的包括的な内容を含む科目」（各科目区分において修得すべき内容を網羅的に取り扱う科目）であり、免許取得要件上、必修もしくは選択必修として設定されています。「教科に関する科目」の履修にあたっては、必修および選択必修の要件を満たしたうえで、法令上の最低修得単位（中一種、高一種ともに20単位以上）を修得する必要があります。

国際言語コミュニケーション学科 中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考	
			必修	選択		
教科に関する科目 二〇単位以上	英語学	英語学入門		2	うち1科目以上 選択必修	
		英語の科学		2		
		英語と社会		2		
		世界のさまざまな英語		2		
		英語における女性語		2		
		英語の丁寧表現		2		
		コンピュータ利用の英語研究		2		
		日英語会話分析		2		
		英語音声学		2		
		英語と心理		2		
		英語学研究ⅠA		2		
		英語学研究ⅠB		2		
		英語学研究ⅡA		2		
		英語学研究ⅡB		2		
	翻訳(英語)A		2			
	翻訳(英語)B		2			
	英米文学	1	アメリカ文学史A		2	うち1科目以上 選択必修
			アメリカ文学史B		2	
			英語圏文学を読むA		2	
			英語圏文学を読むB		2	
			スクリーンと文学		2	
			英語圏文学研究ⅠA		2	
			英語圏文学研究ⅠB		2	
	英語圏文学研究ⅡA		2			
	英語圏文学研究ⅡB		2			
	英語コミュニケーション	1	Communicative English(I)A		1	うち1科目以上 選択必修
			Communicative English(I)B		1	
Communicative English(II)A				1		
Communicative English(II)B				1		
Communicative English(III)A				1		
Communicative English(III)B				1		
Communicative English(M)A				1		
Communicative English(M)B				1		
Communicative English(V)A				1		
Communicative English(V)B				1		
Academic English A				2		
Academic English B				2		
Academic English C				2		
Academic English D				2		
Academic English E				2		
Academic English F				2		

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考	
			必修	選択		
教科に関する科目 二〇単位以上	英語コミュニケーション	Expressive English A		2		
		Expressive English B		2		
		Expressive English C		2		
		Expressive English D		2		
		言語コミュニケーション論		2		
		非言語コミュニケーション論		2		
		英語とコミュニケーションA		2		
		英語とコミュニケーションB		2		
		異文化コミュニケーション論A		2		
		異文化コミュニケーション論B		2		
		異文化コミュニケーション研究ⅠA		2		
		異文化コミュニケーション研究ⅠB		2		
		異文化コミュニケーション研究ⅡA		2		
		異文化コミュニケーション研究ⅡB		2		
		通訳(英語)A		2		
		通訳(英語)B		2		
	翻訳言語論		2			
	ビジネスのための英語		2			
	異文化理解	1	日米異文化論		2	うち1科目以上 選択必修
			異文化適応論		2	
			アメリカ史		2	
			アメリカ現代社会		2	
			アメリカ文化論		2	
			アメリカ社会の諸問題A		2	
			アメリカ社会の諸問題B		2	
			アメリカの人種民族問題A		2	
			アメリカの人種民族問題B		2	
			ライフスタイル論Ⅰ(米国)		2	
			ライフスタイル論Ⅱ(豪州)		2	
			ポップカルチャーの理論		2	
			アメリカのビジネス		2	
			アメリカ映画論A		2	
			アメリカ映画論B		2	
アメリカの政治と社会				2		
対照言語学				2		
日米比較社会研究ⅠA		2				
日米比較社会研究ⅠB		2				
日米比較社会研究ⅡA		2				
日米比較社会研究ⅡB		2				
アメリカ大衆文化研究ⅠA		2				
アメリカ大衆文化研究ⅠB		2				
アメリカ大衆文化研究ⅡA		2				
アメリカ大衆文化研究ⅡB		2				
日米現代文化研究ⅠA		2				
日米現代文化研究ⅠB		2				
日米現代文化研究ⅡA		2				
日米現代文化研究ⅡB		2				
アメリカ文化研究ⅠA		2				
アメリカ文化研究ⅠB		2				
アメリカ文化研究ⅡA		2				
アメリカ文化研究ⅡB		2				

科目名

…一般的包括的な内容を含む科目

「教科に関する科目」の最低修得単位数は、中一種・高一種とも20単位である。
それに対し、上記の表より選択必修科目を含めた実際の最低修得単位数は中一種・高一種とも8単位となる。



「教科に関する科目」の最低修得単位数20単位を超えるよう、上記の表の科目を修得しなければならない。20単位を超えて修得した「教科に関する科目」の単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位に算入することができる。

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目 二〇単位以上	1 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学概論A		2	} うち1科目以上 上選択必修
		日本語学概論B		2	
		日本語の音声と音韻		2	} うち1科目以上 上選択必修
		日本語文法の基礎A		2	
		日本語文法の基礎B		2	
		日本語の歴史A		2	
		日本語の歴史B		2	
		日本語表現法③ （文章分析と表現テクニック）		2	
		シナリオ創作		2	
		詩歌創作A		2	
		詩歌創作B		2	
		小説創作A		2	
		小説創作B		2	
		エッセイ創作A		2	
		エッセイ創作B		2	
		日本語表現研究ⅠA		2	
		日本語表現研究ⅠB		2	
日本語表現研究ⅡA		2			
日本語表現研究ⅡB		2			
1 国文学（国文学史を含む。）	日本文学を読むA		2	} うち1科目以上 上選択必修	
	日本文学を読むB		2		
	近代日本文学読解		2		
	現代日本文学読解		2	} うち1科目以上 上選択必修	
	文学の理論A		2		
	文学の理論B		2		
	日本文学史(上代・中古)A		2	} うち1科目以上 上選択必修	
	日本文学史(上代・中古)B		2		
	日本文学史(中世・近世)A		2	} うち1科目以上 上選択必修	
	日本文学史(中世・近世)B		2		
	日本文学史(近代・現代)A		2	} うち1科目以上 上選択必修	
	日本文学史(近代・現代)B		2		
	万葉集読解A		2		
	万葉集読解B		2		
	源氏物語読解A		2		
	源氏物語読解B		2		
	平安朝の生活と文学A		2		
	平安朝の生活と文学B		2		
	中古中世歌人論A		2		
	中古中世歌人論B		2		
	能・狂言		2		
	歌舞伎		2		
江戸時代の思想と文学		2			
和歌・俳諧読解		2			
現代女性文学		2			
エンターテインメント文化論B		2			
児童文学A		2			
児童文学B		2			

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	大学の開設授業科目	単位数		備考	
			必修	選択		
教科に関する科目 二〇単位以上	国文学(国文学史を含む。)	1	近現代日本文学研究ⅠA		2	
		近現代日本文学研究ⅠB		2		
		近現代日本文学研究ⅡA		2		
		近現代日本文学研究ⅡB		2		
		中世・近世日本文学研究ⅠA		2		
		中世・近世日本文学研究ⅠB		2		
		中世・近世日本文学研究ⅡA		2		
		中世・近世日本文学研究ⅡB		2		
		古代日本文学研究ⅠA		2		
		古代日本文学研究ⅠB		2		
		古代日本文学研究ⅡA		2		
古代日本文学研究ⅡB		2				
漢文学	1	中国文学A		2	うち1科目以上選択必修	
		中国文学B		2		
		中国古典読解A		2		
		中国古典読解B		2		
		中国哲学A		2		
中国哲学B		2				
書道(書写を中心とする。)※	1	書写・書道A		2	中一種のみ 1科目以上選択必修	
		書写・書道B		2		

科目名

…一般的包括的な内容を含む科目

「教科に関する科目」の最低修得単位数は、中一種・高一種とも20単位である。それに対し、上記の表より選択必修科目を含む実際の最低修得単位数は中一種18単位・高一種16単位となる。



「教科に関する科目」の最低修得単位数20単位を超えるよう、上記の表の科目を修得しなければならない。20単位を超えて修得した「教科に関する科目」の単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位に算入することができる。

※「書道(書写を中心とする。)」について

「書道(書写を中心とする。)」の科目区分は、中学校教諭免許状にのみ必要とされる条件なので、授業科目「書写・書道A」「書写・書道B」を修得した場合、中学校教諭免許状については「教科に関する科目」に算入できますが、高等学校教諭免許状については「教科又は教職に関する科目」も含めて一切算入できません。

平成22年度入学生

②教職に関する科目

「教職に関する科目」は、教師として求められる要素や知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。「教職に関する科目」の履修にあたっては、各免許における必修および選択必修等の要件を満たしたうえで、法令上の最低修得単位（中一種31単位以上、高一種23単位以上）を修得する必要があります。

国際言語コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）
 中学校教諭一種免許状（国語）・高等学校教諭一種免許状（国語）

表現文化学科

科目	免許法施行規則に定める科目区分 及び最低修得単位数		本学の開設授業科目				備考		
	科目	各科目に含める必要事項	単位数	中	高	○印：教職必修科目		単位数	配当年次
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○	○	○	教職論	2	1	
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	○	○	○	教育本質論	2	1	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		○	○	○	子どもの発達と学習	2	1	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○	○	○	教育制度と社会	2	1	
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法	中一種 12 高一種 6	○	○	○	カリキュラム論	2	2	
			○	○	○	英語科の指導法Ⅰ	2	2	中一種(英語)・高一種(英語)必修 中一種(英語)のみ必修
			○	○	○	英語科の指導法Ⅱ	2	3	
			○	○	○	英語科の指導法Ⅲ	2	3	
			○	○	○	英語科の指導法Ⅳ	2	3	
			○	○	○	国語科の指導法Ⅰ	2	2	中一種(国語)・高一種(国語)必修 中一種(国語)のみ必修
			○	○	○	国語科の指導法Ⅱ	2	2	
○		○	○	国語科の指導法Ⅲ	2	3			
	○	○	○	国語科の指導法Ⅳ	2	3			
	○	×	○	道徳の指導法 ※	2	2	中一種のみ適用		
	・特別活動の指導法		○	○	○	特別活動の指導法	2	2	
	・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		○	○	○	教育の方法と技術	2	2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	○	○	○	生徒指導の研究	2	3	進路指導の理論及び方法を含む
	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○	○	○	教育相談の研究	2	3	
教育実習		中一種 5 高一種 3	○	○	○	事前及び事後指導	1	3・4	
			○	○	○	教育実習A	2	3・4	
			○	○	○	教育実習B	2	4	
教職実践演習		2	○	○	○	教職実践演習(中・高)	2	4	

「教職に関する科目」の最低修得単位数は、中一種31単位、高一種23単位である。それに対し、上の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、中一種31単位、高一種25単位となる。



「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位の単位数に算入することができる。

※「道徳の指導法」について

「道徳の指導法」の科目区分は、中学校教諭免許状にのみ必要とされる条件なので、授業科目「道徳の指導法」を修得した場合、中学校教諭免許状については「教職に関する科目」に算入できますが、高等学校教諭免許状については「教職に関する科目」に算入できません。ただし、「教科又は教職に関する科目」に算入することができます。

「教職に関する科目」に他学部・他学科履修について

「教職に関する科目」の履修にあたっては、所属する学部・学科において同一時限に履修を希望する他の科目がある場合に限り、他学部・他学科（教育学部を除く。）で開講される同一名称の「教職に関する科目」を履修することができます。

通常の履修登録方法とは異なりますので、他学部・他学科での履修を希望する学生は教務課まで相談に来てください。

平成22年度入学生

③教科又は教職に関する科目

「教科に関する科目」「教職に関する科目」のうち最低修得単位数を超えて修得した単位数および所定の「教科又は教職に関する科目」の単位数を合わせて中一種は8単位以上、高一種は16単位以上修得しなければなりません。

国際言語コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

免許法施行規則に定める科目区分と単位数	本学の開設授業科目	単位数	備考
教科又は教職に関する科目	介護等体験	1	中一種必修 高一種のみ適用
	道徳の指導法	2	
	海外英語演習A	4	
	海外英語演習B	4	
	Time/Newsweekを読む	2	
中一種8単位	最低修得単位数（中一種・高一種とも20単位）を超えて修得した		
高一種16単位	①「教科に関する科目」		
	最低修得単位数（中一種31単位、高一種23単位）を超えて修得した		
	②「教職に関する科目」		

表現文化学科

中学校教諭一種免許状（国語）・高等学校教諭一種免許状（国語）

免許法施行規則に定める科目区分と単位数	本学の開設授業科目	単位数	備考
教科又は教職に関する科目	介護等体験	1	中一種必修 高一種のみ適用
	道徳の指導法	2	
	日本語表現のデータベース処理A	2	
	日本語表現のデータベース処理B	2	
	日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	2	
	日本語表現②(日本語の話し方)	2	
	日本語教育方法論A	2	
	日本語教育方法論B	2	
	日本語教育実践論	2	
	東海北陸の言語	2	
	古文書読解	2	
	社会言語学	2	
	書物の文化史	2	
中一種8単位	最低修得単位数(中一種・高一種とも20単位)を超えて修得した		
高一種16単位	①「教科に関する科目」		
	最低修得単位数(中一種31単位、高一種23単位)を超えて修得した		
	②「教職に関する科目」		

平成22年度入学生

④その他の必修
科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定められている科目であり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の科目区分について、各2単位以上修得する必要があります。

国際言語コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

中学校教諭一種免許状（国語）・高等学校教諭一種免許状（国語）

表現文化学科

免許法施行規則に定める科目区分と単位数	単位数	大学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体育	2	健康運動の科学と実践	2		
外国語コミュニケーション	2	英語A		1	うち2科目以上選択必修
		英語B		1	
		ドイツ語A		1	
		ドイツ語B		1	
		フランス語A		1	
		フランス語B		1	
		スペイン語A		1	
		スペイン語B		1	
		中国語A		1	
		中国語B		1	
		ドイツ語(I)A		1	
		ドイツ語(I)B		1	
		ドイツ語(II)A		1	
		ドイツ語(II)B		1	
		ドイツ語(III)A		1	
		ドイツ語(III)B		1	
		ドイツ語(IV)A		1	
		ドイツ語(IV)B		1	
		ドイツ語(V)A		1	
		ドイツ語(V)B		1	
		フランス語(I)A		1	
		フランス語(I)B		1	
		フランス語(II)A		1	
フランス語(II)B		1			
フランス語(III)A		1			
フランス語(III)B		1			
フランス語(IV)A		1			
フランス語(IV)B		1			
フランス語(V)A		1			
フランス語(V)B		1			
情報機器の操作	2	コンピュータと情報 コンピュータと情報 I コンピュータと情報 II	2	2 2	

10. 学芸員

1. 学芸員とは 学芸員は、「博物館法」に定められた、博物館に置かれる専門的職員です。その職務については、博物館資料の収集・整理、保管・保存、展示・活用および調査研究、その他教育普及活動等、博物館資料と関連する事業と定められています。
- 近年、各地に多種多様な博物館および博物館相当施設（国・公・私立）が設けられつつあり、有能な社会教育専門職員としての学芸員が求められています。
2. 学芸員資格取得について ①博物館法第5条第1項第1号「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」に基づき、学則第24条の2により、学芸員資格修得に関する科目を設けています。
- ②本学において学芸員資格を取得しようとする者は、学則別表第8に規定する科目を履修し、単位を修得しなければなりません。所定の単位を修得した者に対して、卒業時に「学芸員資格証明書」を交付します。
- ③科目履修にあたっては、1年次後期に実施されるガイダンスを受け、履修費を2年次4月の指定期日までに納入し、履修登録をしなければなりません。
3. 「博物館実習」 ①学芸員資格を得るために必要な科目の単位修得見込者で、博物館からの実習許可を得た者を対象に「博物館実習」を実施します。
- ②「博物館実習」は、「博物館概論」「博物館資料論*」「博物館経営論*」の授業内容を基礎として体系的に行うので、以上の科目を3年次までに履修した学生を対象とします。
- ※平成22年度入学生・平成24年度編入学生においては、それぞれ、「博物館学各論Ⅰ」、「博物館学各論Ⅱ」。
- ③「博物館実習」では、館務実習（事前・事後指導、見学、巡検、調査、実技、実務）のため学内実務実習・見学実習・学外実務実習を行います。実習先は県内の博物館のほか、他県でも行うことがあります（交通費・宿泊費などは個人負担となります）。実習を無断で欠席した場合は、原則として失格とします。
- ④学内実務実習は、原則として、火曜日3・4時限に実施します。他の授業と重複しないように注意してください。また、毎回、各実習においてレポート課題があります。
4. ガイダンス 1年次後期（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できません。
5. 履修費 25,000円（2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の学芸員資格取得について 他大学または短期大学からの3年次編入学生で、学芸員資格取得を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。
- ※3年次4月にガイダンスを受け、履修費を指定期日までに納入する必要があります。

7. 学芸員資格 (学則別表第8)

取得に関する (平成24年度以降入学生適用)

※○付数字は必修単位数

科目

系列	最低必修単位	本学開講授業科目	単位数	適用学科	開講年次	備考		
学芸員資格取得に関する科目	生涯学習概論	2	必修9系列19単位	社会教育研究 (生涯学習を含む。)	②	全学科	3・4	資格専門
	博物館概論	2		博物館概論	②	全学科	2・3	資格専門
	博物館経営論	2		博物館経営論	②	全学科	2・3	資格専門
	博物館資料論	2		博物館資料論	②	全学科	2・3	資格専門
	博物館資料保存論	2		博物館資料保存論	②	全学科	2-4	資格専門
	博物館展示論	2		博物館展示論	②	全学科	2-4	資格専門
	博物館教育論	2		博物館教育論	②	全学科	2-4	資格専門
	博物館情報・メディア論	2		博物館情報・メディア論	②	全学科	2-4	資格専門
	博物館実習	3		博物館実習	③	全学科	4	資格専門

資格関係

(学則別表第8)

〈平成23年度入学生・平成25年度編入学生適用〉

※○付数字は必修単位数

系列		最低必修単位	本学開講授業科目	単位数	適用学科	開講年次	
学 芸 員 資 格 取 得 に 関 す る 科 目	博 物 館 概 論	2	博物館概論	②	全学科	2・3	
	博物館経営論	1					
	博物館資料論	2					
	博物館情報論	1	8系列	博物館資料論	②	全学科	2・3
	教育 学 概 論	1	12 単 位 以 上	教育本質論	②	国際言語コミュニケーション 表現文化	2-4
	生涯学習概論	1		社会教育研究(生涯学習を含む。)	②	全学科	3・4
	視聴覚教育 メディア論	1		博物館情報・メディア論	②	全学科	2-4
	博 物 館 実 習	3		博物館実習	③	全学科	4
	文 化 史	選 択 2 系 列 以 上	8 単 位 以 上	日本文化史	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-3
				日本伝統文化論A	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4
				日本伝統文化論B	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4
		美 術 史	8 単 位 以 上	西洋美術史	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4
				文化人類学	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4
				環 境 の 科 学	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4
人 間 と 自 然 科 学				2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4	
生 物 学	2	生命の科学	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4		

※「教育本質論」は、学芸員資格取得の課程においては2年次の配当科目なので、1年次には履修することはできません。ただし、教職課程においては1年次の配当科目なので、教職課程履修者は1年次に履修可能です。

※選択科目のうち、他学部他学科開放科目から履修できる科目があります。その科目を履修し、修得した場合には選択科目として算入できます。ただし、その科目を卒業に必要な単位数に含めることはできません。詳細は履修登録期間に教務課までお問い合わせください。

資格関係

(学則別表第8)

(平成22年度以前入学生・平成24年度編入学生適用)

※○付数字は必修単位数

系列	最低必修単位数	本学開講授業科目	単位数	適用学科	開講年次	
学 芸 員 資 格 取 得 に 関 す る 科 目	博物館概論	2	博物館概論	②	全学科	2・3
	博物館経営論	1	博物館学各論 I	②	全学科	2・3
	博物館資料論	2				
	博物館情報論	1	博物館学各論 II	②	全学科	2・3
	教育学概論	1	教育本質論	②	国際言語コミュニケーション 表現文化	2-4
	生涯学習概論	1	社会教育研究(生涯学習を含む。)	②	全学科	3・4
	視聴覚教育 メディア論	1	視聴覚教育メディア論	②	全学科	2-4
	博物館実習	3	博物館実習	③	全学科	4
	文 化 史	選 択 2 系 列 以 上 8 単 位 以 上	日本文化史	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-3
			日本伝統文化論 A	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4
	日本伝統文化論 B		2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4	
	美 術 史	選 択 2 系 列 以 上 8 単 位 以 上	西洋美術史	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4
	民 俗 学		文化人類学	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4
	化 学		環境の科学	2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4
物 理	人間と自然科学		2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4	
生 物 学	生命の科学		2	国際言語コミュニケーション 表現文化	1-4	

※「教育本質論」は、学芸員資格取得の課程においては2年次の配当科目なので、1年次には履修することはできません。ただし、教職課程においては1年次の配当科目なので、教職課程履修者は1年次に履修可能です。

※選択科目のうち、他学部他学科開放科目から履修できる科目があります。その科目を履修し、修得した場合には選択科目として算入できます。ただし、その科目を卒業に必要な単位数に含めることはできません。詳細は履修登録期間に教務課までお問い合わせください。

11. 日本語教員

- | | |
|--------------------------|--|
| 1. 日本語教員
資格とは | <p>日本語教員とは、日本語を母語としない人（主として外国人）に、日本語を教える資格（能力）を有する者のことを言います。文部科学省認定の「日本語教育能力検定試験」がありますが、本学の養成コースではその試験を含めて日本語教育能力を養うことを目標とします。</p> <p>この資格（能力）を有すると、日本国内の大学、民間の日本語学校等の日本語教育機関、特別の外国人に特定された教育機関・施設（技術研修生、外国人子弟等対象）等の日本語教員となったり、さらに国際交流基金による海外の日本語教員機関への日本語教育専門家としての派遣などの活躍が期待されます。</p> <p>近年、日本語を学ぶ外国人が急増するに伴って有能な日本語教員の需要が増え、日本語教員養成の重要性が一層高まってきています。そこで、本学部では日本語教員資格のための科目を開設しています。</p> <p>学則第24条の3による日本語教員資格取得に関する授業科目を履修しようとする者は、2年次に履修費を指定期日までに所定の振込用紙で納入し、履修登録をしなければなりません（ただし、2年次編入学生は2年次に登録、3年次編入学生は3年次に登録）。</p> |
| 2. 日本語教員と
なるための
資格 | <p>学則別表第8-2により、所定の科目の単位を修得した者に対して、日本語教員となる資格の取得に必要な科目の単位を修得したことを本学が証明する「日本語教育課程修了証明書」を交付します。</p> |
| 3. ガイダンス | <p>2年次4月上旬（日程は掲示で通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、原則履修できません。</p> |
| 4. 履修費 | <p>15,000円（2年次前期履修登録時期に納入）</p> |

日本語教育課程

(学則別表第8-2)

(平成21年度以降入学生適用)

資格関係

日本語教育に必要な知識・能力の科目区分	国際コミュニケーション学部 開講授業科目	科目区分	単位	必修 単位数	開講年次	備考
						最低修得単位数
日本語の構造に関する体系的、具体的な知識	日本語の音声と音韻	共通	2		1～4年	4科目8単位以上 選択履修
	日本語文法の基礎A	共通	2		1～4年	
	日本語文法の基礎B	共通	2		1～4年	
	日本語の歴史A	共通	2		1～4年	
	日本語の歴史B	共通	2		1～4年	
	日本語学概論A	共通	2		1～4年	
日本人の言語生活等に関する知識・能力	日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	共通	2		1～4年	4科目8単位以上 選択履修
	日本語表現法②(日本語の話し方)	共通	2		1～4年	
	日本語表現法③(文章分析と表現テクニック)	共通	2		1～4年	
	日本語表現のデータベース処理A	共通	2		1～4年	
	日本語表現のデータベース処理B	共通	2		1～4年	
	詩歌創作A	表現	2		2～4年	
	詩歌創作B	表現	2		2～4年	
	小説創作A	表現	2		2～4年	
	小説創作B	表現	2		2～4年	
	エッセイ創作A	表現	2		2～4年	
	エッセイ創作B	表現	2		2～4年	
日本事情	書物の文化史	共通	2		1～4年	4科目8単位以上 選択履修
	日本伝統文化論A	共通	2		1～4年	
	日本伝統文化論B	共通	2		1～4年	
	映像文化論A	表現	2		2～4年	
	映像文化論B	表現	2		2～4年	
	マンガ文化論	表現	2		2～4年	
	現代風俗文化論	表現	2		2～4年	
	現代マスコミ論	表現	2		2～4年	
	日中比較文化論	共通	2		1～4年	
日本文化史	共通	2		1～4年		
日米異文化論	共通	2		2～4年		
日欧比較文化論	言語・表現	2		1～4年		
言語学的知識・能力	社会言語学	共通	2		1～4年	5科目10単位以上 選択履修
	対照言語学	共通	2		1～4年	
	言語と文化	共通	2		1～4年	
	言語と社会	共通	2		1～4年	
	東海北陸の言語	共通	2		1～4年	
	翻訳言語論	共通	2		1～4年	
	言語	教養	2		1～4年	
	英語学入門	言語	2		2～4年	
	英語の科学	言語	2		2～4年	
	英語と社会	言語	2		2～4年	
	言語コミュニケーション論	言語・表現	2		2～4年	
ヨーロッパの民族と言語	言語・表現	2		2～4年		
日本語の教授に関する知識・能力	日本語教材・教具研究A	共通	2	2	1～4年	6科目11単位必修
	日本語教材・教具研究B	共通	2	2	1～4年	
	日本語教授法演習	共通	1	1	2～4年	
	日本語教育方法論A	共通	2	2	1～4年	
	日本語教育方法論B	共通	2	2	1～4年	
	日本語教育実践論	共通	2	2	2～4年	

資格取得要件：必修単位数を含めて合計45単位以上を履修すること

注)「日本語教授法演習」および「日本語教育実践論」は、「日本語教育方法論A」および「日本語教育方法論B」を修得済みの者に限り履修できます。

日本語教育課程

(学則別表第8-2)

(平成19年度入学生・平成20年度入学生適用)

日本語教員に必要な知識・能力の科目区分	国際コミュニケーション学部 開講授業科目	科目区分	単位	必修 単位数	開講年次	備考
						最低修得単位数
日本語の構造に関する体系的、具体的な知識	日本語の音声と音韻	共通	2		1～4年	6科目12単位以上 選択履修
	日本語文法の基礎A	共通	2		1～4年	
	日本語文法の基礎B	共通	2		1～4年	
	日本語の歴史A	共通	2		1～4年	
	日本語の歴史B	共通	2		1～4年	
	日本語学概論A	共通	2		1～4年	
日本人の言語生活等に関する知識・能力	日本語表現法①(ビジネス文書等の作成)	共通	2		1～4年	3科目6単位以上 選択履修
	日本語表現法②(日本語の話し方)	共通	2		1～4年	
	日本語表現法③(文章分析と表現テクニック)	共通	2		1～4年	
	日本語表現のデータベース処理A	共通	2		1～4年	
	日本語表現のデータベース処理B	共通	2		1～4年	
	詩歌創作A	表現	2		2～4年	
	詩歌創作B	表現	2		2～4年	
	小説創作A	表現	2		2～4年	
	小説創作B	表現	2		2～4年	
	エッセイ創作A	表現	2		2～4年	
日本事情	書物の文化史	共通	2		1～4年	3科目6単位以上 選択履修
	日本伝統文化論A	共通	2		1～4年	
	日本伝統文化論B	共通	2		1～4年	
	映像文化論A	表現	2		2～4年	
	映像文化論B	表現	2		2～4年	
	マンガ文化論	表現	2		2～4年	
	現代風俗文化論	表現	2		2～4年	
	現代マスコミ論	表現	2		2～4年	
	日中比較文化論	共通	2		1～4年	
	日本文化史	共通	2		1～4年	
言語学的知識・能力	社会言語学	共通	2		1～4年	5科目10単位以上 選択履修
	対照言語学	共通	2		1～4年	
	言語と文化	共通	2		1～4年	
	言語と社会	共通	2		1～4年	
	東海北陸の言語	共通	2		1～4年	
	翻訳言語論	共通	2		1～4年	
	言語	教養	2		1～4年	
	英語学入門	言語	2		2～4年	
	英語の科学	言語	2		2～4年	
	英語と社会	言語	2		2～4年	
日本語の教授に関する知識・能力	言語コミュニケーション論	言語・表現	2		2～4年	6科目11単位必修
	ヨーロッパの民族と言語	言語・表現	2		2～4年	
	日本語教材・教員研究A	共通	2	2	1～4年	
	日本語教材・教員研究B	共通	2	2	1～4年	
	日本語教授法演習	共通	1	1	2～4年	
	日本語教育方法論A	共通	2	2	1～4年	
日本語教育方法論B	共通	2	2	1～4年		
日本語教育実践論	共通	2	2	2～4年		

資格取得要件：必修単位数を含めて合計45単位以上を履修すること

注)「日本語教授法演習」および「日本語教育実践論」は、「日本語教育方法論A」および「日本語教育方法論B」を修得済みの者に限り履修できます。

資格関係

12. 司 書

1. 司書資格とは 「司書」は、図書館の専門的職務に従事するために必要な資格として、図書館法によって規定されています。図書館法とは、地方公共団体によって設置された、いわゆる公立図書館の運営に関して必要な事項を定める法律です。図書館における専門的職務としては、図書館資料の収集、組織化、保持、そして貸出・閲覧サービスやレファレンス情報サービスなどがあげられます。図書館職員が、これらの図書館サービスを十分に展開するにあたって、司書の資格は重要な要件であると考えられています。
- 司書の資格が図書館法によって規定されているということは、基本的には司書の資格は公立図書館職員の専門資格であるということです。しかしながら、大学図書館、学校図書館、専門図書館や企業の情報資料室、さらに国立国会図書館の職員採用においても、司書資格を重視しているところが少なくありません。館種を問わず、図書館で働く専門職員の資格要件として、司書は、一定の社会的評価を得ていると言えます。
2. 司書資格を取得するには 図書館法第5条、第6条には、大学卒程度の教養および、図書館についての専門教育を修得することによって、司書の資格が得られることが規定されています。履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、図書館法施行規則によって定められています。これらの規定に基づき、本学部では、卒業に必要な科目単位数のほかに、司書課程を履修して、学則別表第8-4に掲げられた所定の科目の単位を修得することによって、司書の資格が取得できます。
3. 司書になるには 図書館で司書として実際に働くためには、館種を問わず、目的とする図書館の職員採用試験を受ける必要があります。代表的な例としては、公立図書館に勤務するための都道府県、市町村の職員採用試験、国立大学図書館に勤務するための国立大学法人等職員採用試験および国立国会図書館職員採用試験などがあげられます。このほかにも、企業の情報資料室や私立大学図書館に勤務するための一般的な就職試験など、さまざまなルートがあります。
- 司書として図書館で働く以外にも、書店、出版社、取次店など、書物の出版流通に携わる職業への道が開かれています。
4. ガイダンス 1年次10月下旬（日程は掲示で通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、原則履修できません。
5. 履修費 20,000円（2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の司書課程履修について 他大学または短期大学からの3年次編入学生で、司書課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。

7. 司書資格取得に関する科目（学則別表第8-4）

①平成25年度入学生適用

司書資格取得に関する科目	図書館法施行規則 第4条に定める科目	単位	本学開講授業科目				備考
			科目名	単位数		開講年次	
				必修	選択		
22 単位 必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2		2	資格専門
	図書館概論	2	図書館概論	2		2	資格専門
	図書館制度・経営論	2	生涯学習各論	2		3	資格専門
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2		2	資格専門
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2		2	資格専門
	情報サービス論	2	情報サービス論	2		2	資格専門
	児童サービス論	2	読書と豊かな人間性	2		3	資格専門
	情報サービス演習	2	情報サービス演習A	1		2	資格専門
			情報サービス演習B	1			
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2		2	資格専門
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2		2	資格専門
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習A	1		2	資格専門
情報資源組織演習B			1				
2 科目 2 単位 以上 必修	図書館基礎特論	1	学校経営と学校図書館		2	3	資格専門
	図書館サービス特論	1	学習指導と学校図書館		2	3	資格専門
	図書館情報資源特論	1	デジタルアーカイブ論		2	2	資格専門
	図書・図書館史	1	図書・図書館史特論		2	2	資格専門
	図書館施設論	1	図書館施設演習		1	2	資格専門
	図書館総合演習	1	—	—	—	—	
	図書館実習	1	—	—	—	—	

②平成24年度入学生適用

司書資格取得に関する科目	図書館法施行規則 第4条に定める科目	単位	本学開講授業科目				備考
			科目名	単位数		開講年次	
				必修	選択		
22 単位 必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2		2	資格専門
	図書館概論	2	図書館概論	2		2	資格専門
	図書館制度・経営論	2	生涯学習各論	2		3	資格専門
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2		2	資格専門
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2		2	資格専門
	情報サービス論	2	情報サービス論	2		2	資格専門
	児童サービス論	2	読書と豊かな人間性	2		3	資格専門
	情報サービス演習	2	情報サービス演習	2		2	資格専門
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2		2	資格専門
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2		2	資格専門
2 科目 2 単位 以上 必修	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習	2		2	資格専門
	図書館基礎特論	1	学校経営と学校図書館		2	3	資格専門
	図書館サービス特論	1	学習指導と学校図書館		2	3	資格専門
	図書館情報資源特論	1	デジタルアーカイブ論		2	2	資格専門
	図書・図書館史	1	図書・図書館史特論		2	2	資格専門
	図書館施設論	1	図書館施設演習		1	2	資格専門
	図書館総合演習	1	—	—	—	—	
図書館実習	1	—	—	—	—		

③平成23年度入学生適用

図書館法施行規則 第4条に定める科目		単位	本学開講授業科目				備考	
			科目名	単位数		開講 年次		
				必修	選択			
18 単 位 必 修	生涯学習概論	1	生涯学習概論	2		2		資格専門
	図書館概論	2	図書館概論	2		2		資格専門
	図書館経営論	1	生涯学習各論	2		3		資格専門
	図書館サービス論	2	図書館サービス概論	2		2		資格専門
	情報サービス概説	2	情報サービス論	2		2		資格専門
	レファレンスサービス演習	1	「情報サービス演習」に含まれる					
	情報検索演習	1	情報サービス演習	2		2		資格専門
	図書館資料論	2	図書館情報資源概論	2		2		資格専門
	専門資料論	1	「児童サービス論」に含まれる					
	資料組織概説	2	情報資源組織論	2		2		資格専門
	資料組織演習	2	情報資源組織演習A	1		2		資格専門
			情報資源組織演習B	1		2		資格専門
	児童サービス論	1	児童サービス論	2		2		資格専門
2 科 目 2 単 位 以 上 必 修	図書及び図書館史	1	図書・図書館史特論		2	2		資格専門
	資料特論	1	デジタルアーカイブ論		2	2		資格専門
	コミュニケーション論	1	コミュニケーション論		2	2		人間関係学部
			コミュニケーション論		2	1		文化情報学部
			国際コミュニケーション論		2	3		現代マテリアル学部
			言語コミュニケーション		2	2		国際マテリアル学部
			非言語コミュニケーション		2	2		国際マテリアル学部
			子どもの異文化間教育		2	3		教育学部
			子どもの外国語教育		2	3		教育学部
	情報機器論	1	情報処理論		2	1		文化情報学部
			コンピュータと情報		2	1		国際マテリアル学部
				2	1		人間関係学部	
				2	1		教育学部	
コンピュータと情報Ⅰ		2	1		現代マテリアル学部			
図書館特論	1	—						

資格関係

④平成22年度以前入学生適用

図書館法施行規則 第4条に定める科目		単位	本学開講授業科目				備考	
			科目名	単位数		開講 年次		
				必修	選択			
18 単 位 必 修	生涯学習概論	1	生涯学習論1	2		2		資格専門
	図書館概論	2	社会システム論2	2		2		資格専門
	図書館経営論	1	生涯学習論2	2		3		資格専門
	図書館サービス論	2	図書館サービス論	2		3		資格専門
	情報サービス概説	2	情報サービス概説	2		3		資格専門
	レファレンスサービス演習	1	レファレンスサービス演習	1		2		資格専門
	情報検索演習	1	情報処理演習		1	2	うち1科目 以上必修	資格専門
			データベース演習		1	3		資格専門
			データ解析演習※		1	3		資格専門
	図書館資料論	2	図書館資料論	2		2		資格専門
	専門資料論	1	「児童サービス・資料論」に含まれる					
	資料組織概説	2	資料組織概説	2		2		資格専門
	資料組織演習	2	資料組織演習A	1		2		資格専門
			資料組織演習B	1		2		資格専門
児童サービス論	1	児童サービス・資料論	2		2		資格専門	
2 科 目 2 単 位 以 上 必 修	図書及び図書館史	1	図書及び図書館史		2	2		資格専門
	資料特論	1	デジタルアーカイブ論		2	2		資格専門
	コミュニケーション論	1	コミュニケーション論		2	2		人間関係学部
					2	2		文化情報学部
			国際コミュニケーション論		2	3		現代文初外学部
			言語コミュニケーション		2	2		国際コミュニケーション学部
			非言語コミュニケーション		2	2		国際コミュニケーション学部
			子どもの異文化間教育		2	3		教育学部
			子どもの外国語教育		2	3		教育学部
	情報機器論	1	情報処理論		2	1		文化情報学部
			コンピュータと情報		2	1		人間関係学部
			コンピュータと情報Ⅰ		2	1		国際コミュニケーション学部
					2	1		現代文初外学部
			コンピュータと情報（基礎）		2	1		教育学部
コンピュータと情報A（表計算等）				2	1		教育学部	
コンピュータと情報B（Web作成等）		2	1		教育学部			
図書館特論	1	—						

※文化情報学部生のみ履修可能

13. 司書教諭

1. 司書教諭資格とは
「司書教諭」は、学校図書館法によって規定されている学校図書館の専門職員です。図書館法で定められた司書とは、資格要件も職務の内容も大きく異なっています。端的に言えば、司書教諭は教諭として教育の一端を担います。
学校図書館が学校に設置される目的は、学校図書館法によれば二つあります。一つめは「学校の教育課程の展開に寄与する」ことです。児童・生徒は総合的な学習で「世界の食糧問題」について研究したり、世界史で「ローマ帝国」について学んだりします。現代の学校では、探究型の様々な学習が展開されますが、その成否は学校図書館がどれだけ充実しているかにかかっています。司書教諭は学習センターとしての学校図書館を整備し、教育活動に参画します。
二つめは「児童または生徒の健全な教養を育成する」ことです。子どもの読書離れが深刻化する今日のマルチメディア社会では、読書の意義が再認識されていますが、日々の学校生活の中で、もっとも身近な読書環境である学校図書館の果たす役割は非常に大きいと言えます。強制的にではなく、児童・生徒がくつろぎ、楽しみながら読書ができるような充実した環境を整えることも司書教諭の重要な仕事です。
2. 司書教諭資格を取得するには
司書教諭の資格要件は、学校図書館法第5条に「司書教諭は教諭をもって充てる。この場合において、当該教諭は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない」と定められています。すなわち、司書教諭資格には教員免許の取得が前提になりますので、司書教諭資格を取得したい人は、必ず教職課程を履修し、さらに司書教諭に関する科目を履修することになります。
履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、学校図書館法施行規則によって定められています。これらの規則に基づき、本学では、学則別表第8-6に掲げられた所定の科目を開講していますので、これらの単位をすべて取得してください。
3. 司書教諭になるには
1997年に学校図書館法が改正され、2003年4月より、一定規模以上の学校には司書教諭を置くことが義務づけられました。卒業後に司書教諭として働くには、おもに自治体の教員採用試験を受け、合格する必要があります。合格後は教育委員会による教員配置計画のなかで、司書教諭になるかどうかが決まります。私立学校の場合は別のルートになります。
4. ガイダンス
1年次10月下旬（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、原則履修できません。
5. 編入学生の司書教諭課程履修について
他大学または短期大学からの3年次編入学生で、司書教諭課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。

6. 司書教諭資格取得に関する科目（学則別表第8-6）

①平成23年度以降入学生適用

司書教諭資格取得に関する科目	学校図書館司書教諭 講習規程の科目	単位	本学開講授業科目			備考
			科目名	単位数 必修	開講 年次	
学校図書館メディアの構成	2	情報資源組織論	2	2	資格専門	
		図書館情報資源概論	2	2	資格専門	
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	3	資格専門	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	3	資格専門	
情報メディアの活用	2	メディア・リテラシー	2	2	資格専門	

②平成22年度以前入学生適用

司書教諭資格取得に関する科目	学校図書館司書教諭 講習規程の科目	単位	本学開講授業科目			備考
			科目名	単位数 必修	開講 年次	
学校図書館メディアの構成	2	資料組織概説	2	2	資格専門	
		図書館資料論	2	2	資格専門	
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	2	資格専門	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	2	資格専門	
情報メディアの活用	2	メディア・リテラシー	2	2	資格専門	

14. インターンシップ

1. インターンシップとは
 インターンシップとは、将来適切な職業選択をする上での知識や考え方を学び、大学で身に付けた知識・研究テーマを深めるために、企業や自治体で実際に就業の体験をすることです。
 本学では、夏季及び春季休業中に企業・官公庁・各種団体で2週間から1ヶ月の実習を行い、条件が満たされた場合は単位認定されます。

2. 科目名
 以下の2科目を設け、卒業要件の自由選択の単位に含めることができます（平成22年度以前入学生は含めません）。評価はS～Dの5段階です。
 （学則別表第8～8）

科目区分	授業科目	単位数
インターンシップに関する科目	インターンシップⅠ	1
	インターンシップⅡ	1

3. 単位認定の対象
- 対象実習先
 - ①本学インターンシップ委員会が開拓した実習先
 - ②大学が会員になっている団体の提供する実習先（夏期）
 - ※東海地域インターンシップ推進協議会
 - 岐阜県インターンシップ推進協議会 等
 - ③官公庁
 - ④学生が独自に開拓した実習先（ただし、本学インターンシップ委員会が適当と認めたもの）

- 対象要件
 - ①期間は2週間を標準とし、2週間以下でも本学インターンシップ委員会が適当と認めたもの（実習期間は夏季休業期間、春季休業期間のみとする）
 - ②実習内容が本学インターンシップ委員会ですら適当と評価されたもの
 - ③大学、実習先、（学生）の二者（三者）間で覚書を取り交わしているもの

- 対象学生
 2年生以上を対象とします。ただし、4年生の後期は、評価の都合上対象となりません。
 ※「インターンシップⅠ」・「インターンシップⅡ」の区分など、詳細はガイダンスの際に説明します。

4. ガイダンス
 前期（夏期インターンシップ）のガイダンスを4月、後期（春期インターンシップ）のガイダンスを11月に実施します。ガイダンスに出席しない学生は履修できません。

5. 履修登録
 実習先が確定した際に大学側で登録を行いますので、前期・後期開始時の履修登録の際に、登録の必要はありません。評価が出る時期は、前期（夏期インターンシップ）については12月、後期（春期インターンシップ）については7月の予定です。

6. 履修費
 3,500円（実習先が確定した際に納入）

15. 安全教育に関する科目 安全学（自然災害）

1. 安全学（自然災害）とは

私たちが安心して生活していくためには、私たちの身の回りで発生する様々な災害や危険から身を守っていかねばなりません。これらの災害や危険のうち、特に近い将来発生するであろうと言われている南海トラフ大地震など大規模な自然災害を想定し、災害に対する科学的な知識を得るとともに、常に防災意識を持ち、災害時に的確な判断と適切な行動ができる能力を身につけることを目指して「安全学(自然災害)」を開講します。

この科目は、本学の各専門分野の教員や減災、気象、自治体、NPOなどの専門家がオムニバス形式により様々な角度から授業を行います。

2. 科目名

安全教育に関する科目

科目区分	授業科目	単位数
安全教育に関する科目	安全学（自然災害）	2

3. 授業形態

授業は、より実践的な能力を身につけることができるようにするため、講義だけでなく、演習や実習など多様な授業方法により行います。

また、「キャンパス間双方向授業システム」を利用して星が丘キャンパスと日進キャンパスをネットワークでつなぎ、リアルタイムで教員と学生、学生同士がディスカッションや課題研究に取り組みながら授業を展開し、学生自身が積極的、能動的に学習していきます。

授業は原則、前期の隔週土曜日に2～3時間連続で行います。

4. 単位認定の対象

単位認定は、下記により認定します。

学部	学科	単位認定
生活科学部	管理栄養学科	卒業要件の単位には含めない。
	生活環境デザイン学科	自由選択科目の単位とする。
国際コミュニケーション学部	国際言語コミュニケーション学科	自由選択科目の単位とする。
	表現文化学科	自由選択科目の単位とする。
人間関係学部	人間関係学科	自由選択科目の単位とする。
	心理学科	自由選択科目の単位とする。
文化情報学部	文化情報学科	自由選択科目の単位とする。
	メディア情報学科	自由選択科目の単位とする。
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	卒業要件の単位には含めない。
教育学部	子ども発達学科	自由選択科目の単位とする。

※看護学部の学生は、受講（聴講）はできますが、単位は認定されません。